



Nerdio Manager for Enterprise

実装ガイド



目次

実装ガイド	4
はじめに	4
このガイドの内容 :	4
ステップ 1:インストール:	4
このセクションでは:	4
Azure の権限と Nerdio Manager	5
Nerdio Manager インストールガイド	8
Nerdio Manager Edition 管理	18
サブスクリプションをアクティブ化する	19
Azure 環境: リンクされたネットワークとリソースグループ	22
ユーザーインターフェイス (UI) の概要	26
Nerdio Manager	30
タスクのスケジュールを管理する	35
リソース選択ルール管理	37
ステップ 2:デスクトップイメージ	42
このセクションでは:	42
デスクトップイメージ	42
インポートされたデスクトップイメージの管理とライフサイクルタ スク	43
デスクトップイメージを作成する	45
デスクトップイメージ: Set as Image	54
デスクトップイメージの Scripted Actions	60
ステップ 3:ホストプール	63
このセクションでは:	63
ホストプールの概要	63
ワークスペース管理	64
動的ホストプールの作成	66
ホストプールプロファイルを管理する	74
動的ホストプールの自動スケールを有効にします。	78
個人用ホストプールの自動スケールを有効にします。	92
Auto-scale コスト最適化 セッションホスト VM の OS ディスク ス トレージ	111
動的ホストプールに新しいセッションホストを追加する	113
ホストプール AVD 構成	116
ホストプールの仮想マシン展開	120
ホストプールのユーザー割り当てを管理する	129

ホストプールの Active Directory 設定を構成する	129
プール型ホストプールの「接続時に VM を起動 (Start VM on Connect)」	130
ユーザーセッション時間制限の設定	131
ユーザーにリモートアプリを公開する	135
ステップ 4:ストレージ	142
このセクションでは:	142
Azure Files のファイル共有を、Active Directory ドメインに参加さ せるために必要な権限	142
構成された Azure Files 共有を作成および管理する	145
Azure Files Premium 向け Auto-scale	153
Azure Files 共有の自動スケール履歴	156
構成済みの Azure NetApp Files を作成および管理する	158
Azure NetApp Files の自動スケール	160
Azure NetApp Shares の自動スケール履歴	164
ステップ 5:FSLogix とユーザープロファイルの管理	165
このセクションでは:	166
FSLogix とユーザープロファイルの管理	166
FSLogix の設定と構成	167
ホストプールごとの FSLogix カスタマイズ	172
ホストプール内のインストール済みアプリを管理する	176
ステップ 6:MSIX App Attach	182
このセクションでは:	182
App Attach イメージとパッケージの管理	182
App Attach の割り当てを管理する	189
App Attach の Azure Files アクセス許可を構成する	192
ステップ 7:でのロールベースのアクセス制御 (RBAC)	193
このセクションでは:	193
Nerdio Manager	194
でのロールベースのアクセス制御 (RBAC)カスタムロール	197
でのロールベースのアクセス制御 (RBAC)複数のグループ割り当て	200

実装ガイド

はじめに

*Nerdio Manager for Enterprise 実装ガイド*は、Nerdio Manager for Enterprise のドキュメントを通じたガイド付きの実装パスを提供します。これは、ナレッジベースおよび「セットアップと設定」セクションと並行して、新しい環境をインストール、構成し、ユーザーが利用できるように準備するための推奨される手順です。これは意図的に範囲を絞っています。Nerdio Manager が提供するすべての機能を網羅するのではなく、各ステップからその段階に必要な特定の記事へリンクしています。

ステップバイステップのパスではなく、機能ごとの完全なリファレンス資料をお探しの場合は、ナレッジベースおよびセットアップと設定セクションを参照してください。

実装中に質問がありますか？ サポートチーム (nme.support@getnerdio.com) までお問い合わせください。

このガイドの内容：

- ステップ 1: インストール: (4)
- ステップ 2: デスクトップイメージ (42)
- ステップ 3: ホストプール (63)
- ステップ 4: ストレージ (142)
- ステップ 5: FSLogix とユーザープロファイルの管理 (165)
- ステップ 6: MSIX App Attach (182)
- ステップ 7: でのロールベースのアクセス制御 (RBAC) (193)

ステップ 1: インストール:

Azure 環境の管理を開始する前に、Nerdio Manager アプリケーションをインストールして設定する必要があります。これには、Nerdio Manager に適切な Azure 権限を付与し、インストーラーを実行し、サブスクリプションをアクティブ化し、環境の構築に進む前に管理コンソールに慣れることが含まれます。

このセクションでは:

1. Azure の権限と Nerdio Manager

2. [Nerdio Manager インストールガイド \(8\)](#)
3. [Nerdio Manager エディション管理 \(18\)](#)
4. [サブスクリプションをアクティブ化する \(19\)](#)
5. Azure 環境: リンクされたネットワークとリソースグループ
6. UI の概要
7. [Nerdio Manager Copilot を管理する \(30\)](#)
8. タスクのスケジュールを管理する
9. リソース選択ルール管理

Azure の権限と Nerdio Manager

Nerdio Manager

ヒント

Azure の権限と Nerdio Manager の詳細については、次のドキュメントを参照してください:[Nerdio Manager for Enterprise - 権限](#)。

インストール権限

Nerdio Manager をインストールする Entra ID ユーザーには、以下の権限が必要です:

- Entra ID のグローバル管理者ロール。
- Azure サブスクリプションの所有者ロール。

注記

Nerdio Manager これらの昇格された権限は、初回のインストールおよび構成プロセスにのみ必要であり、の継続的な使用には必要ありません。

Nerdio Manager

サブスクリプション権限

Nerdio Manager は Azure 請求書上でサードパーティサービスとしてライセンス使用量を請求できるようになります。SaaS サブスクリプションオブジェクトを構成すると追加コストがサブスクリプションに含まれるため、構成を完了するユーザーはサブスクリプション所有者である必要があります。

Nerdio Manager

- 購入を完了するユーザー。
- 請求に使用される SaaS サブスクリプションオブジェクト。
- 接続元の Entra ID テナント。

注記

Nerdio Manager これらは、上記の主要なアプリケーションに付与される権限と同じ権限として、請求アプリケーションにも付与されます。

サービス	権限	機能
Microsoft Graph	openid、profile、User.Read (委任)	ユーザーのサインインを許可します (名前と Azure テナント ID が共有されます)。

構成権限

Nerdio Manager 内でいくつかの構成アクションを実行できます。これらのアクションを実行するには、要求元のユーザー (つまり、Nerdio Manager

アクション	必要な権限
リソースグループをリンクする	リクエストを行うユーザーは、リンクされるリソースグループの所有者でなければなりません。
ネットワークをリンクする	リクエストを行うユーザーは、リンクされる VNet(またはその VNet を含むリソースグループ)の所有者でなければなりません。

アクション	必要な権限
	 注記 ログインしているユーザーには、所有者またはユーザーアクセス管理者の権限が必要です。その後、Nerdio のサービスプリンシパルは、リソースグループまたは VNet に対する共同作成者権限を保持します。
追加の Azure サブスクリプションをリンクする	リクエストを行うユーザーは、リンクされるサブスクリプションの所有者でなければなりません。
AVD オブジェクトモデルを Classic から ARM に切り替える	リクエストを行うユーザーは、必要な管理者承諾を付与するために Entra ID のグローバル管理者でなければなりません。
Sepago Azure モニタリングを有効にする	リクエストを行うユーザーは、Log Analytics リソースのデプロイと権限の割り当てのために選択されたリソースグループの所有者でなければなりません。
Azure Files 共有を作成する	リクエストを行うユーザーは、ストレージアカウントのデプロイのために選択されたリソースグループの共同作成者でなければなりません。
Azure NetApp Files ボリュームを作成する	要求元ユーザーは、NetApp アカウントの展開用に選択されたリソースグループ、および NetApp Files サブネットを含む VNet に対する共同作成者である必要があります。
AVD ARM ホストプールを作成する	リクエストを行うユーザーは、ホストプールが作成されるリソースグループの共同作成者でなければなりません。
他のユーザーに Nerdio Manager へのアクセス権を付与する	要求するユーザーは AVD 管理者である必要があります。
以前の AVD デプロイからセッションホスト VM を関連付ける	リクエストを行うユーザーは、VM を含むリソースグループの共同作成者でなければなりません。

継続使用時の権限

Nerdio Manager 経由で管理するための Azure でのユーザー権限は必要ありません。Nerdio Manager 上で実行されます。

 注記

注意 (194) : 利用可能な RBAC ロールがいくつかあります。詳細については、[NME におけるロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) \(194\)](#)を参照してください。

Nerdio Manager インストールガイド

 注記

開始する前に、必ず「Nerdio Manager インストールの準備手順」を参照してください。

このセクションでは、Azure サブスクリプションに Nerdio Manager をインストールし、Nerdio Manager を初期化するプロセスについて説明します。

これらの手順に従うことで、選択したサブスクリプション内の新しいリソースグループ、または空の既存のリソースグループに、ご自身の Azure テナントでエンタープライズアプリケーションを登録します。インストールが完了すると、Nerdio Manager Web アプリケーションにサインインするための URL が提供されます。

Nerdio Manager は Azure Marketplace を通じてインストールされ、請求されます。

インストールプロセスは、次のフェーズに分けることができます：

- Nerdio Manager のインストールを開始する前に、前提条件を満たしていることを確認します。
- Azure Marketplace から Nerdio Manager アプリケーションをインストールします。
- Azure PowerShell スクリプトを実行して、インストールを初期化します。
- インストールをライセンスサーバーに登録し、Nerdio Manager の設定を構成します。

関連動画

ビデオ:Nerdio Manager をインストールする

前提条件

注記

注意: インストールプロセスを開始する前に、グローバル管理者、または特権ロール管理者とクラウドアプリケーション管理者として Azure ポータルにサインインします。

- Azure Marketplace から Nerdio Manager をインストールするには、対象の Azure サブスクリプションの所有者である必要があります。
- Azure サブスクリプションは、インストールプロセス中に選択した Azure リージョンで、Azure SQL、App Service、Key Vault、Application Insights、Automation Account の展開をサポートしている必要があります。
- AVD セッションホスト VM を展開するために、仮想ネットワークとサブネットを利用できる必要があります。構成フェーズ中に、この仮想ネットワークとサブネットを選択するように求められます。
- Active Directory または Entra DS を使用する場合、仮想ネットワークサブネットで指定されたカスタムデフォルト DNS サーバー設定は、ドメイン対応の DNS サーバーまたは Azure DNS ゾーンを指す必要があります。
- Windows Active Directory Domain Services (ADDS) を使用する場合、ADDS は Entra ID と同期されている必要があります。
- Active Directory を使用する場合、VM をドメインに参加させたり、ドメインから参加解除したりする権限を持つユーザーアカウントが必要です。このユーザーアカウントは、AD ドメイン内の少なくとも 1 つの OU にコンピューターオブジェクトを作成でき、必要に応じてそれらのコンピューターオブジェクトを無効にできる必要があります。
- FSLogix プロファイルコンテナー用の SMB ファイルストレージの場所が必要です。この SMB 共有は、ファイルサーバー VM、Azure Files、Azure NetApp Files、または UNC パス (例: \\server.domain.local\share\profiles) を介してアクセス可能なその他の場所に配置できます。サーバー名は FQDN 形式でなければなりません。
- 最適なパフォーマンスを確保するために、プロファイルストレージをホストプール VM と同じ Azure リージョンに配置します。

- ファイルストレージの場所を利用できない場合、このステップはインストール中にスキップできます。Nerdio Manager は構成後に Azure Files または NetApp Files を作成できます。
- Microsoft Desktop Virtualization リソースプロバイダーを Azure サブスクリプションに登録しておく必要があります。

Azure Marketplace からインストールする

Nerdio Manager は Azure Marketplace からインストールされる。

Nerdio Manager をインストールする：

1. Azure Marketplace で、Nerdio Manager for Enterprise を検索する。
2. (作成) > (NME プラン) を選択して、インストールプロセスを開始します。

(NME プランの作成) ページが開きます。

3. (基本) エリアで、次の情報を入力する：
 - Nerdio Manager
 - リソースグループ: (新規作成) を選択して、新しいリソースグループを作成する。または、空の既存のリソースグループを選択することもできます。
 - リージョン リージョン: ドロップダウンリストから、最も近いリージョン、または管理者の大多数がいるリージョンを選択します。

注記

注意: このリージョンは Nerdio Manager リソースが配置される場所であり、AVD セッションホスト自体の場所を決定するものではありません。

- (次へ) を選択します。
4. (リソース名) エリアで、次の操作を行う：
 - 名前プレフィックス: リソース名に使用するプレフィックスをカスタマイズする。
 - (次へ) を選択します。
 5. (プライベートエンドポイント) エリアで、このインストールでプライベートエンドポイントを使用し、Nerdio Manager がパブリックアクセスできないように制限するかどうかを指定する。

次の情報を入力してください。

- **プライベートエンドポイントを有効にする** : このオプションを有効にして、Nerdio Manager がプライベートエンドポイントを使用するように構成する。

 注記

Nerdio Manager Nerdio Manager がプライベートエンドポイントを使用するように構成されている場合、アプリケーションとその依存関係 (SQL Database、Storage Account、Key Vault、App Service など) は、パブリックインターネットエンドポイント経由で到達できなくなります。代わりに、プライベート IP アドレスを介して、顧客の仮想ネットワークからのアクセスに制限されます。プライベートエンドポイントおよび App Service 用に仮想ネットワークとサブネットをカスタマイズできますが、通常は必要ありません。

- **仮想ネットワーク** : ドロップダウンリストから、Nerdio Manager リソースを配置する仮想ネットワークを選択する。
- **プライベートエンドポイント用の VNet**。ドロップダウンリストから、プライベートエンドポイントをホストするサブネットを選択する。
- **App Service 用サブネット** : ドロップダウンリストから、App Service 専用のサブネットを選択する。
- **App Service のパブリックアクセスを制限する** : このオプションは選択しない。

 注記

(**App Service のパブリックアクセスを制限する**) を有効にすると、展開後に Nerdio Manager を利用できなくなります。追加の手動ネットワーク構成が必要になります。

- (次へ) を選択します。
6. (タグ) タブで、必要なカスタムタグを確認し、(次へ) を選択します。

 ヒント

このタブはスキップできる。

7. (確認および作成) エリアで選択内容を確認し、(作成) を選択する。

 注記

注意: 確認ウィンドウが表示され、デプロイが進行中であることが通知されます。デプロイには通常約 10 分かかります。

8. デプロイが完了したら、(リソースグループに移動) を選択します。
9. **App Service** を見つけて選択します。

初期化する

Nerdio Manager が Azure サブスクリプションに展開されたら、Nerdio Manager のインストールを初期化するために、以下の手順を実行する必要があります。

 注記

Entra ID アプリ登録または分割 ID を使用する場合は、(Nerdio Manager を初期化するには (Entra ID アプリ登録または分割 ID) (13)) にスキップする。

Nerdio Manager を初期化するには (標準):

1. App Service から Nerdio Manager の URL を開くには、(参照) ボタンまたは (概要) エリアのドメインリンクを選択します。
2. コマンドをコピーするには、(コピー) ボタンを選択します。
3. (Azure Cloud Shell を起動) を選択し、グローバル管理者、または特権ロール管理者とクラウドアプリケーション管理者の組み合わせ、およびサブスクリプションの所有者としてサインインします。
4. 必要に応じて、**PowerShell**(Bash ではなく)を選択し、シェル履歴用のストレージアカウントを作成します。
5. PowerShell コマンドを貼り付けて、(Enter) を押します。

 注記

複数のコマンドが瞬時に表示されます。スクリプトの実行には約 10 分かかります。

6. スクリプトが完了すると、プロンプトに戻ります。**Deployment completed successfully** というメッセージが表示されます。

注記

注意:<Resource Group Name> Marketplace 経由でインストールされた場合、または Automation Account 経由で更新された場合は、メッセージ<App Service Name> NMW-After-Publish が表示されます。

7. 確認メッセージ内の URL を選択します。または、ブラウザーの開いているタブに戻り、ページを更新します。これで、インストールプロセスの次のフェーズである (Nerdio Manager 設定の構成) に進む準備が整いました。

Nerdio Manager を初期化する (Entra ID アプリ登録または分割 ID):

1. Nerdio Manager Web アプリケーションに、Nerdio Manager、または特権ロール管理者とクラウドアプリケーション管理者の組み合わせ、およびサブスクリプションの所有者としてサインインします。
2. (詳細を表示) を選択します。
3. Entra ID アプリ登録の場合:
 - 既存の Entra ID アプリ登録このオプションを選択します。
 - アプリ ID アプリ ID を入力します。
 - アプリシークレット アプリシークレットを入力します。
 - サービスプリンシパル ID サービスプリンシパル ID を入力します。
4. 分割 ID の場合:
 - 分割 ID このオプションを選択します。
 - アイデンティティテナント ID アイデンティティ テナント ID を入力します。
5. (スクリプトをダウンロード (Az)) を選択します。
6. ローカルマシンで、ダウンロードしたスクリプトを見つけて実行します。
7. 確認メッセージ内の URL を選択します。または、ブラウザーの開いているタブに戻り、ページを更新します。次のインストールプロセスのフェーズに進む準備が整いました。

設定する

Nerdio Manager がインストールされました。次のステップでは、さまざまなアプリケーション設定を構成します。

URL に移動すると、次の情報が表示されたウィンドウが開きます:

Nerdio Manager for Enterprise へようこそ

Entra ID テナント

テナント Nerdio Partner Solutions CustomerC - nerdiouniversity.net

ID:

Azure サブスクリプション

名前 **名前: PREVIEW NME - INTERNAL USE ONLY**

ID:

Nerdio Manager を登録する

Nerdio Manager の設定を構成するには:

1. **(Nerdio Manager 登録)** セクションで:
 - **(登録する Nerdio Manager)** を選択します。
 - 登録情報を入力します。
 - すべての登録情報を入力したら、**(登録)** を選択します。
2. **(機能セット)** セクションで、目的の機能セットを選択します:
 - Azure Virtual Desktop
 - Windows 365 (Cloud PC)
 - Intune (物理エンドポイント)

注記

注意: 一度に 1 つ、2 つ、またはすべての機能セットを設定できます。

(Azure Virtual Desktop) を選択すると、3 つの構成オプションが表示されます:
(ネットワーク、ディレクトリ) および (ファイルストレージ)。

1. **(ネットワーク)** セクションで:
 - **(選択なし)** を選択します。
 - サブネット ドロップダウンリストからサイズを選択してください。
 - **(OK)** を選択します。
2. **(ディレクトリ)** セクションで:

 注記

Active Directory、Entra Domain Services、またはネイティブの Entra ID ユーザーアカウントには、ドメイン内にコンピューターオブジェクトを作成する権限が必要です。Nerdio Manager は、コンピューターをドメインに参加させる際にこれらの資格情報を使用します。

さらに、Active Directory を使用する場合、ユーザーアカウントには、Azure Files 共有をディレクトリに参加させるための追加の権限が必要です。

- (選択なし) を選択します。
- Active Directory、Entra Domain Services、または Entra ID の情報を入力します。
- 必要な情報をすべて入力したら、(OK) を選択します。

3. (ファイルストレージ) セクションで:

 注記

注意: FSLogix ファイルストレージ情報、または VNet からアクセス可能な既存のファイル共有への UNC パスを指定できます。ファイル共有の準備ができていない場合は、このステップをスキップするオプションを選択します。

- (選択なし) を選択します。
- この手順は今はスキップします。このオプションを選択してこのステップをスキップし、後でファイルストレージを構成します。
- FSLogixFSLogix のバージョンを選択します。デフォルトは最新バージョンです。
- **Cloud Cache を使用する:Cloud Cache を使用する:** この FSLogix プロファイルを使用するホストプールと、そのホストプール内のセッションホストで FSLogix Cloud Cache を有効にするには、このオプションを選択します。

 ヒント

ヒント: パフォーマンス上の理由から、Cloud Cache が有効な場合は Premium SSD とエフェメラル OS ディスクを使用することを強くお勧めします。非常に小規模な環境やテストシナリオでは、Standard SSD ディスクで十分な場合もあります。

 注記

Cloud Cache では、複数のプロファイルストレージ場所を指定できます。プロファイルを非同期でレプリケートし、複数のストレージ場所で同時に利用できるようにします。そのため、いずれかの場所が使用できない場合、セッションホストは代替の場所のいずれかに自動的にフェイルオーバーします。

FSLogix Cloud Cache に関する詳細は、「[Cloud Cache の概要](#)」を参照してください。

- **Entra ID 参加済みストレージ用にセッションホストのレジストリを構成する:** このオプションを選択して、Entra ID Kerberos 機能と Entra ID アカウント資格情報の読み込みを有効にします。

 注記

注意: 詳細については、「セッションホストの構成」を参照してください。

- **App Service 設定の管理** このオプションを選択して、FSLogix App Service レジストリ設定を編集します。
- **ログ設定の管理** このオプションを選択して、FSLogix のログレジストリ設定を編集します。
- **FSLogix プロファイルパス (VHDLocation)。** ドロップダウンリストから、Azure Files ファイル共有または Azure NetApp Files ボリュームを選択します。または、UNC パスを入力します。

 注記

注: 最大 4 つのパスを指定できます。さらに、矢印を使用してパスの順序を変更します。プロファイルは、これらすべての場所に作成されます。

- 必要な情報をすべて入力したら、(OK) を選択します。
4. 必要に応じて (Windows 365 と Intune) を有効にし、機能とスコープを構成します:
 - (構成) を選択します。
 - 必要な設定機能を有効にします。
 - (OK) を選択します。

 注記

Nerdio Manager で Windows 365 を有効にする方法の詳細については、「[Windows 365 - Cloud PCs の有効化と設定](#)」を参照してください。

インストールプロセスを完了するには:

1. 上記のすべての設定を構成したら、(完了) を選択します。
2. 提供されたテナントのリンクを選択します。
3. グローバル管理者ロールを持つユーザーとしてサインインし、同意を確認して承諾します。
4. Nerdio Manager に戻り、(管理者の承諾を付与しました) を選択します。
5. (OK) を選択します。

 注記

注意: エラーが発生した場合は、同意の手順を繰り返してください。数分かかることがあります。同意が検証されるまで、数回再試行できます。

これでインストールは完了し、Nerdio Manager の使用を開始する準備が整いました。

Nerdio Manager Edition 管理

Nerdio Manager には 2 つのエディションがあります：**Core** と **Premium** です。Nerdio Manager Premium エディションには、Core エディションのすべての機能に加え、その他多くの機能が含まれています。

機能と価格の詳細については、私たちの [Web サイト](#) をご覧ください。

▲ 警告

Premium から Core にダウングレードすると、機能が失われる可能性があります。たとえば、高度なコスト最適化機能は Core エディションではサポートされていません。そのため、顧客が Core にダウングレードし、Azure Capacity Extender などの機能を使用していた場合、これらの機能は利用できなくなります。

Nerdio Manager では、いつでもエディションを変更できます。

Nerdio Manager のエディションを変更するには：

1. **System > Settings > Nerdio** に移動します。
2. **Product edition** エリアで、製品エディション名を選択します。
3. 確認のポップアップを確認してください。

💡 ヒント

Core にダウングレードする場合、確認のポップアップに、アクセスできなくなる機能の詳細リストが表示されます。続行する前に、必ず注意深く確認してください。

4. エディションを変更する準備ができたなら、**OK** を選択します。

Nerdio Manager のエディションが変更されました。

 注記

Nerdio Manager のバージョン 6.0 より前では、顧客は製品の標準エディションまたは Premium エディションのいずれかを購入できました。上記で説明したライセンスオプションは、バージョン 6.0 以降の新しい Nerdio Manager インストールにのみ適用されます。

サブスクリプションをアクティブ化する

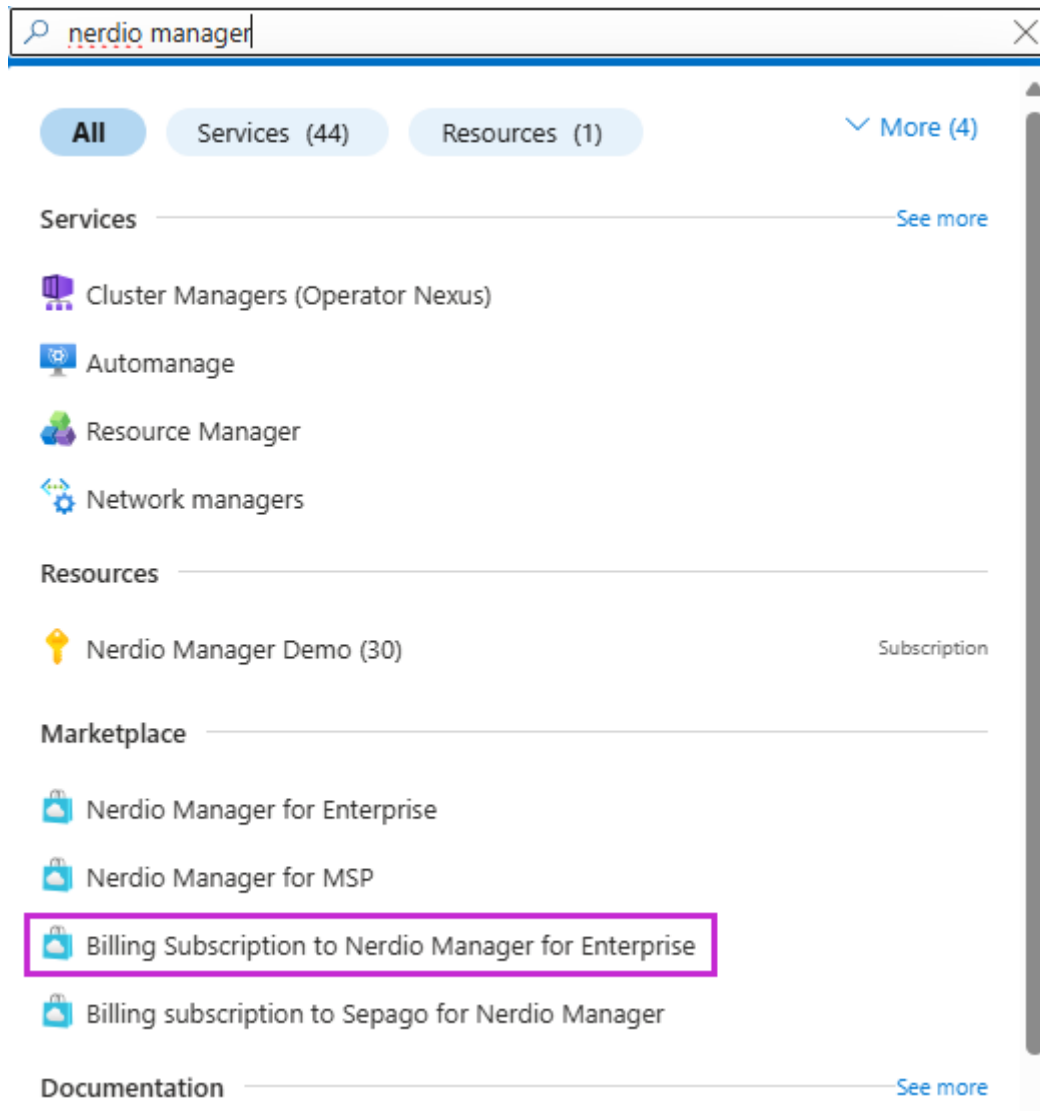
試用期間終了後も Nerdio Manager を継続して使用するには、Azure Marketplace に記載されている当社の課金オファーをサブスクライブする必要があります。これにより、Nerdio Manager は Azure Marketplace に使用状況を報告できるようになります。使用状況に基づいて、Microsoft からの Azure 請求書で Nerdio Manager の料金が請求されます。

 注記

サブスクリプションをアクティブ化すると、Entra ID に新しいアプリ登録も作成されます。デフォルトでは、これは NerdioManagerForWVD-Subscribe という名前になります。このアプリケーションには、認証を行いライセンスをサブスクライブできるように、Azure API の権限が付与されます。詳細については、[Azure の権限と Nerdio Manager \(5\)](#)を参照してください。

のサブスクリプションをアクティブ化するには : Nerdio Manager

1. Azure Marketplace から Nerdio Manager の課金オファーをインストールする予定のサブスクリプションのサブスクリプション所有者として、Azure ポータルにサインインします。選択するサブスクリプションは、Nerdio Manager for Enterprise をインストールしたサブスクリプションと異なっていても構いません。
2. 検索ボックスに「**Nerdio Manager**」と入力します。
3. 検索結果の **Marketplace** セクションで、**Billing subscription to Nerdio Manager Enterprise** オプションを選択します。



4. 次の情報を入力してください：

 注記

価格/支払い頻度に、\$0.00/月という価格と、\$3/ユーザー/月の月間アクティブ ユーザー料金が表示される場合があります。さらに、小計には 1 か月あたり \$0.00 と表示されます。この部分は無視して問題ありません。価格/支払い頻度に記載されている料金は、当社の内部課金システム用です。価格設定は、同じ画面の「プラン」セクションで詳述されている通り、Core エディションと Premium エディションのどちらに登録するかによって異なります。処理を続けると、次のページでご希望のエディションに登録するオプションが表示されます。

Plan details

Subscription * ⓘ	Microsoft Azure
Resource group * ⓘ	(New) Create new
Resource group location *	East US
Name * ⓘ	

- サブスクリプションドロップダウンリストからサブスクリプションを選択します。
 - リソースグループ: (新規作成) を選択して、新しいリソースグループを作成します。
 - リソースグループの場所: ドロップダウンリストから、リソースグループのリージョンを選択します。
 - 名前 **BillingForNerdioManager** と入力します。
5. 必要な情報をすべて入力したら、**確認**と**サブスクライブ**を選択します。
 6. **利用規約**を確認します。
 7. **サブスクライブ**を選択します。

オファ어의展開が開始されます。完了まで2~3分かかります。**サブスクリプションが進行中です**というメッセージが表示されます。

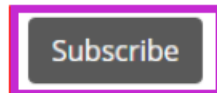
8. デプロイが完了したら、**今すぐアカウントを構成する**を選択します。
9. 課金を開始するインストールを選択してください。

 注記

通常、Nerdio Manager のインストールは1つだけであるため、リストには1つの項目が表示されます。

課金は月間アクティブユーザーに基づきます。月間アクティブユーザーとは、過去1か月間にAVDデスクトップに接続した、または過去1か月間の任意の時点でWindows 365 Enterprise Cloud PCに割り当てられた一意のユーザー数です。

Select to confirm	Subscription	Install ID ⓘ
☐	236b95399cae	b633
☐	236b95399cae	fc98f



10. すべてのインストールを選択したら、サブスクライブを選択します。

これで課金オファーにサブスクライブされ、Nerdio Manager ライセンスがアクティブ化されました。

注記

定期的な課金をデフォルトの **On** のままにしておくことが重要です。

Azure 環境: リンクされたネットワークとリソースグループ

Nerdio Manager

セッションホスト VM やデスクトップイメージを含む可能性のあるリソースグループをリンクすることもできます。

注記

Nerdio Manager 新しいデスクトップイメージ、ホストプール、またはセッションホストを作成する際に使用する既定のネットワークとリソースグループを に設定することもできます。作成プロセス中にこれらの既定を上書きすることができます。

リンクされたネットワークを管理する

Nerdio Manager

既存のネットワークをリンクするには:

1. システム > 設定 > **Azure** ブレードに移動します。
2. リンクされたネットワーク タイルで、**Azure ネットワークをリンク** または **Azure Local ネットワークをリンク** を選択します。
3. ドロップダウンリストからリンクしたいサブネットを選択します。
4. **(OK)** を選択します。

指定されたネットワークを新しいデスクトップイメージ、ホストプール、およびセッションホストを作成する際に使用できるようにしました。

新しいネットワークを作成してリンクするには:

注記

- ネットワークに利用可能なパラメータと設定について詳しく知りたい場合は、Microsoft Learn の記事 [仮想ネットワークの作成、変更、または削除](#) を参照してください。
- ネットワークと一緒に作成できるオプションの構成オブジェクトの一部は、Azure ポータルでのさらなる編集が必要になる場合があります。

1. システム > 設定 > **Azure** ブレードに移動します。
2. リンクされたネットワーク エリアで、**Azure ネットワークを作成する** を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - リソースグループ: ドロップダウンリストから、ネットワークで使用する **Azure リソースグループ** を選択します。
 - リージョン リージョン: ドロップダウンリストから利用可能なリージョンを選択します。このネットワークを使用する VM は、選択したネットワーク内に作成されます。
 - 仮想ネットワーク名 仮想ネットワークの表示名を入力します。
 - IPv6 を有効にする 仮想ネットワークが IPv6 アドレッシングをサポートするかどうかを選択します。

- IP 範囲 **IP 範囲**: **CIDR 表記**を使用して、IPv4 または IPv6 アドレス空間のいずれかで IP アドレス範囲を入力してください。ネットワークが IPv6 をサポートしているかどうかに応じて入力します。
- サブネット名 **サブネット**の表示名を入力します。
- サブネット **サブネット**: 上記で指定した範囲内のサブネットアドレスを指定してください。
- プライベートサブネットを有効にする **プライベートサブネットを有効にする**: この設定を選択すると、デフォルトのアウトバウンドアクセスが無効になり、ネットワーク上の VM に対してアウトバウンドインターネットアクセスを明示的に付与する必要があります。

注記

注意: 2025 年 9 月 30 日、新しい展開の既定のアウトバウンド アクセスは廃止されます。詳細については、[公式発表](#)および Microsoft の[ガイダンス](#)を参照してください。既定のアウトバウンド アクセスから明示的なパブリック接続方法への移行に関する情報です。ネットワークにアウトバウンドインターネットアクセスを提供するために、NAT ゲートウェイ (以下を参照) を使用することをお勧めします。

- NAT ゲートウェイ **NAT ゲートウェイ**: ドロップダウンリストから既存の NAT ゲートウェイを選択するか、新しいものを作成するための名前を入力してください。NAT ゲートウェイはネットワークと共に作成されます。
 - ネットワークセキュリティグループ **ネットワークセキュリティグループ**: オプションで、ネットワークに紐付けるためにドロップダウンリストから**ネットワークセキュリティグループ**を選択するか、新しいものを作成するための名前を入力してください。ネットワークセキュリティグループはネットワークと共に作成されます。
 - ルートテーブル **ルートテーブル**: オプションで、ネットワークに紐付けるためにドロップダウンリストから**ルートテーブル**を選択するか、新しいものを作成するための名前を入力してください。ルートテーブルはネットワークと共に作成されます。
 - カスタムタグ **カスタムタグ**: オプションで、ネットワークに紐付けたいカスタムタグおよびメタデータの名前と値を入力してください。
4. **OK** をクリックしてください。ネットワークと関連する構成オブジェクトが作成されます。

ネットワークのリンク解除をするには:

1. システム > 設定 > **Azure** ブレードに移動します。
2. リンクされたネットワークタイルで、リンク解除したいネットワークを見つけてください。
3. 操作列で、**リンク解除するアイコン**
4. 表示されたら、**OK** を選択して操作を確認します。

注記

Nerdio Manager の外で Azure ポータルで削除されたリソースは、特定のネットワークのリンク解除を妨げません。リンク解除は、ネットワークを参照する孤立したオブジェクトがあっても強制できます。

既定のネットワークを設定するには:

1. システム > 設定 > **Azure** ブレードに移動します。
2. リンクされたネットワークタイルで、既定にしたいネットワークを見つけます。
3. 操作列で、**既定として設定アイコン**

リンクされたリソースグループの管理

Nerdio Manager

リソースグループをリンクする

1. システム > 設定 > **Azure** に移動します。
2. リンクされたリソースグループ エリアで、**リンク** を選択します。
3. ドロップダウンリストから、リンクするリソースグループを選択します。
4. **(OK)** を選択します。

指定したリソースグループが、新しいデスクトップイメージ、ホストプール、セッションホストの作成に使用できるようになりました。

リソースグループをリンク解除するには:

1. システム > 設定 > **Azure** ブレードに移動します。
2. リンクされたリソースグループタイルで、リンク解除したいリソースグループを見つけます。

3. 操作列で、リンク解除するアイコン
4. 表示されたら、OK を選択して操作を確認します。

注記

Nerdio Manager の外で Azure ポータルで削除されたリソースは、特定のリソースグループのリンク解除を妨げません。リソースグループを参照している『孤児』オブジェクトがあっても、リンク解除を強制できます。

既定のリソースグループを設定するには:

1. システム > 設定 > Azure ブレードに移動します。
2. リンクされたリソースグループタイルで、既定にしたいリソースグループを見つけます。
3. 操作列で、既定として設定アイコン

ユーザーインターフェイス (UI) の概要

Nerdio Manager

タイムゾーン

Nerdio Manager

左側のナビゲーションペイン

左側のナビゲーションペインから、設定するコンポーネントを選択できます。たとえば、エンドポイントや設定などのコンポーネントです。

一部のコンポーネントには、下矢印を選択することでアクセスできるサブメニューもあります。追加のオプションが表示されます。

異なるメニュー階層をナビゲートするために、パンくずリストが作成され、ナビゲーションフローの以前のページに簡単に戻ることができます。

トップメニューアイコン

UI の右上には、以下のタスクを実行するいくつかのアイコンがあります。

グローバル検索

検索

ダークモードとライトモード

UI の背景は、ダークまたはライトで表示できます。

ライトモードの場合は、ダークモード 

通知

通知

お知らせ

お知らせアイコン

お知らせを既読としてマークするには、封筒 

特許

特許

Nerdio Manager Copilot

Copilot

ナレッジベース

疑問符

サインアウト

Nerdio Manager サインアウト) を選択します。

テーブルフッター

多くのテーブルには、テーブル内をすばやく移動したり、ページサイズを設定したりできるフッターが備わっています。さらに、一部のテーブルはテーブル内の行の合計数を表示します。

タスク

一部の設定可能なコンポーネント内には、(タスク) タブがあります。設定しているコンポーネントに関連するタスクのログを、最新のものから順に表示します。たとえば、(ワークスペース) ページは、ワークスペースで実行されたタスクのログを表示します。

タスクとその数は色分けされており、緑は完了したタスク、赤は失敗したタスク、黄色はキャンセルされたタスクを示しています。更新

タスクのフィルター

タスクをステータスでフィルターできます。 

特定のタスクの詳細を確認したい場合は、タスクの隣にある情報

現在進行中のタスクの場合、キャンセル

タスクのエクスポート

タスクログを JSON ファイルまたは CSV ファイルにエクスポートできます。

タスクログを JSON ファイルとしてエクスポートするには、

タスクログを CSV ファイルとしてエクスポートするには、

ファイルはブラウザのダウンロードフォルダーにダウンロードされます。

詳細については、「[ログモジュール](#)」を参照してください。

その他のアクションメニュー

いくつかのページには、その他のアクションメニューで利用可能な追加のメニューオプションがあります。これらのメニューオプションにアクセスするには、その他のアクション

下矢印を選択することで、追加のメニューアクションにもアクセスできます。

検索とフィルター

多くのページには、探している情報を迅速に見つけるための検索とフィルター機能があります。

 注記

注: すべてのページで組み込みの検索フィールドを使用して、テーブルに表示されるアイテムをフィルターすることもできます。たとえば、特定のイメージを使用しているホストを見つけることができます。検索結果が強調表示されます。

更新

表示されているテーブルを更新するには、

ツールチップ

ツールチップ

テーブルの並べ替え

テーブルの列ヘッダーで、並べ替えアイコン

複数選択と一括操作

Nerdio Manager

 注記

注: 複数ページにわたって複数の選択を行うことができます。たとえば、最初のページで2つのセッションホストを選択し、3ページ目で4つのセッションホストを選択することができます。一括操作は、選択した6つのセッションホストに対して実行されます。(名前) 列の隣にある最上位のボックスを選択することで、すべてのホストを選択することもできます。

カスタムビュー

Nerdio Manager

たとえば、複数のワークスペースにわたってホストプールを管理している場合、ワークスペースリストに戻ってワークスペースを切り替える必要はありません。カスタムビューを使うと、環境全体の似たデータをひとつのページにまとめられます。

詳細については、「[カスタムビューの作成](#)」を参照してください。

既存のページに基づくカスタムビュー

Nerdio Manager

詳細については、「[既存のページからのカスタムビューの作成](#)」を参照してください。

UI テーマを個別に設定

Nerdio Manager

詳細については、「[UI テーマを個別に設定](#)」を参照してください。

Nerdio Manager

Nerdio Manager Copilot は、Nerdio Manager

注記

Azure OpenAI サービスの利用可能性は限られており、Azure リージョンによって異なります。

Nerdio Manager

重要

Nerdio Copilot は、NME 8.0 で完全に再構築およびリファクタリングされました。NME 7.7 以前のバージョンで Nerdio Copilot を以前にデプロイしている場合は、レガシーバージョンの Nerdio Copilot を無効にする必要があります。

レガシーバージョンの Nerdio Copilot をアンインストールするには：

1. Nerdio Manager で、**System > 設定 > Nerdio** に移動します。
2. 下にスクロールして、**(Nerdio Manager Copilot)**セクションを展開します。
3. **(構成)** を選択します。

これにより、レガシーバージョンの Nerdio Copilot をサポートしていたすべてのリソースが表示されます。

4. **OK** を選択して、これらのリソースを削除します。

1. Nerdio Manager で、**システム > 設定 > Nerdio** に移動します。
2. 下にスクロールして、**(Nerdio Manager Copilot)**セクションを展開します。
3. **有効**を選択します。
4. 次の情報を入力してください：
 - **リソースグループ: (リソースグループ):** ドロップダウンリストから、**Nerdio Manager Copilot** を実行するために必要なすべてのリソースを含むリソースグループを選択します。
 - **モデルドロップダウンリスト**から、利用可能なクォータに基づいて OpenAI モデルを選択します。
 - **展開タイプデプロイメントタイプ**を選択します。Data Zone 標準または Global 標準のいずれかです。
5. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

展開タスクが開始し、Azure リージョンやその他の条件によって約 30～35 分かかります。タスクセクションでタスクの進行状況を追跡できます。

Nerdio Manager

Copilot のためのすべての Azure リソースがデプロイされたら、Copilot を使用できます。

注記

注意: Nerdio Manager Copilot は、質問に答えるために Nerdio ヘルプセンターの KB をキャッシュし、毎日キャッシュを更新します。

1. Nerdio Manager Copilot **Nerdio Manager**

Nerdio Manager

2. Nerdio Manager
3. 任意で、引用元を選択して、引用されたナレッジベースの記事のリストを表示できます。
4. サイドバーウィンドウまたは切り離されたウィンドウの表示方法のいずれかを選択できます。

Nerdio Manager

いつでも Copilot の設定を調整できます。

1. (設定
2. 次の情報を入力してください：
 - **インテント認識サービス OpenAI モデル:** ドロップダウンリストから希望するイメージを選択してください。
 - **履歴を保持する最大日数:** 保持するチャット履歴の数を入力します。
3. 必要な情報を入力したら、**OK** を選択します。
4. プロンプトが表示されたら、**確認**を選択して変更を確認します。

フィードバックを送信する

Copilot は、Nerdio 特有の情報で強化された大規模言語モデル (LLM) を搭載した Azure OpenAI を利用しています。これは LLM であるため、回答が毎回同じになるとは限りません。詳細については、[大規模言語モデルの紹介](#)をご覧ください。

不正確な回答に気付いた場合、以下の方法でフィードバックを送信できます:

- コメントを入力してください (任意)。
- Nerdio の標準サポートエスカレーションパスに従ってください。

Nerdio Manager

Nerdio Manager

 注記

Nerdio Manager **Copilot** を無効にすると、機能が有効になったときにデプロイされたすべての **Azure** リソースが削除されます。ただし、スマート検出アラートルールは除きます。

1. Nerdio Manager で、システム > 設定 > **Nerdio** に移動します。
2. 下にスクロールして、(**Nerdio Manager Copilot**)セクションを展開し、(設定)を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、(OK)を選択します。

無効化タスクが開始され、Azure リージョンやその他の条件に応じて約 6〜12 分かかります。タスクセクションでタスクの進行状況を追跡できます。

Nerdio Manager

Nerdio Manager

 警告

警告: AI が生成したすべてのスクリプトは、本番環境に展開する前に手動でテストおよび検証することを確認してください。

1. Nerdio Manager
2. スクリプト作成に関連する質問をしてください。例えば：

```
Can you help me generate a management script for a Windows VM to set t
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\MyApp] "NewFeatureEnable"=dword:1
```

3. プロンプトに従い、必要に応じて返信してください。
4. スクリプトが生成されたら、コードをコピーします。

Nerdio Manager

AnalyticsPro は、Nerdio Manager

AnalyticsPro を使用して KQL クエリを生成するには：

1. Nerdio Manager
2. 生成したい KQL クエリの詳細を入力してください。例えば：

```
Can you write me a KQL query to get the number of active users from the
```

3. 送信
4. KQL クエリが生成されました。
5. AnalyticsPro と対話し、結果に基づいて追加情報を求めたり、クエリを洗練するためのオプションを提供したりできます。これらのプロンプトに必要な応じて応答し、クエリを特定の要件に合わせて調整してください。
6. 完了したら、クエリをコピーして Azure Log Analytics ワークスペースで実行できます。

▲ 警告

警告: AI が生成したすべてのクエリは、本番環境に展開する前に手動でテストおよび検証することを確認してください。

Nerdio Manager

この機能のコストは、その使用状況によって異なります。コストは使用トークン単位であり、選択したモデルと使用量に応じて異なります。

機能が有効になっていても使用されていない場合、固定コストは発生しません。

機能的考慮事項

LLM の実装はトークンで行われます。トークンの数は、システムプロンプト、ユーザーからの入力、および LLM からの出力の組み合わせです。トークンの数により、ボットが現在の会話内で以前のやり取りをどれだけ記憶できるかが決まります。会話が長くなり、モデルに設定された最大トークン数を超えた場合、古いデータは削除されます。ただし、履歴削除ボタンを使用してチャット履歴を削除するまで、UI にはすべてのチャット履歴が表示されます。

展開時の考慮事項

既定では、Copilot はすべてのリソースを同じリージョンに展開しますが、Azure OpenAI リソースはユーザーの選択に基づいて異なるリージョンに作成できます。可能かつ該当する場合、無料または最も低料金のリソースを展開し、これらは設定変更できません。

既知の制限

- ユーザーは、1 日および/または 1 か月あたりのスロットリング制限を制御することはできません。
- 通知のサポートはありません。
- 偽陽性を特定して除外するためのメカニズムはありません。
- Copilot を無効にしても、スマート検出アラートルールは削除されません。

タスクのスケジュールを管理する

Nerdio Manager

スケジュールには、以下の例に示すように、1 つまたは複数のエントリを含めることができます。

- ホストを今日の 18:00 に電源オフするスケジュールを作成できます。
- 月曜日の午前 7:00、火曜日の午後 9:00、日曜日の午前 3:00 にホストプールで同じスクリプトアクションを実行するスケジュールを作成できます。
- 月曜日と木曜日の 23:00 にホストを再起動するスケジュールを作成し、毎週繰り返すことができます。

複数エントリのスケジュールを許可するいくつかの機能は次のとおりです：

- デスクトップイメージスクリプトアクションの実行
- Scripted ActionsRun Azure Runbook
- ホストプールホストプール: サイズ変更または再イメージ、電源のオン/オフ、ホストの再起動、メッセージの送信、すべてのホストのログオフ、ホストのアクティブ化/非アクティブ化、Scripted Actions を実行する
- セッションホスト (ハイブリッドを除く): サイズ変更するまたは再イメージ化する、電源オン/オフ、ホストを再起動する、ホストをアクティブ化する/停止する、メッセージを送信する、スクリプトアクションを実行する
- アドバイザーセッションホストのサイズ変更、ホストプールのサイズ変更

タスクのための複数のスケジュールを作成する

Nerdio Manager

タスクのために複数のスケジュールを作成するには：

1. 実行したいタスクに移動します。

注記

注意: この例では、セッションホストを再起動しています。上記のように、複数のタスクのために複数のスケジュールを作成できます。

2. スケジュールエリアを選択します。
3. スケジュールセクションで、希望するスケジュールを入力します。
 - 開始日: 開始日を入力します。
 - タイムゾーン: タイムゾーン: ドロップダウンリストから開始時間のタイムゾーンを選択する。
 - 開始時刻: ドロップダウンリストから開始時刻を選択します。
 - 繰り返し: 繰り返し: ドロップダウンリストからこの操作を一度実行するか、定期的に繰り返すかを選択してください。

注記

注: ドロップダウンには、(パッチ後の火曜日) のオプションがあります。これにより、(パッチ後の火曜日) に基づいて繰り返しスケジュールを作成できます。

- 曜日: ドロップダウンリストから、定期的なスケジュールの曜日を選択します。
 - 経過日数: 経過日数: (パッチ後の火曜日) を選択した場合は、スケジュールされたタスクを実行するパッチチューズデー後の日数を入力します。
4. スケジュールを入力したら、保存を選択してください。

スケジュール 1 がタスクに追加されました。

5. 追加するエントリがある場合は、上部のスケジュールの右側にある追加アイコンを選択してください。
6. 次のスケジュールを追加して保存し、すべての希望するスケジュールエントリについて繰り返してください。

タスクスケジュールを管理する

Nerdio Manager

タスクスケジュールを管理するには:

1. 作業したいスケジュールのあるタスクに移動してください。
2. リスト (例: ホスト、ホストプールなど) で、**スケジュールアイコン**を選択してください。
3. スケジュールリストで、作業したいスケジュールを選択してください。
4. 必要に応じてスケジュールエントリを変更または削除してください。
5. または、タスクを開き (例: セッションホストを再起動)、**スケジュールタブ**で、ドロップダウンリストから変更または削除したいスケジュールエントリを選択してください。
6. 希望する変更を行ったら、**保存**を選択してください。

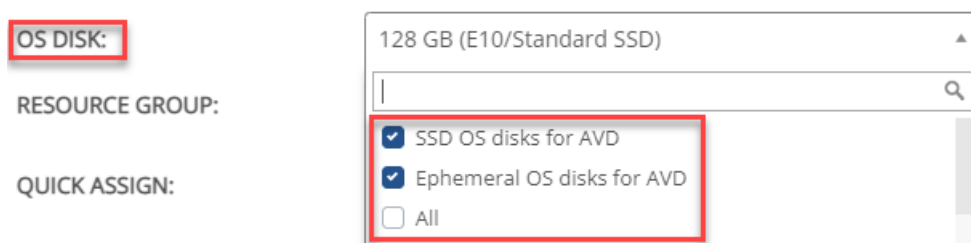
リソース選択ルール管理

Nerdio Manager

リソース選択ルールは、コアの可用性を考慮しながら、特定の AVD ユースケースに最適な VM を提案するために使用できます。これらは、ワークスペース全体やホストプール単位で利用できる VM や OS ディスクの種類を制限するためにも利用できます。

VM は、選択したサブスクリプションとリージョンでの vCPU 可用性、プロセッサ、VM ファミリーとバージョン、コア数、RAM (GB) 及びローカル一時ストレージに基づいてフィルタリングできます。OS ディスクは、ストレージタイプ (プレミアム、標準、SSD、HDD、またはエフェメラル) およびディスクサイズに基づいてフィルタリングできます。

たとえば、動的ホストプールを追加する際に、選択したリソース選択ルールに基づいて **VM サイズ**または **OS ディスク**の選択肢をフィルタリングできます。



リソース選択ルールを作成する

推奨およびフィルタリングに使用するためには、リソース選択ルールを作成する必要があります。

リソース選択ルールを作成するには：

1. **設定 > リソースルール**に移動します。
2. **(追加)** を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - **名前** **ルールの名前を入力します。**
 - **説明** **ルールの説明を入力します。**
 - **スコープ** **スコープ: ドロップダウンリストからルールのスコープを選択します。**

注記

- **明示的なルールがない場合に表示:** 明示的なスコープが適用されない限り、このルールの選択をすべての VM サイズおよび OS ディスクのドロップダウンリストに表示します。
 - **どこでも表示:** このルールの選択をすべての VM サイズおよび OS ディスクのドロップダウンリストに表示します。
 - **デスクトップイメージ** **デスクトップイメージページで VM を操作する際に、このルールの選択肢を表示します。**
 - **一時 VM:** 一時 VM を操作する際に、このルールの選択を表示します。
 - **個別のワークスペースまたはホストプール:** 選択したワークスペースまたはホストプールに対してのみ、このルールの選択肢を表示します。
- **コストを表示:** **コストを表示:** ドロップダウンリストからはいを選択して、VM サイズのドロップダウンリストにサイズティアの代わりに月額コストを表示します。

注記

注意: このルールが最上位に選択されている場合のみ適用されます。

- **デフォルトで選択:** **デフォルトで選択する:** ドロップダウンリストからはいを選択すると、このルールが適用されるドロップダウン選択リストを開くときに自

動的にチェックされます。いいえを選択すると、このルールは自動的にチェックされません。

- **VM サイズドロップダウン選択ルール:**切り替えて、フィルタリング用の VM サイズルールを定義します。
 - **プロセッサ:**プロセッサ: ドロップダウンリストからプロセッサのメーカーを選択します。
 - **VM ファミリーのバージョン:**ドロップダウンリストから、VM ファミリーのバージョンを選択します。
 - **VM ファミリータイプ:**VM ファミリーのタイプ: ドロップダウンリストから個々の VM ファミリーまたはユースケース最適化された VM ファミリーを選択します。
 - **除外する VM タイプ:**ドロップダウンリストから、除外する個々の VM ファミリーを選択します。
- **CPU コア:**ドロップダウンリストから、CPU コアの数を選択します。

注記

注意: コアの数に一致するすべての VM、または選択と次の 2 の累乗の間にある VM が表示されます。例えば、4 コアを選択すると、4 コアおよび 6 コアの VM が一致します。

- **RAM (GB):**ドロップダウンリストから RAM のサイズを選択します。

注記

注意: RAM のサイズに一致するすべての VM、または選択と次の 2 の累乗の間にある VM が表示されます。例えば、4GB の RAM を選択すると、4GB および 6GB の RAM を持つ VM が一致します。

- **ローカルストレージ:**ドロップダウンリストから、VM が一時的なローカルストレージを持っているかどうかを選択します。

 注記

- **はいはい:** 一時的なローカルストレージを持つ VM をフィルタリングします。
- **いいえいいえ:** 一時的なローカルストレージを持たない VM をフィルタリングします。

- **VM の可用性:** ドロップダウンリストから、可用性のタイプを選択します。

 注記

- **サブスクリプションとリージョンのみに基づく:** コアクォータの割り当てを検証しません。選択したサブスクリプションとリージョンで VM タイプが利用可能であることを確認するだけです。
- **CPU コアクォータに基づく:** CPU コアクォータに基づく: 選択したサブスクリプションとリージョンで十分なコアクォータが利用可能であることを動的に検証し、デプロイ可能な VM のみを表示します。

- **Sort By: 並べ替え基準:** ドロップダウンリストから、並べ替え基準を選択します。

 注記

注意: アルファベット順は独立した並べ替え基準です。他のオプションは組み合わせることができます。

- **ディスクサイズのドロップダウン選択ルール:** 切り替えて、フィルタリング用のディスクサイズルールを定義します。
- **ストレージタイプ:** ドロップダウンリストから、ストレージタイプを選択します。
- **OS ディスクサイズ:** ドロップダウンリストから、ディスクサイズを選択します。

 注記

注意: エフェメラル OS ディスクの場合、ディスクサイズが正確な選択と一致しない場合があります。そのような場合、選択と次の 2 の累乗の間にある EOSD サイズが表示されます。例えば、64 GB を選択すると、75 GB の EOSD に一致します。

4. すべての希望する情報を入力したら、(OK) を選択します。

リソース選択ルールが作成されました。

リソース選択ルールを管理する

リソース選択ルールテーブルから、次の操作を行うことができます:

- 編集ルールを編集します。

 注記

注意: 組み込みのルールは編集できません。ルールをコピーして、そのコピーを編集する必要があります。

- 複製ルールのコピーを作成します。
- 無効化ルールを無効にします。

 注記

注意: 無効になったルールは、どのドロップダウンリストにも表示されません。

- 有効化無効になっているルールを有効にします。
- 削除ルールを削除します。
- **順序の変更**: 必要に応じて、帯を上下に移動します。

 注記

注意: これはホストプールまたはセッションホスト VM を作成する際に、ドロップダウンリストに表示される選択肢の順番です。

ステップ 2: デスクトップイメージ

Nerdio Manager がインストールされたら、次のステップはホストプールの構築元となるデスクトップイメージを準備することです。既存のイメージをインポートする場合でも、Nerdio Manager に新しいイメージを管理させる場合でも同様です。

このセクションでは:

1. デスクトップイメージ
2. インポートされたデスクトップイメージの管理とライフサイクルタスク
3. [既存 VM のインポート](#)
4. デスクトップイメージ: Set as Image [\(54\)](#)
5. デスクトップイメージの Scripted Actions

デスクトップイメージ

このセクションでは、デスクトップイメージに関連するトピックについて説明します。さまざまなインポートおよびライフサイクル管理オプション、さらに高度なシナリオで特定のタスクを自動化するためのさまざまな方法について説明します。

新しいワークスペースを作成した後、AVD 環境の構築における次のステップは、仮想マシンを配置する 1 つまたは複数のホストプールを作成することです (詳細については、「[ホストプール \(63\)](#)」を参照してください)。仮想マシンは、オペレーティングシステムやアプリ、その他追加したいものを含むデスクトップイメージをもとに作成されます。これを実現するには、まず 1 つのデスクトップイメージを作成する必要があります。

先に進む前に、イメージのさまざまな作成方法やインポート方法を確認しておきましょう。Nerdio Manager

Nerdio Manager

さらに、イメージが Nerdio Manager

イメージが作成またはインポートされたら、種類に関係なく (これについては、後ほど詳しく説明します)、新規ホストプールの作成や既存ホストプールの再イメージ化は同じ方法で行うことができます。以下のセクションで、順を追って説明します。

インポートされたデスクトップイメージの管理とライフサイクルタスク

デスクトップイメージがどこからインポートされても、その管理とライフサイクルタスクは同じです。

典型的なデスクトップイメージのライフサイクル

典型的なデスクトップイメージのライフサイクルは次のとおりです。

1. デスクトップイメージをインポートします。

詳細情報については、以下のいずれかを参照してください。

- [Azure ライブラリからのイメージのインポート](#)
- [カスタムの Azure マネージドイメージのインポート](#)
- [既存 VM のインポート](#)

2. デスクトップイメージの電源をオンにします。

- a. (クラウドデスクトップ) > (デスクトップイメージ) に移動します。
- b. 電源をオンにするデスクトップイメージを特定します。
- c. (電源オン) を選択します。

3. VM の IP アドレスまたは名前を使用して RDP で接続し、必要な変更をすべて行います。

4. (電源をオフにしてイメージとして設定) を選択します。

詳細については、([デスクトップイメージの Set as Image \(54\)](#)) を参照してください。

注記

注: 変更をイメージオブジェクトにコミットする広範な自動化プロセスが開始されます。これには、Sysprep やイメージの一般化など、手動で行わなければならなかった多くのタスクが含まれます。

ジョブの進行状況はログで確認できます。ログの詳細については、「[デスクトップイメージの変更ログ機能](#)」を参照してください。

5. イメージが設定されると、それを使用して新しいホストプールを構築したり、既存のホストプールを再イメージ化したりできます。

詳細については、次を参照してください。

- [動的ホストプールの作成 \(66\)](#)
- [自動スケールなしの静的ホストプールの作成](#)
- [ホストプールのサイズ変更または再イメージ化](#)

エンドポイント管理ソフトウェアの統合

Nerdio Manager と接続することができます。

エンドポイント管理ソフトウェア統合の例

Microsoft が月次ソフトウェア更新をリリースするパッチチューズデーは、毎月第 2 火曜日の午前 10 時 (太平洋標準時) 頃に行われます。エンドポイント管理ツールを使用して、Nerdio Manager

注記

注: これは、組み込み自動化ツールを使用して実行できる多くのことの一例に過ぎません。

- Nerdio Manager **Set as Image** 機能を実行する際に、必ず (デスクトップイメージ VM を実行したままにする) オプションを選択するようにしてください。これにより、Nerdio Manager タスクが完了した後も VM が実行され続け、エンドポイント管理ツールが VM にアクセスしてイメージを変更できます。
- エンドポイント管理ツールで、パッチチューズデーに Windows Update を適用するための定期的なスケジュールジョブまたは Runbook を作成します。
- Nerdio Manager **Set as Image** 機能を、エンドポイント管理ツールのジョブが完了した後すぐに開始する定期的なジョブとして構成します。ジョブの構成に関する詳細については、「[デスクトップイメージの Set as Image \(54\)](#)」を参照してください。
- Nerdio Manager ホストを再イメージ化する 機能を、Set as Image プロセスが完了した後すぐに開始する定期的なジョブとして構成します。ジョブの構成に関する詳細は、「[ホストプールのサイズ変更または再イメージ化](#)」を参照してください。

このように、3 つの定期的なスケジュールジョブを作成することで、VM に Windows Update を適用し、VM イメージを設定し、毎月更新されたデスクトップイメージでホストプールを更新できます。

デスクトップイメージを作成する

Nerdio Manager for Enterprise を使用すると、Azure ライブラリ内の既存のイメージから、または既存の Azure VM をインポートすることで、デスクトップイメージを作成できます。

デスクトップイメージの作成ウィザードを開く

1. (クラウドデスクトップ) > (デスクトップイメージ) に移動します。
2. ページの右下隅から、作成を選択します。

デスクトップイメージの作成ダイアログが開きます。これには以下のセクションが含まれます。VM、AD に参加、設定、クリーンアップ、スクリプト化されたアクションとアプリ、イメージ、レプリケーション、およびタグ。

VM を設定する

1. デスクトップイメージのソースと一致する表を参照し、記載されている情報を入力してください。

注記

注: (37) 必要なパラメーターのいくつかについては、リソース選択ルールを使用して利用可能な選択肢をフィルタリングできます。例えば、インテル RAM 最適化 VM のみのために、VM サイズや OS ディスクの選択肢をフィルタリングできます。詳細については、[リソース選択ルール管理 \(37\)](#)を参照してください。

Azure ライブラリ

UI 要素	タイプ	説明
ソース	ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから Azure ライブラリ を選択し、ライブラリ内の既存のイメージからイメージを作成します。
名前	テキストフィールド	名前 名前: デスクトップイメージの名前を入力します。
説明	テキストフィールド	説明説明を入力してください。
ネットワーク	ドロップダウンリスト	VM が接続するネットワークを選択します。注: VM は、ネットワークに関連付けられた Azure リージョンで作成されます。

UI 要素	タイプ	説明
Azure イメージ:	ドロップダウンリスト	AVD でサポートされている Windows OS の要件に基づいて、目的のイメージを選択します (例: Windows 11 EVD マルチセッション (EVD = Enterprise Virtual Desktop)). Microsoft 365 Apps とラベル付けされたイメージには、Microsoft 365 Apps for enterprise のプレインストール版が含まれており、ライセンスを持つユーザーがデスクトップにサインインすると有効化されます。このリストには、すべての標準 Azure Marketplace イメージと、Azure サブスクリプション内で利用可能なすべてのカスタムマネージドイメージが含まれています。
「ステージング済み」イメージバージョンを使う	トグル	有効になっている場合、このデスクトップイメージは選択したデスクトップイメージの "ステージング済み" バージョン (利用可能な場合) で作成されます。この設定は (地理的分散と Azure Compute Gallery) が有効になっているデスクトップイメージでのみ利用可能です
VM サイズ:	ドロップダウンリスト	サイズを選択します。
OS ディスク	ドロップダウンリスト	ディスクを選択します。パフォーマンスレベルも選択できます。
リソースグループ:	ドロップダウンリスト	VM のネットワークインターフェイスを含むリソースグループを選択します。
デスクトップイメージが停止しているときにディスクタイプを最適化:	チェックボックス	デスクトップイメージが停止しているときに OS ディスクのタイプをダウングレードして、コストを節約します。VM が起動すると、OS ディスクタイプは選択したものにに戻ります。

Azure VM

UI 要素	タイプ	説明
ソース	ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから Azure VM を選択して、既存の VM をデスクトップイメージとしてインポートします。
SAS URL	テキストフィールド	Azure ポータルから生成された SAS URL を貼り付けます。VM はマネージドディスクに基づいている必要があります。Azure ポータルで VM を停止し、OS ディスクに移動して「ディスク エクスポート」を選択し、URL を生成します。
名前	テキストフィールド	名前: デスクトップイメージの名前を入力します。
説明	テキストフィールド	説明を入力してください。
ネットワーク	ドロップダウンリスト	VM が接続するネットワークを選択します。注: VM は、ネットワークに関連付けられた Azure リージョンで作成されます。

UI 要素	タイプ	説明
OS	ドロップダウンリスト	VM のオペレーティングシステムを選択します。選択した OS が Hyper-V 第 2 世代を必要とし (Windows 11 など)、第 2 世代がまだ有効になっていない場合は、 設定 ステップで イメージ VM を第 2 世代として作成 を有効にするか、代わりに第 1 世代互換のイメージを選択するように求めるメッセージが表示されます。
VM サイズ:	ドロップダウンリスト	サイズを選択します。
OS ディスク	ドロップダウンリスト	ディスクを選択します。パフォーマンスレベルも選択できます。
リソースグループ:	ドロップダウンリスト	VM のネットワークインターフェイスを含むリソースグループを選択します。
デスクトップイメージが停止しているときにディスクタイプを最適化:	チェックボックス	デスクトップイメージが停止しているときに OS ディスクのタイプをダウングレードして、コストを節約します。VM が起動すると、OS ディスクタイプは選択したものにに戻ります。

2. (次へ) を選択します。

AD への参加を設定する

1. 以下を設定します:

- AD に参加:既定で有効になっています。**AD 参加**: これを選択解除すると、VM は作成時に AD に参加しません。これにより、作成前にイメージに AD GPO が適用されるのを防げます。VM は AD ドメインのメンバーにならないため、**設定** ステップの **カスタム認証情報** フィールドでローカル管理者の資格情報を必ず指定してください。
- ドロップダウンリストから、参加する Active Directory ドメインを選択します (例: **denver.int (既定)**)。

2. (次へ) を選択します。

設定を設定する

1. 次の情報を入力してください:

UI 要素	タイプ	説明
休止状態をサポート	チェックボックス	VM を休止状態にできるようにする場合は、このオプションを選択してください。休止状態では、メモリの内容を保持したまま仮想マシンの割り当てを解除できるため、次回 VM を起動したときに、中断した場所から再開できます。イメージ作成後は、ハイバネーションの有効化や無効化ができなくなります。

UI 要素	タイプ	説明
特殊化イメージ	チェックボックス	イメージがスペシャライズド イメージの場合は、このオプションを選択してください。一般化イメージでは、VM でコマンドを実行することにより、マシンおよびユーザー固有の情報が削除されています。専門化されたイメージはこの情報を保持し、一般化プロセスを経ていません。
Sysprep の実行コンテキスト	ドロップダウンリスト	Sysprep を VM 上で実行するコンテキスト (System コンテキストなど) を選択します。
Gen2 としてイメージ VM を作成する	チェックボックス	VM ステップでソースとして Azure VM が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択して、VM を第 2 世代 (Gen2) として作成します。デフォルトでは、デスクトップイメージ VM は Gen1 として作成されます。選択した OS が第 2 世代を必要とするにもかかわらずこのオプションが選択されていない場合は、続行するために第 1 世代互換の Azure イメージを選択するように求めるメッセージが表示されます。詳細については、 Azure での第 2 世代 VM のサポート を参照してください。
タイムゾーンリダイレクト	チェックボックス	このオプションを選択すると、イメージ上でタイムゾーンリダイレクトが有効になります。これにより、各ユーザーは自分の AVD デスクトップセッション内でローカルデバイスのタイムゾーンを見ることができます。
タイムゾーンを設定	トグル	このオプションをオンに切り替えて VM のタイムゾーンを設定し、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。
ブート診断	トグル	既定で有効になっています。VM の起動中に診断ログとスクリーンショットを収集して格納します。
ブート診断ストレージアカウント	ドロップダウンリスト	ブート診断が有効な場合にのみ適用されます。このフィールドは、ブート診断ログを Azure 管理ストレージアカウントに保存するために、管理ストレージアカウントに設定しておくことをお勧めします。または、ドロップダウンリストからユーザー管理のストレージアカウントを選択します。
セキュリティタイプ	ドロップダウンリスト	デスクトップイメージの仮想マシンに最適なセキュリティオプションを選択します。 標準 がデフォルトで設定されています。追加のセキュリティオプションは、 地理的分散 & Azure Compute Gallery オプションが有効な第 2 世代の仮想マシンにのみ利用できます。トラステッド起動および機密仮想マシンはセキュリティを向上させますが、バックアップ、マネージドディスク、エフエム OS ディスクがサポートされないなどの制限があります。詳細については、 Azure 仮想マシンのトラステッド起動および Azure 機密 VM について を参照してください。
セキュアブート:	チェックボックス	セキュリティタイプとしてトラステッド起動仮想マシンが選択されている場合にのみ使用できます。セキュアブートを有効にします。これにより、ブートキット、ルートキット、カーネルレベルのマルウェアから VM を保護できます。

UI 要素	タイプ	説明
vTPM	チェックボックス	セキュリティタイプとしてトラステッド起動仮想マシンが選択されている場合にのみ使用できます。仮想トラステッドプラットフォームモジュール (vTPM) を有効にします。これは TPM 2.0 に準拠しており、VM のブート整合性を検証するとともに、キーとシークレットを安全に格納します。
整合性モニタリング	チェックボックス	セキュリティタイプとしてトラステッド起動仮想マシンが選択されている場合にのみ使用できます。整合性モニタリング: このオプションを選択して、VM のブート整合性を暗号的に証明・検証し、定義されたベースラインで証明に失敗した場合のアラートを監視できるようにします。
ホストでの暗号化	トグル	既定では無効になっています。Azure ホストから始まり、VM データの保存時および送信時のエンドツーエンドの暗号化を提供します。
カスタム資格情報	トグル	既定では無効になっています。オンにして、ローカル管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
App Attach 証明書をインストール	チェックボックス	このオプションを選択すると、該当する場合、VM に保存されているすべての証明書がインストールされます。注意: 格納された証明書を表示するには、(App Attach) > (証明書) に移動します。
App-V クライアントサービスを有効にする	チェックボックス	VM が App-V パッケージを含む App Attach パッケージを使用する場合は、このオプションを選択します。

2. (次へ) を選択します。

クリーンアップオプションの設定

1. デスクトップイメージのソースと一致する表を参照し、記載されている情報を入力します。

Azure ライブラリ

UI 要素	タイプ	説明
ローカルプロファイルの削除をスキップ	チェックボックス	ローカルプロファイルの削除をスキップこのオプションを選択すると、Sysprep 実行前にローカルユーザープロファイルの削除ステップをスキップできます。
レガシー VDI エージェントをアンインストール	チェックボックス	このオプションを選択すると、イメージをキャプチャする前に VM から Citrix および Omnissa VDI エージェントの削除が試行されます。検出されたエージェントのみが削除されます。

UI 要素	タイプ	説明
FSLogix アプリを削除	チェックボックス	既定で選択されています。このオプションを選択すると、イメージ上で FSLogix エージェントが検出された場合、削除されます。FSLogix エージェントはデスクトップイメージ上では不要です。このデスクトップイメージから作成されたセッションホストには、最新の FSLogix エージェントが自動的にインストールされます。

Azure VM

UI 要素	タイプ	説明
ローカルプロファイルの削除をスキップ	チェックボックス	このオプションを選択すると、Sysprep 実行前にローカルユーザープロファイルの削除ステップをスキップできます。Nerdio Manager イメージ作成プロセス中に、すべてのローカルユーザープロファイルを削除します。これにより、Sysprep が成功する可能性が高まります。このオプションを選択すると、このステップをバイパスします。イメージ VM に部分的にインストールされた APPX アプリがある場合、Sysprep はそれらの削除に失敗します。
レガシー VDI エージェントをアンインストール	チェックボックス	このオプションを選択すると、イメージをキャプチャする前に VM から Citrix および Omnissa VDI エージェントの削除が試行されます。検出されたエージェントのみが削除されます。
FSLogix アプリをアンインストール	チェックボックス	既定で選択されています。FSLogix アプリがベースイメージにすでにインストールされており、Nerdio Manager が FSLogix を管理できるようにアンインストールしたい場合は、このオプションを使用します。
AVD エージェントをアンインストール	チェックボックス	以前に AVD エージェントがインストールされた既存の AVD セッションホストからイメージを作成する場合は、このオプションを使用します。 ヒント : インポートされたこの VM をデスクトップイメージとして設定する前に、必ず AVD エージェントをアンインストールするようにしてください。詳細については、「 デスクトップイメージの AVD エージェントの手動アンインストール 」を参照してください。

2. (次へ) を選択します。

Scripted Actions とアプリを設定する

1. 次の情報を入力してください。

- 次の Scripted Actions を実行します:このオプションを **オン** に切り替え、ドロップダウンリストから作成時に実行する Scripted Actions を選択します。

 注記

- Windows スクリプトは、Azure Custom Script 拡張機能を介して実行され、デスクトップイメージ VM のクローン上で sysprep が実行される前の LocalSystem アカountのコンテキストで実行されます。これらのコマンドは、イメージ VM 自体では実行されません。
 - Azure Runbook は Azure Automation アカountを介して実行され、Nerdio Manager
 - いくつかの変数がスクリプトに渡され、PowerShell コマンドで使用できます。
 - 必要に応じて、必要なパラメータを提供してください。
- AD 資格情報を渡す : **AD 資格情報を渡す: (設定) > (統合) > (Active Directory)** ページで指定された AD 資格情報を実行されるスクリプトに渡すには、このオプションを選択します。スクリプト内では、それらを \$ADUsername および \$ADPassword として参照します。
 - ターゲット VM スクリプト操作をデスクトップイメージ VM の **複製 (既定)** に対して実行するか、ソース VM に対して実行するかを選択します。
 - アプリケーション管理このオプションをオン に切り替えて、作成中にデプロイするアプリを指定してください。
 - アプリケーション: **アプリケーション: アプリケーションリスト**で (新しいアプリケーションを追加) を選択し、ドロップダウンリストからこのポリシーに含めるアプリケーションを選択します。

 注記

- 必要に応じて、任意の数のアプリケーションを追加できます。
 - リスト内のアプリケーションをドラッグアンドドロップして、リスト内の順序を変更します。
 - リストからアプリケーションを削除するには、アプリケーションの横にある「X」を選択します。
- 追加されたアプリまたは App Group について、以下から 1 つ選んでください。
 - アプリをインストールする : **選択したアプリをインストール**します。
 - アプリをアンインストールする : **選択したアプリをアンインストール**します。

- Application Group をインストールする :このオプションを選択すると、Application Group をインストールできます。
- App Group のアンインストール:選択した App Group をアンインストールします。
- Search application フィールドで、上記のオプションに基づき、インストールまたはアンインストールするアプリまたは App Group を選択してください。
- お気に入りのみを表示:このオプションを選択して、お気に入りにマークされたアプリのみを表示してください。そうでない場合は、アプリケーションのリストを検索できます。
- インストール後に再起動 :このアプリがインストールされた後、デスクトップイメージ VM のクローンを再起動するには、このオプションを選択してください。再起動が完了すると、次のアプリタスクが再開されます。
- ターゲット VM アプリの操作をデスクトップイメージ VM の クローン作成 (既定) に対して実行するか、ソース VM に対して実行するかを選択します。

2. (次へ) を選択します。

イメージの構成

1. 次の情報を入力してください：

UI 要素	タイプ	説明
イメージオブジェクトを作成しない	チェックボックス	イメージオブジェクトを作成しないこのオプションを選択すると、デスクトップイメージ VM のみが作成され、イメージオブジェクトは作成されません。
地理的分散と Azure Compute Gallery:	トグル	既定で有効になっています。イメージを Azure Compute Gallery に格納し、選択した Azure リージョンに自動的に配信します。
Azure Compute Gallery:	テキストフィールド / ドロップダウンリスト	名前を入力して既存の Azure Compute Gallery を選択するか、新しいものを作成します。選択できる Azure Compute Gallery は 1 つのみです。既存のギャラリーは、イメージ VM と同じ Azure サブスクリプション内のリンクされたリソースグループに存在する必要があります。
Azure リージョン	複数選択	選択したギャラリーに紐付けられているリージョンが自動的に入力されます。デスクトップイメージのバージョンをレプリケートするリージョンを削除または追加できます。現在の Azure リージョンを選択に含める必要があります。

UI 要素	タイプ	説明
レプリカ数 (リージョンごと)	テキストフィールド	リージョンごとのレプリカ数を指定します。Azure Compute Gallery のレプリカは、レプリカごとに最大 20 件の同時に実行されるクローン作成操作をサポートします。リージョンあたり最大 100 個のレプリカがサポートされます。レプリカは同じサブスクリプション内でのみ展開できます。

2. (次へ) を選択します。

レプリケーションを設定する

1. 次の情報を入力してください：

- Cloud PCs で有効にする Windows 10/11 エンタープライズが必要です。AVD、EVD、または CIS イメージでは使用できません。
- カスタム (Azure Local) の場所ドロップダウンリストから、イメージをレプリケートする任意のカスタム Azure Local リージョンを選択します。
- **Nutanix クラスタ** (AVD Hybrid on Nutanix AHV のみ): ドロップダウンリストからイメージを同期する Nutanix クラスタを選択します。

注記

注意: 管理されたイメージバージョン (アクティブ または ステージ) のみが Nutanix に同期されます。管理されていない (バックアップ) バージョンは同期されません。詳細については、[Nutanix ホストプール用の VM テンプレートを作成する](#) を参照してください。

2. (次へ) を選択します。

タグを構成して送信

1. 次の情報を入力してください。

注記

注: 複数のタグを指定できます。指定されたタグは、イメージ VM、OS ディスク、ネットワークインターフェース、イメージオブジェクト、および Azure Compute Gallery イメージに適用されます。Azure リソースを整理するためのタグの使用に関する詳細は、[Azure リソースと管理階層を整理するためのタグの使用](#) を参照してください。

- タググループ必要に応じて、ドロップダウンリストから定義済みのタググループを選択して、そのタグを自動的に適用します。
- タグを適用する :オプションで、**Azure タグの 名前 と 値** を入力します。

2. 送信を選択してください。

Nerdio Manager for Enterprise がデスクトップイメージを作成し始めます。完了まで最大 1 時間かかることがあります。進行状況は、タスク タブの **デスクトップイメージ** ページで確認できます。

デスクトップイメージ: Set as Image

Nerdio Manager

デスクトップイメージを Set as Image するには：

1. クラウドデスクトップ > デスクトップイメージ に移動します。
2. 作業したいデスクトップイメージを見つけてください。
3. アクションメニューから、**電源オフ & Set as Image** または **Set as Image** を選択します (このデスクトップイメージの電源状態に応じて)。
4. 次の情報を入力してください：
Nutanix クラスター：(Nutanix AHV 上の AVD Hybrid のみ):ドロップダウンリストからイメージを同期する Nutanix クラスターを選択します。

注記

注意: 管理されたイメージバージョン (アクティブ または [ステージ](#)) のみが Nutanix に同期されます。管理されていない (バックアップ) バージョンは同期されません。詳細については、「[Nutanix ホストプール用の仮想マシン テンプレートを作成する](#)」を参照してください。

- イメージとして設定する前に、次の Scripted Actions を実行します:このオプションをオン に切り替えて、イメージとして設定する前にスクリプトアクションを実行します。

注記

注: たとえば、スクリプトを実行してイメージを最適化したり、ソフトウェアや更新をインストールしたりできます。

- ドロップダウンリストから、実行したい Scripted Actions を選択してください。
- AD 資格情報を渡す :スクリプトアクションを実行するために使用する場合は、このオプションを選択してください。
- アプリケーション管理このオプションをオン に切り替えて、作成中にデプロイするアプリを指定してください。
- アプリケーション:アプリケーション: アプリケーションリストで (新しいアプリケーションを追加) を選択し、ドロップダウンリストからこのポリシーに含めるアプリケーションを選択します。

注記

- 必要なだけアプリを追加できます。
 - アプリケーションの順序を変更するには、リスト内にアプリケーションをドラッグアンドドロップします。
 - リストからアプリケーションを削除するには、アプリケーションの横にある「X」を選択します。
- インストールする/アンインストールする:アプリをインストールする: 展開ポリシーが選択したアプリをインストールするかどうかを選択します。
 - インストール後に再起動 :このアプリがインストールされた後、デスクトップイメージ VM のクローンを再起動するには、このオプションを選択してください。再起動が完了すると、次のアプリタスクが再開されます。
 - お気に入りのみを表示:このオプションを選択して、お気に入りのマークされたアプリのみを表示してください。そうでない場合は、アプリケーションのリストを検索できます。
 - スケジュール:スケジュール: 選択した時間に操作を実行するには、スケジュールオプションをオンにします。スケジュールの作成に関する詳細は、[タスクのスケジュール管理 \(35\)](#)を参照してください。
 - Azure Marketplace からイメージを更新このオプションをオン に切り替えて、既存のイメージオブジェクトを削除し、選択した Azure Marketplace イメージの最新バージョンに置き換えます。

注記

注: このオプションを有効にすると、既存のデスクトップイメージ VM が削除され、選択した Azure Marketplace イメージの最新バージョンから再作成されます。

- **セキュリティタイプ セキュリティタイプ:** このオプションは、イメージが作成または Nerdio Manager

 注記

- **標準**がデフォルトで設定されています。追加のセキュリティオプションは、**地理的分散と Azure コンピュートギャラリー**オプションが有効な世代 2 の VM にのみ利用可能です。
- **信頼できる起動**および**機密仮想マシンのセキュリティ**オプションは、Azure 世代 2 の VM のセキュリティを向上させるのに役立ちます。ただし、提供される追加のセキュリティ機能には、バックアップ、マネージドディスク、およびエフェメラル OS ディスクのサポートがないなどの制限もあります。詳細については、次を参照してください:
 - Azure 仮想マシンの信頼できる起動
 - Azure 機密 VM について

- **地理的分散と Azure Compute Gallery:** このオプションを選択して、イメージを Azure Compute Gallery に格納し、選択した Azure リージョンに自動的に配信します。
- **Azure Compute Gallery: セキュリティタイプ:** このオプションは、イメージが作成または Nerdio Manager

 注記

注: 選択できる Azure Compute Gallery は 1 つのみです。既存の Azure コンピュートギャラリーは、イメージ VM と同じ Azure サブスクリプション内のリンクされたリソースグループに存在する必要があります。

- **Azure リージョン Azure リージョン:** ドロップダウンリストからデスクトップイメージバージョンをレプリケートする Azure リージョンを選択します。

 注記

現在の Azure リージョンを選択に含める必要があります。

- バージョンの増分タイプドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択してください:

- 1.4.3 -> Major:
- 2.0.0、Minor:
- 改訂 1.2

 注記

バージョン番号は、メジャー .マイナー .リビジョン の形式です。たとえば、バージョン 1.4.3 を更新する場合、選択した バージョンインクリメントタイプ ドロップダウンに応じて、上位バージョンは次のように番号付けされます。

- 1.4.3 -> Major:2.0.0
- 2.0.0、Minor:1.5.0
- 改訂 1.2220

- 特殊化イメージがスペシャライズド イメージの場合は、このオプションを選択してください。

 注記

一般化イメージでは、VM でコマンドを実行することにより、マシンおよびユーザー固有の情報が削除されています。専門化されたイメージはこの情報を保持し、一般化プロセスを経ていません。

- 休止状態をサポート VM を休止状態にできるようにする場合は、このオプションを選択してください。

 注記

休止状態では、メモリの内容を保持したまま仮想マシンの割り当てを解除できます。これにより、次回 VM を起動したときに、中断した場所から再開できます。イメージ作成後は、ハイバネーションの有効化や無効化ができなくなります。

- 新しいイメージを非アクティブとしてステージング:このオプションを選択すると、新しいイメージバージョンが有効にならずに作成されます。

 注記

注: 既存の構成では、引き続き現在のバージョンのイメージが使用されます。ステージされたデスクトップイメージのアクティブ化の詳細については、[ステージデスクトップイメージ](#)を参照してください。

- 次の期間後にステージ済みイメージをアクティブ化: このオプションを選択すると、ステージング後、数日後に自動的にイメージがアクティブ化されます。リンクされたプールでは、関連付けられているイメージが更新されます。
- 現在のイメージアクション: 次のいずれかを選択してください:
 - 現在のバージョンをバックアップとして保持: このオプションは、現在のイメージバージョンをスタンドアロンオブジェクトとして保持します。このイメージバージョンは、では表示や管理ができないため、不要になった場合は手動で削除して、Azure ストレージの無駄なコストを防いでください。以前の Azure Compute Gallery イメージのバージョンは、デスクトップイメージ (テンプレート) メニューの 管理されていない ACG イメージバージョン の下で引き続き使用できます。
 - アクティブ化後に現在のバージョンを削除: このオプションは、アクティブ化後に現在のイメージバージョンを自動的に削除します。
- レプリカ数 (リージョンごと): リージョンごとのレプリカ数を指定します。

 注記

- Azure Compute Gallery のレプリカは、レプリカごとに最大 20 件の同時に実行されるクローン作成操作をサポートします。
 - 指定したレプリカ数が展開要件を満たしていることを確認してください。リージョンあたり最大 100 個のレプリカがサポートされます。
 - レプリカは同じサブスクリプション内にのみ展開できます。
- バックアップバージョン上限保持できるバックアップイメージのバージョンの最大数を指定します。

 注記

新しいイメージバージョンが作成され、古いバージョンがバックアップとして保存されると、システムは指定された上限に従って、これらのバックアップの数を自動的に管理および制限します。上限に達した場合、最も古いバージョンが削除されます。この設定はデスクトップイメージ設定の **バージョンを管理** オプションで設定することができます。

- 現在のイメージをバックアップとして保存このイメージを選択すると、既存のイメージがスタンドアロンオブジェクトとして保持され、新しいもので上書きされることはありません。

 注記

- このイメージは Nerdio Manager
- 現在のイメージが Azure Compute Gallery に保存されている場合、古いバージョン番号で保持されます。イメージが Azure Compute Gallery に保存されていない場合、Azure ポータル > イメージで見つけることができます。 **のイメージセレクトーリストでは、カスタムイメージ Nerdio Manager**

- App Attach 証明書をインストールこのオプションを選択すると、イメージ VM に格納されているすべての証明書がインストールされます。
- App-V クライアントサービスを有効にする VM が App-V パッケージを含む App Attach パッケージを使用する場合は、このオプションを選択します。
- ローカルプロファイルの削除をスキップこのオプションを選択すると、すべてのローカルユーザープロファイルの削除をスキップできます。

 注記

Nerdio Manager イメージ作成プロセス中に、はすべてのローカルユーザープロファイルを削除します。これにより、Sysprep が成功する可能性が高まります。このオプションを選択すると、このステップをバイパスします。イメージ VM に部分的にインストールされた APPX アプリがある場合、Sysprep はそれらを削除しません。

- Cloud PCs で有効にするこのオプションを選択すると、このイメージが Windows 365 Cloud PC サービスで利用可能になります。

 注記

イメージはアップロードされ、Cloud PC との互換性がテストされます。この処理には時間がかかる場合があります。Windows 365 にアップロードできるイメージは最大 20 個です。

- デスクトップイメージ VM を実行したままにするこのオプションを選択すると、Set as Image タスク完了後も VM を実行したままにできます。

 注記

これは、実行中の VM に OS やアプリケーションの更新をプッシュする場合に便利です。

- 変更ログイメージに対して行った変更のリストを入力します。
- タグを適用する :オプションで、Azure タグの 名前 と 値 を入力します。

 注記

注: 複数のタグを指定できます。指定されたタグは、イメージ VM、OS ディスク、ネットワークインターフェース、イメージオブジェクト、および Azure Compute Gallery イメージに適用されます。Azure リソースを整理するためのタグの使用に関する詳細は、[Azure リソースと管理階層を整理するためのタグの使用](#)を参照してください。

5. すべての必要な情報を入力したら、**今すぐ実行** (スケジュールされていない) または **保存して閉じる** (スケジュール済み) を選択します。

ログでジョブの進捗を確認できます。ログの詳細については、[デスクトップイメージの変更ログ機能](#)を参照してください。

デスクトップイメージの Scripted Actions

Nerdio Manager

 注記

注: スクリプトアクションをすぐに実行するか、スケジュールに合わせて実行できます。

:

1. メインメニューから、**デスクトップイメージ**を選択します。
2. アクションメニューから、**(スクリプトを実行)**を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - スケジュール:スケジューラーの状態を **オン / オフ** に切り替えます。スケジュールの作成に関する詳細は、[タスクのスケジュール管理 \(35\)](#)を参照してください。
 - Scripted Actions ドロップダウンリストから実行するスクリプトを選択します。

 注記

- Windows スクリプトは、Azure カスタムスクリプト拡張機能を通じて実行され、LocalSystem アカウントのコンテキストで実行されます。
- Azure Runbook は Azure Automation アカウントを通じて実行され、Nerdio Manager
- 次の変数がスクリプトに渡され、PowerShell コマンドで使用できます。
 - \$AzureSubscriptionId
 - \$AzureSubscriptionName
 - \$AzureResourceGroupName
 - \$AzureRegionName
 - \$AzureVMName
 - \$ADUsername (AD 資格情報を渡す場合)
 - \$ADPassword (AD 資格情報を渡す場合)
 - \$SATrigger = "RunOnce"
 - \$SATriggerMode = "Manual" | "Schedule"
 - \$DesktopImageVmName
 - \$DesktopImageActiveVersion
 - \$DesktopImageStagedVersion

- **Scripted actions input parameters:** 必要に応じて、必要なパラメータを提供してください。
- AD 資格情報を渡す : 実行されるスクリプトに AD 認証情報を渡すために選択します。
- スクリプト実行後に VM を再起動: スクリプトの実行後に VM を再起動するために選択します。

 注記

注: スクリプトが VM を再起動するとカスタムスクリプト拡張機能が失敗するため、PowerShell コマンドで VM を再起動するのではなく、このオプションを選択することをお勧めします。

4. 必要な情報をすべて入力したら、(実行) を選択してすぐに実行するか、(保存して閉じる) を選択してスケジュールに従って実行します。

ステップ 3:ホストプール

デスクトップイメージが準備できたら、次のステップは、ユーザーが実際に接続するセッションホストのプール (ホストプール) を作成し、その構築方法、スケール方法、割り当て方法を設定することです。

このセクションでは:

1. ホストプールの概要
2. ワークスペース管理
3. [動的ホストプールの作成 \(66\)](#)
4. ホストプールプロファイルを管理する
5. [動的ホストプールの自動スケールを有効にする \(78\)](#)
6. [個人用ホストプールの自動スケーリングを有効にする \(92\)](#)
7. Auto-scale コスト最適化 セッションホスト VM OS ディスクストレージ
8. 動的ホストプールに新しいセッションホストを追加する
9. ホストプール AVD 構成
10. ホストプールの仮想マシン展開
11. ホストプールのユーザー割り当てを管理する
12. ホストプールの Active Directory 設定を構成する
13. プール型ホストプールの「接続時に VM を起動 (Start VM on Connect)」
14. ユーザーセッション時間制限の設定
15. [リモートアプリケーションをユーザーに公開する \(135\)](#)

ホストプールの概要

▲ 警告

Nerdio Manager は、自動化または管理プロセス中に BglInfo Azure 拡張機能をインストールしません。ただし、[Azure PowerShell モジュールの問題に関するレポート](#)に記載されているように、BglInfo 拡張機能はスクリプトアクションから直接インストールされるか、意図せずインストールされる場合があります。

デスクトップイメージを作成した後、Nerdio Manager

ホストプールは、エンドユーザーがサインインする Azure Virtual Desktops をホストする同一の Azure VM のグループです。ホストプール内のすべての VM は、一連の構成オプションを共有します。VM サイズ、OS ディスクサイズ、ベースイメージ、AD ドメイン、ユーザープロファイルストレージの場所など。

2 種類のホストプールを構成できます：

- **静的:静的**：静的ホストプールは、管理者が設定する固定数のセッションホストで構成されます。つまり、自動スケールは有効になっていません。

注記

Nerdio Manager **が最初に**既存の環境にデプロイされると、作成されるホストプールは静的ホストプールです。それらは動的ホストプールに変換できます。

- **動的:動的**：動的ホストプールは、ワークロードに応じて構成をスケールインおよびスケールアウト（自動スケール）できるホストプールです。つまり、自動スケールは自動スケール構成に基づいてセッションホストを自動的に作成できます。
- **ハイブリッドハイブリッド**：ハイブリッドホストプールは、Azure のセッションホストとオンプレミスのセッションホストの両方で使用するために構成されており、Azure Local の Azure Virtual Desktop を介して接続されています。

こちらをご覧ください

- [自動スケールなしの静的ホストプールの作成](#)
- [動的ホストプールの作成 \(66\)](#)
- [ホスト、ホストプール、ワークスペースの削除](#)
- [静的ホストプールを動的に変換する](#)

ワークスペース管理

ワークスペースは、ユーザーにデスクトップと RemoteApp を提供するホストプールとセッションホストのコンテナです。このトピックでは、ワークスペースの作成と管理について説明します。

ワークスペースを作成する

ホストプールとセッションホストを作成する前に、ワークスペースを作成する必要があります。

ワークスペースを作成するには:

1. クラウドデスクトップ > Azure Virtual Desktop > ワークスペースに移動します。
2. ワークスペースの追加を選択します。
3. 次の情報を入力してください:
 - 名前 ワークスペースの名前を入力します。

注記

注: 名前は作成時にワークスペースに割り当てられ、後で変更できません。デフォルトでは、エンドユーザーに表示されます。表示名を指定すると、エンドユーザーに表示される内容が上書きされます。

- フレンドリ名: フレンドリ名を入力します。
- 説明説明を入力します。これは管理者のみが表示できます。
- リソースグループ: ドロップダウンリストから、ワークスペースを含むリソースグループを選択します。
- 場所リージョン: ドロップダウンリストから、ワークスペースのオブジェクトと関連メタデータ用の Azure リージョンを選択します。
- タグを適用する: タグを適用: 任意で、セッションホストに適用する Azure タグの (名前) と (値) を入力します。

注記

注: 複数のタグを指定できます。Azure リソースの整理にタグを使用する方法の詳細については、Microsoft の [記事](#) を参照してください。

4. すべての希望する情報を入力したら、(OK) を選択します。

ワークスペースが作成されました。

ワークスペースの管理

ワークスペーステーブルから、次の操作を行うことができます:

- ホストプールワークスペースの動的ホストプールを管理します。
- 静的ホストプールワークスペースの静的ホストプールを管理します。
- 割り当て解除 Nerdio Manager からワークスペースの割り当てを解除します。

- 削除ワークスペースを削除する

注記

注意: ホストプールがないワークスペースのみ削除できます。

- ユーザーセッションワークスペースのユーザーセッションを管理します。

動的ホストプールの作成

警告

Nerdio Manager は、自動化または管理プロセス中に BgInfo Azure 拡張機能をインストールしません。ただし、[Azure PowerShell モジュールの問題に関するレポート](#)に記載されているように、BgInfo 拡張機能はスクリプトアクションから直接インストールされるか、意図せずインストールされる場合があります。

以下の手順で、新しい動的ホストプールを作成できます。

新しい動的ホストプールを作成するには:

注記

このウィザードの多くのフィールドには、フィールドラベルの横に情報ツールチップがあります。各オプションの詳細については、これらのツールチップを参照してください。

(ホストプールの追加)ウィザードを開きます

1. クラウドデスクトップ > Azure Virtual Desktop > ワークスペース に移動します。

2. 作業したいワークスペースを選択します。
3. (新規ホストプール) を選択します。

ホストプールの追加というタイトルのダイアログが開きます。これには以下のセクションが含まれています。基本、VM テンプレート、Active Directory、FSLogix、RDP、タグ、アプリケーションポリシー。

基本を設定する

次の情報を入力してください：

注記

注: (37) 必要なパラメーターのいくつかについては、リソース選択ルールを使用して利用可能な選択肢をフィルタリングできます。例えば、インテル RAM 最適化 VM のみのために、VM サイズや OS ディスクの選択肢をフィルタリングできます。詳細については、[リソース選択ルール管理 \(37\)](#)を参照してください。

- 名前 名前: ホストプールの名前を入力します。
- 説明ホストプールの説明を入力します。

注記

注意: オプションで、[AI を使用して生成](#)を選択すると、AI が説明を作成します。詳細については、[AI による説明生成の概要](#)をご覧ください。

- リソースグループ: ドロップダウンリストから、ホストプール用のリソースグループを選択します。
- ホストタイプ: ドロップダウンリストから、ホストタイプ (Azure Cloud、Azure Local、または Nutanix) を選択します。
- ホストプールの種類動的を選択します。
- デスクトップエクスペリエンスドロップダウンリストからデスクトップエクスペリエンスを選択します。
- AVD マルチセッションデスクトップ (プール)これはフルデスクトップエクスペリエンスです。ユーザーは個々のセッションホストに割り当てられず、負荷に基

づいてホストに配置されます。複数のユーザーがホストグループにまとめて配置されます。

- AVD マルチセッション RemoteApp (プール)これは公開されたアプリのみで、フルデスクトップエクスペリエンスではありません。公開された RemoteApp は、ユーザーのローカルコンピュータで実行されているネイティブアプリとして表示されます。RemoteApp は、セッションホストのコレクション (プール) によって提供されます。
- AVD シングルセッションデスクトップ (プール)これはフルデスクトップエクスペリエンスです。ユーザーは個別のデスクトップ VM (セッションホストごとに 1 人のユーザー) に配置され、事前構成された数の予備 (利用可能な) デスクトップが維持されます。
- AVD シングルセッションデスクトップ (個人)これは専用で永続化されたフルデスクトップエクスペリエンスです。各ユーザーには専用のセッションホスト VM が割り当てられます。
- (AVD シングルセッションデスクトップ (個人用)) を (デスクトップエクスペリエンス) として選択する場合は、次の追加機能を構成する必要があります:
 - 割り当てタイプ:デスクトップをユーザーに割り当てる方法を選択します。

注記

注意: ユーザーが個人用デスクトップにサインインするには、事前に VM に割り当てられている必要があります。

- 任意で、(単一ユーザーに複数のデスクトップを割り当てる) を選択します。

注記

注意: このオプションを選択すると、このホストプールで 1 人のユーザーに複数のデスクトップを割り当てることができます。この設定は有効にすると無効にできず、直接割り当てでのみ使用できます。詳細については、「[個人用デスクトップの割り当ての構成](#)」を参照してください。

- アプリグループ名:オプションで、ホストプールのアプリグループ名を入力します。
- 検証環境:検証環境: このオプションを選択すると、非検証ホストプールよりも速い頻度でサービス更新を受け取り、サービス変更を本番環境に広くデプロイする前にテストできます。

- **クイック割り当て:**クイック割り当て: ドロップダウンリストから、新しく作成するデスクトップに事前に割り当てるユーザーまたはグループを選択します。

(次へ) を選択します。

VM テンプレートを設定してください

- **名前 名前:** 新しく追加するホストの名前を、プレフィックスまたはプレフィックス+パターンとして入力します。
- **プレフィックス/パターン:**ドロップダウンリストから、プレフィックスまたはパターンのどちらを使用するかを選択します。
- **プレフィックス**は、複数のセッションホストを作成する際に使用できます。プレフィックスの上限は、有効な Windows コンピューター名の文字で 10 文字です。プレフィックスを使用する場合は、「-xxxx」形式の一意のサフィックスが自動的に付加されます。xxxx はランダムな英数字 4 文字です。例えば：AVDHOST-s72h。プレフィックスに「-」を追加しないでください。
- **パターン**は、新しいホストのための高度な命名規則を指定するために使用できます。パターン文字は {} で囲む必要があり、# (連番用) や ? (ランダムな英数字用) を使用できます。1 つの # は 0 ~ 9 の数字、2 つの # は 0 ~ 99 の数字を表します。
 - 例:AVDHOST{####} (AVDHOST000..AVDHOST999)。
 - 例:AVDHOST-{???} (AVDHOST-d83、AVDHOST-7sl など)。
- **ネットワーク**ドロップダウンリストからネットワークを選択します。ネットワークは、VM の Azure リージョンを決定します。

注記

Nerdio Manager は、新しいホストプール VM をデプロイする前に、選択したネットワークに十分な数の利用可能な IP アドレスがあることを確認します。利用可能な IP アドレスが不足している場合、エラーメッセージが表示され、新しいホストプールを追加できない場合があります。

- **デスクトップイメージ:**デスクトップイメージ: ドロップダウンリストから、新しく作成するセッションホストのゴールデンイメージとして使用するデスクトップイメージを選択します。
- **VM サイズ:**VM サイズ: ドロップダウンから新しく作成されたセッションホストの VM ディスクサイズとタイプを選択します。

 注記

特定のサブスクリプションまたはリージョンで VM サイズが利用できない場合、そのサイズはリストに表示されません。特定の Azure リージョンで VM サイズが利用可能であっても、特定のサイズに制限があるサブスクリプションのために使用できない場合があります。そのような場合、ドロップダウンリストに VM サイズを表示しますが、ユーザーが選択できないようになっています (サイズは無効になっています)。

- OS ディスク **OS ディスク**: ドロップダウンリストから、新しく作成されたセッションホストの OS ディスクの種類とサイズを選択します。

 注記

注意: これは、上で選択したデスクトップイメージのサイズと同じか、それ以上でなければなりません。スタンダード HDD (S タイプ) の使用はお勧めできません。プレミアム SSD は優れたパフォーマンスを発揮します。

- リソースグループ: ドロップダウンリストから、仮想マシンを含むリソースグループを選択します。

(次へ) を選択します。

Active Directory を設定してください

- ディレクトリプロファイルドロップダウンリストから、**Default**、**Predefined** グローバル設定のいずれか、または **Custom** を選択します。

 注記

Default は常にアプリケーションのグローバル既定 AD 設定を使用するため、その既定が後で変更されても同期が維持されます。Predefined 設定を選択すると、後でグローバル既定が変更された場合でも、その特定の保存済み設定が固定されます。Custom を選択して、このホストプール固有の設定を提供します。

- **Directory type**、**Domain (FQDN)**、**Service account (UPN)**、**Service account password**、および **Organization unit**: これらのフィールドは選択したディレクトリ

プロファイルから自動的に入力され、Directory profile に **Custom** が選択されていない限り読み取り専用となります。Custom が選択されている場合は編集可能になります。セッションホストを特定の OU に作成する必要がある場合は、組織単位を識別名 (DN) パスとして指定します。Computers コンテナを使用する場合は、空白のままにします。

(次へ) を選択します。

FSLogix を設定してください

- **FSLogixFSLogix**: ドロップダウンリストから、このホストプール内でホストを作成または再イメージ化する際に使用する FSLogix 構成プロファイルを選択します。
- FSLogix プロファイルトグルを選択して、FSLogix プロファイルを有効にします。

注記

注: このオプションが有効になっていない場合、このホストプールに新しく作成された VM がデプロイされても、は FSLogix プロファイルコンテナアプリケーションをインストールしません。

- 構成ドロップダウンリストから既存のプロファイルを選択するか、**Custom** を選択して以下の設定をご自身で設定します。

注記

既存のプロファイルを選択すると、そのプロファイルの設定で構成が自動的に完了します。この設定ここでは編集できません。Custom を選択すると、必要に応じてプロファイルを構成することができます。

- **バージョンバージョン**: ドロップダウンリストから FSLogix のバージョンを選択します。
- **Entra ID 参加ストレージ用のセッションホストのレジストリを設定する、FSLogix からローカル管理者アカウントを除外する、および FSLogix からドメインアカウントを除外する**:必要に応じてこれらのオプションのいずれかを選択し、**Domain accounts** フィールドに該当するドメインアカウントを入力します。
- **FSLogix プロファイルパス (VHDLocation)**。 **Override** を選択して、既定の代わりにカスタムプロファイルストレージの場所を指定します。
- **Microsoft Office ユーザーデータ (ODFC) をリダイレクトするように Office Container を構成する**:このオプションを選択して Office コンテナデータをリダイ

レクトし、既定を上書きする場合は **FSLogix Office Container path (VHDLocation)** を指定します。

- **FSLogix Cloud Cache トグル**を選択して **FSLogix Cloud Cache** を有効にします。これにより、回復性を高めるためにプロファイルが複数のストレージの場所に非同期で複製されます。

ヒント

ヒント: パフォーマンス上の理由から、Cloud Cache が有効な場合は Premium SSD とエフェメラル OS ディスクを使用することを強くお勧めします。

- **App Service 設定を管理する**および**ログ設定を管理する**:いずれかのオプションを選択して、対応する FSLogix レジストリ設定を編集します。
- **FSLogix レジストリオプション**:**編集モード**ドロップダウンリストから**すべての設定**または**詳細**を選択し、(プロファイル設定)、(ODFC 設定)、(クラウドキャッシュ設定)、(App Service 設定)、および(ログ設定)の各タブで個々のレジストリ値を構成します。**名前**で**設定を検索**ボックスを使用してフィルタリングします。

注記

構成可能なレジストリ設定の全リストについては、[FSLogix ホストプールごとのカスタマイズ](#)を参照してください。

(次へ) を選択します。

RDP を設定する

- **RDP プロファイル**:ドロップダウンリストから RDP プロファイルを選択します。

注記

このステップには、RDP Shortpath ネットワーク設定も含まれており、カスタムプロファイルの場合は、個別のリダイレクトするオプションとセッションオプションも含まれます。詳細については、[ホストプールのカスタム RDP 設定](#)を参照してください。

(次へ) を選択します。

タグを設定する

- タググループ必要に応じて、ドロップダウンリストから既存のタググループを選択することができます。タググループを選択すると、以下の名前フィールドと値フィールドに、あらかじめ定義された値が入力されます。
- タグを適用する : タグを適用: 任意で、セッションホストに適用する Azure タグの (名前) と (値) を入力します。

注記

注: 複数のタグを指定できます。Azure リソースの整理にタグを使用する方法の詳細については、Microsoft の [記事](#) を参照してください。

- **Add "cm-resource-parent" tag:** このオプションを選択して、ホストプールに「cm-resource-parent」タグを追加します。

(次へ) を選択します。

ウィザードを完了する

- アプリケーションポリシーオプションで、ホストプールに割り当てるアプリケーションポリシーを選択します。

注記

このステップでは、ホストプールの作成がバックグラウンドタスクとして実行されるという通知が表示されます。

必要な情報をすべて入力したら、(保存) を選択します。

新しいホストプールの自動スケールページにリダイレクトされます。必要に応じて、ホストプールの自動スケールを設定します。詳細については、[動的ホストプールのオートスケーリングを有効にする \(78\)](#) を参照してください。

ホストプールの作成処理が始まります。自動スケールが有効になっている場合、完了までに時間がかかることがあります。そうでなければ、ホストプールはすぐに作成されます。これにより「空の」ホストプールが作成され、セッションホストは含まれて

いません。空のホストプールに接続しようとするエンドユーザーには、デスクトップを提供するセッションホストが存在しない旨のメッセージが表示されます。進行状況は、ホストプールタスク セクションで確認できます。

関連トピック

[動的ホストプールの自動スケールを有効にする \(78\)](#)

[ホストプール \(63\)](#)

[自動スケールなしの静的ホストプールの作成](#)

[ホスト、ホストプール、ワークスペースを削除する](#)

ホストプールプロファイルを管理する

ホストプールプロファイルは、自動スケール設定、FSLogix 設定、RDP 設定、およびディレクトリ設定のために再利用可能なプロファイルを定義できるようにすることで、新しいホストプールの作成を簡素化します。ホストプールのこれらの設定を構成する際には、あらかじめ定義されたプロファイルを選択できます。これにより、各プールやスケジュールの手動設定が不要になります。

注記

Auto-scale プロファイルは、Nerdio Manager Premium エディションでのみ利用可能です。

ホストプールプロファイルを作成する

新しいホストプールプロファイルを作成するための手順を以下に示します。

プロファイルを作成するには:

1. (設定) > (プロファイル管理) に移動します。
2. プロファイル エリアで、新しいプロファイルを選択します。
3. 作成したいプロファイルを選択してください:
 - Auto-scale 次の情報を入力してください:
 - 自動スケールモード: ドロップダウンメニューから自動スケールモードを選択します。

以下のモードが利用可能です:

- **共有:**すべてのプールされた動的ホストプール用。
- **スケジュールベース (専用):**指定されたスケジュールに従って自動スケールが行われるシングルユーザーデスクトップ (専用) 用。
- **ユーザー駆動 (専用):**ユーザー駆動 (専用): アクティブまたは切断されたセッションがない場合に自動スケールが行われるシングルユーザーデスクトップ (専用) の個人用ホストプール用。
- **名前** プロファイル名を入力してください。
- **説明** プロファイルの説明を入力してください。
- **他のすべてのパラメータについては、関連する記事を参照してください:**
 - プールされた動的ホストプールの場合:[動的ホストプールの自動スケールを有効にする \(78\)](#)
 - シングルユーザーデスクトップ (専用) の場合:[個人用ホストプールの自動スケーリングを有効にする \(92\)](#)
- **ディレクトリディレクトリ:** [ホストプールの Active Directory 設定 \(129\)](#)に記載されている手順を完了してください。
- **RDP:**[RDP 設定プロファイル](#)に記載されている手順を完了してください。
- **FSLogix:** [FSLogix 設定と構成 \(167\)](#)に記載されている手順を完了してください。

4. 必要な情報をすべて入力したら、(保存) を選択します。

ホストプールプロファイルを割り当てる

ホストプールプロファイルを作成したら、それを関連するホストプールに割り当てることができます。

ホストプールにプロファイルを割り当てるには:

1. (設定) > (プロファイル管理) に移動します。
2. アクションメニューから、**割り当て**を選択し、次に**新しい割り当て**を選択します。
3. 次の情報を入力してください:
 - **Auto-scale** プロファイル: ドロップダウンリストから使用する自動スケールプロファイルを選択します。
 - **スケジュールタイプ:** ドロップダウンメニューからスケジュールタイプを選択します。
 - **RDP** プロファイル: ドロップダウンメニューから RDP プロファイルタイプを選択します。
 - **FSLogix** プロファイル: ドロップダウンメニューから FSLogix プロファイルタイプを選択します。

- **AD プロファイル:** ドロップダウンメニューから AD プロファイルを選択します。
- **ホストプール:** ドロップダウンメニューからホストプールを選択します。
- **最初の失敗で停止する:** 各ホストプールは一度に 1 つずつ処理されます。このオプションを選択すると、最初の失敗時に残りの操作をキャンセルします。

ADD HOST POOL PROFILE ASSIGNMENTS

Auto-scale profile:	Example profile × ▼ ⓘ
Schedule type: *	Default ▼ ⓘ
RDP profile:	Default Azure Profile (default) × ▼ ⓘ
FsLogix profile:	Default profile × ▼ ⓘ
AD profile:	Entra ID (Intune) × ▼ ⓘ
Host pools: *	Personal Desktop × Personal Dynamic Host Pool × × ▼ ⓘ
☐ Stop on first failure ⓘ	

Cancel Save

4. 必要な情報をすべて入力したら、**(保存)** を選択します。

 注記

注意: 自動スケールプロファイルの割り当てに対して次の操作を実行できます:

- **選択した代替案を編集:** これを選択して、代替スケジュールを編集します。
- **選択項目を削除:** 選択した割り当てを削除するにはこのオプションを選択します。

ホストプールプロファイルを管理する

既存のホストプールプロファイルを管理できます。

プロファイルを管理するには:

1. (設定) > (プロファイル管理) に移動します。
2. 作業するホストプールプロファイルを特定します。
3. 次の中から選択してください:
 - プロファイルを編集するには、鉛筆
 - 次のオプションを表示するには、その他のアクション
 - 割り当て割り当てを編集します。
 - デフォルトを設定プロファイルを既定として設定します。
 - 複製プロファイルを複製します。
 - 削除プロファイルを削除します。

ホストプールプロファイルを比較する

既存のホストプールプロファイルを 2 つ比較できます。

プロファイルを比較するには:

- 比較したいプロファイルを選択します。
- 比較を選択します。
- オプションで、異なるもののみ表示を選択して、2 つのプロファイル間で異なるプロパティのみを表示します。すべて表示を選択して、2 つのプロファイル間で同一のプロパティを含むすべてのプロパティを表示に戻ります。

Directory Profiles Comparison

SETTING	AD_NME-QA-STANDARD-AD.LOCAL (DEFAULT)	ENTRAID_WITHOUT_INTUNE
Is Default	Yes	No
Directory Type	Active Directory	Entra ID
Friendly Name	AD_nme-qa-standard-ad.local	EntraID_Without_Intune
Domain	nme-qa-standard-ad.local	Not set
Username	nerdiadmin@nme-qa-standard-ad.local	Not set
Organization Unit		Not set
Enroll with Intune	Not set	No
Profile name	AD_nme-qa-standard-ad.local (default)	EntraID_Without_Intune

Show only different

Close

動的ホストプールの自動スケールを有効にします。

自動スケール機能により、現在の需要に対応するために必要な数のセッションホスト VM のみが実行されます。使用していないときは、VM は停止または削除されます。需要が増加した場合や、1 日の特定の時刻になると、ホストプール内の追加の VM が起動または作成されます。これによりコスト削減が可能になります。

動的ホストプールの自動スケールを有効にして設定できます。

注記

注意: デフォルトでは、(自動スケール) オプションは無効になっています。自動スケールを有効にすると、デスクトップイメージ、VM サイズ、OS ディスクテンプレートを構成でき、ホストプールのサイズ設定、スケールロジック、ホストの事前ステージングの条件も設定できます。

動的ホストプールの自動スケールを有効にするには：

1. 作業対象の動的ホストプールを特定してください。
2. その他のオプション 
3. 次の基本的な自動スケール情報を入力します:

- Auto-scale このオプションを **有効にする** に切り替えます。
- Auto-scale タイムゾンドロップダウンリストから自動スケールプロセスのタイムゾーンを選択します。
- 名前 **名前: 新しく追加するホストの名前を、プレフィックスまたはプレフィックス+パターンとして入力します。**
- **プレフィックス/パターン:** ドロップダウンリストから、プレフィックスとパターンのどちらを使用するかを選択します。

 注記

- **プレフィックス**は、複数のセッションホストを作成する際に使用できます。プレフィックスの上限は、有効な Windows コンピューター名の文字で 10 文字です。プレフィックスを使用する場合は、「-xxxx」形式の一意のサフィックスが自動的に付加されます。xxxx はランダムな英数字 4 文字です。例えば：AVDHOST-s72h。プレフィックスに「-」を追加しないでください。
 - **パターン**は、新しいホストのための高度な命名規則を指定するために使用できます。パターン文字は {} で囲む必要があり、# (連番用) や ? (ランダムな英数字用) を使用できます。1 つの # は 0 ~ 9 の数字、2 つの # は 0 ~ 99 の数字を表します。
 - 例: AVDHOST{####} (AVDHOST000..AVDHOST999)。
 - 例: AVDHOST-{???} (AVDHOST-d83、AVDHOST-7sl など)。
- **ネットワークネットワーク:** ドロップダウンリストから、仮想マシンが接続するネットワークを選択します。

 注記

注意: 選択したネットワーク上に作成される VM は、そのネットワークに紐付けられた Azure リージョンで作成されます。

- **追加のサブネット:** ドロップダウンリストから、同じ仮想ネットワーク内の追加のサブネットを選択します。

 注記

注意: 特定のサブネットにスケールアウト時に十分な IP アドレスがない場合、追加のセッションホストを作成する際に次のサブネットが自動的に選択されます。

- **ネットワーク配信:** ドロップダウンリストから、ネットワーク全体での負荷の配信方法を選択します。

 注記

注意: **深さ優先** を選択すると、ノードに負荷が固定の順序で一つずつ分配されます。最適な分配のためには、**幅優先** を選択して、現在のリソース使用状況に基づいて負荷を比例的にバランスさせます。

- **デスクトップイメージ (テンプレート):** デスクトップイメージ: ドロップダウンリストから、新しいセッションホストのゴールデンイメージとして使用するデスクトップイメージを選択します。
- **"ステージング済み" イメージバージョン** を使うホストプールをスケールする際に、利用可能であればステージイメージバージョンを使用するためにこのオプションを選択します。
- **VM サイズ (テンプレート):** ドロップダウンリストから、新しいセッションホストの VM サイズを選択します。
- **実行中の OS ディスク (テンプレート):** ドロップダウンリストから、新しいセッションホストの OS ディスクの種類とサイズを選択します。
- **停止時の OS ディスクタイプ** ドロップダウンリストから、セッションホスト VM が停止しているときの OS ディスクの種類を選択します。

 注記

注意: [\[111\]](#) OS ディスクの自動スケール構成に関する詳細は、自動スケールコスト最適化 OS ディスクストレージを参照してください。

- **リソースグループ:** ドロップダウンリストから、VM を作成するリソースグループを選択します。
- **VM 命名:** ドロップダウンリストから、使用する VM 命名方法を選択します。

 注記

注意: スケールアウトまたは自動拡張プロセスによって自動的に作成されるホスト VM は、選択した VM 命名モードに基づく名前を使用します。詳細については、「[セッションホスト VM 名の生成方法](#)」を参照してください。

- **名前の再利用:** 名前の再利用: 以前にプールで使用された名前が利用可能な場合は、常に再利用を試みます。
 - **標準名:** 次に使用可能な名前を使用します。
 - **一意の名前:** 新しいホストには常に一意の名前を使用するように試みます。
- **使用済みホストの自動再イメージ化:** ドロップダウンから、次のオプションのいずれかを選択します:
 - **無効:** 再イメージ化は行われません。
 - **常に:** 常に: 少なくとも 1 人のユーザーがサインインしていたホストが再イメージ化されます。マルチセッションホストの場合、最後のユーザーがサインアウトするとすぐにホストが再イメージ化されます。
 - **スケールイン制限中のみ:** 再イメージ化は、設定されたスケールイン制限期間内でのみ行われ、他の時間帯におけるホストプールのセッション容量の低下リスクを軽減します。
 - **スケール間隔:** ドロップダウンリストから、時間間隔を選択します。
 - **スケジュールタイプ:** (デフォルトスケジュール) または (代替スケジュール) を選択します。
 - (デフォルトスケジュール) または (代替スケジュール) を選択します。

 注記

Nerdio Manager デフォルトのスケジュール (通常運用) と代替スケジュール (通常運用外) に対して、個別の自動スケール設定を構成できます。例、週末や祝日には利用可能なセッションホストを少なくしたいかもしれません。または、クリスマスの 2 週間前に臨時のカスタマーサポート担当者が多数いる場合は、より多くのセッションホストを利用可能にしたいことがあります。いずれの場合でも、通常の操作外の期間の自動スケール設定を構成するには、(Nerdio Manager) タブを使用します。

- 代替スケジュールを作成するには、(代替スケジュール) を選択し、次の情報を入力します:

注記

注意: このページの上部に表示される推定月額コストでは、デフォルトスケジュールの設定のみが考慮されます。

- スケジュール: このオプションを **有効** に切り替えます。
- 日日: ドロップダウンリストからオフピークの日を選択します。
- 日付: 日付: 特定のオフピーク日を選択します。
- オフピーク日を追加または削除するには、(+) または (-) を選択します。
- 自動スケールプロファイル(Premium のみ)を選択します:
- ドロップダウンリストから使用する自動スケールプロファイルを選択します。あるいは、(カスタム) を選択してカスタム自動スケール構成を作成します。

注記

注意: (74) 詳細については、Auto-scale プロファイルの管理を参照してください。

4. 次のホストプールプロパティ情報を入力します:

- セッション制限ホスト: ホストごとの最大セッション数を入力します。このセッション制限に達し、利用可能なホストがなくなると、新しいホストが存在する場合は自動的に起動されます。
- 負荷分散ドロップダウンリストから希望する負荷分散を選択します。

注記

- 幅優先は、負荷分散アルゴリズムがすべての利用可能なセッションホストにユーザーを均等に分散させることを意味します。
- 深さ優先は、負荷分散アルゴリズムが最初のセッションホストにすべてのユーザーを配置し、ホストのセッション制限に達するまで続けることを意味します。その後、次のセッションホストにユーザーを配置します。必要に応じて、VM の電源をオンにし、ユーザーが利用できるようにします。

- 接続時に VM を起動このオプションを選択して、接続時にセッションホストの VM を起動します。

5. 次のホストプールのサイズ設定情報を入力します:

- アクティブホストの定義ドロップダウンリストから、有効ホストの定義を選択します。

 注記

注意: 「VM started」に設定すると、VM が Azure で実行されている限り、システムはセッションホスト VM をアクティブとして識別します。「VM started」を選択すべきケースはごくわずかです。

「AVD エージェントが利用可能」に設定されている場合、システムは AVD バックエンドがハートビートを受信し、セッションホストを「利用可能」と認識した場合にのみセッションホスト VM を「アクティブ」と認識します。通常は、「AVD エージェント Available」を選択してください。

- 基本ホストプール容量このホストプールに常に含まれるセッションホスト VM の数。これらのセッションホストは停止しているか、実行されている可能性があります。
 - 最小アクティブホスト容量常に利用可能な、実行中のセッションホストの最小値を入力してください。通常、ユーザーがサインインするにはセッションホストが実行中である必要があるか、「接続時に開始」機能が有効になっている必要があります。他の VM は、ユーザーの自動スケールロジックで構成されているとおり、停止状態または電源オン状態にできます。
 - ベース容量を超えてバーストユーザー需要がある場合、セッションホスト VM の標準数を「バースト」で超える容量。システムは必要に応じて、ベースホストプール容量を超えて、この数を上限として新しいセッションホスト VM を自動的に作成します。これらのセッションホストは、業務時間外にシステムがスケールインするときに最初に削除されます。
6. 次のスケーリングロジック情報を入力してください:
- 複数の自動スケールトリガーを使用:このオプションを選択して、スケールアウトおよびスケールインに使用する複数の使用率トリガーを有効にします。有効にすると、グループ内のホスト数を構成してスケールアウトまたはスケールインできます。

 注記

注意:複数の自動スケールトリガー機能は、Nerdio Manager の Premium エディションでのみ利用可能です。

 注記

- 自動スケールは、**いずれかのスケールアウト条件が満たされると容量を追加します。容量は、すべてのスケールイン条件が満たされた場合にのみ削除されます。**
- (+) および (-) ボタンを使用して、スケールアウトトリガーを追加・削除できます。最大 3 つのトリガーを選択できます。

- Auto-scale トリガーを選択ドロップダウンリストから自動スケールのトリガーを選択します。

 注記

利用可能なトリガーは次のとおりです:

- **CPU 使用率または RAM 使用率:**CPU 使用率 または RAM 使用率: これは、プール内のすべての実行中のセッションホストの平均 CPU または RAM 使用率が、事前に定義された期間、事前に定義された値を超えた場合にスケールアウトします。
- **平均アクティブセッションの場合:**ホストごとの平均有効セッション数が事前に定義された値を超えるとスケールアウトします。
- **利用可能なセッション:**利用可能なセッション: ホストプール容量とホストごとの最大セッション数の範囲内で、スケールアウトおよびスケールインにより利用可能なホスト数を維持します。
- **User-driven:**ユーザー駆動: ユーザーが接続するとホストが開始され、すべてのユーザーがサインアウトした後、定義された時間が経過すると自動的に停止します。

- **CPU 使用率または RAM 使用率について:**
 - 最大で開始または作成 (スケールアウト)トリガーが超過した場合は、停止した VM がいなければセッションホストを開始、停止していない場合はセッションホストを作成してスケールアウトします。

- 停止または削除 (スケールイン) を最大で行うスケールイントリガーが満たされたら、バースト VM がいなければセッションホストを停止し、バースト VM が存在する場合は削除してスケールインします。
- **平均アクティブセッションの場合:**
 - 最大で開始または作成 (スケールアウト) すべてのホストの平均有効セッション数が指定値を超えた場合、停止中の VM があれば起動し、停止中の VM がなければセッションホストを作成してスケールアウトします。
 - 停止または削除 (スケールイン) を最大で行う **停止または削除 (スケールイン) の上限:** すべてのホストの平均アクティブセッション数が指定値を下回った場合、バースト VM がなければセッションホストを停止し、バースト VM があれば削除してスケールインします。
- **利用可能なセッションの場合:**
 - **ホストごとの最大セッション数:** ホストごとの最大セッション数を入力します。
 - **最大**X**個の利用可能なセッションを維持常時または業務時間中に利用可能にしておく必要があるセッション数**を入力します。

 注記

注意: これにより、業務時間中または常にこの数の利用可能なセッションが確保されます。業務時間は、(業務時間の開始) で指定した時刻に始まり、以下の「スケールイン制限」セクションで指定したスケールイン期間の開始時に終了します。(ホストの事前ステージング) セクションで指定します。

- 勤務時間外業務時間外に維持するセッション数を入力します。

 注記

この値は勤務時間中に使用可能なデスクトップの数を超えてはなりません。

- 勤務時間ドロップダウンリストから、業務時間の開始時刻と終了時刻を選択してください。
- **ユーザー駆動の場合:**
 - **すべてのユーザーがログオフしたとき、以下の時間経過後にホストをスケールインする:** すべてのユーザーがサインアウトした後、スケールインするまでの分数をドロップダウンリストから選択します。

 注記

デスクトップは、アクティブなセッションも切断されたセッションもない場合にのみ自動的に停止されます。一定時間後に切断されたユーザーを自動的にサインアウトさせるには、ホストプールのプロパティのユーザーセッション制限設定を使用します。

- スケールイン制限:
 - 次の時間以降にのみホストを停止または削除 (スケールイン) ドロップダウンリストから、スケールイン操作を実行する時刻を選択します。<any time>を選択して、いつでもスケールインを実行できるようにします。
 - スケールインの積極度ドロップダウンリストから、スケールインの積極性を選択します。

 注記

- **高い積極性:高:** スケールインの積極性はデフォルトで高に設定されています。これは、業務時間外に、アクティブまたは切断されたセッションが実行されているホストが容量削減のために自動的に削除または電源オフされることを意味します。業務時間外になると、自動スケールロジックはまず、実行中のセッションがないホストを削除します。残りのホストは、実行中のセッション数が最も少ない順に並べ替えられます。アクティブなセッションを持つユーザーは、単一のホストに統合され、他のホストは自動スケールによって削除されます。セッションホストを削除する前に、アクティブなセッションのユーザーに警告メッセージが送信されます。
 - **中程度の積極性:中:** スケールインの積極性が中に設定されている場合、業務時間外には、スケールリングロジックは切断されたセッションが実行されているホストのみを削除します。アクティブなセッションが実行されているセッションホストは削除されません。この場合、ホストプールはある程度スケールインされます。
 - **低い積極性:低:** スケールインの積極性が低に設定されている場合、業務時間外には、スケールリングロジックはセッションがまったく実行されていないセッションホストのみを削除します。自動スケールロジックは、アクティブまたは切断されたセッションが実行されているセッションホストを削除しません。このオプションはユーザーへの影響が少ないですが、ホストプールがスケールインされる保証はありません。
- ホストを非アクティブ化 (ドレインモード) 必要に応じて、スケールインウィンドウの開始時にすべてのホストを無効化するように自動スケールエンジンに指示できます。ただし、(最小アクティブホスト容量) で指定された最小ホスト数は、(ホストプールのサイズ設定) セクションに維持されます。
7. 次のローリングドレインモード情報を入力します:

 注記

- 注意: 複数のド레인ウィンドウを作成し、スケールイン制限ウィンドウの外でホストの特定の割合にド레인モードを適用できます。この機能により、ホストの一定割合への新しい接続を防ぎ、これらのホストをより迅速にシャットダウンできるようになり、リソースコストを節約できます。
- Rolling Drain Mode は、次のようにスケールインするホストを選択します:
 - まず、アクティブなセッション数が最も少ないホストから開始します。
 - 次に、すでにド레인モードにあるホストをスケールインします。
 - 最後に、合計セッション数 (アクティブ + 切断済み) が最も少ないホストをスケールインします。
- VM がエフェメラルストレージを使用している場合、Rolling Drain Mode を使用してスケールインするときに停止されるのではなく、無効化されます。

- Rolling Drain Mode このオプションを有効に切り替えて、Rolling Drain Mode を有効にします。
- ウィンドウ名このド레인ウィンドウの名前を入力してください。
- 開始時刻 : 開始時刻: ドロップダウンリストから、このド레인ウィンドウが有効になる開始時刻を選択してください。

 注記

注意: 最後のド레인ウィンドウは午後 11 時 59 分まで有効です。

- ド레인モードのホスト (%)このウィンドウ中にド레인モードにするホストの割合を入力してください。

 注記

- 負荷分散ドロップダウンリストから、希望する負荷分散アルゴリズムを選択します。

 注記

- 深さ優先深さ優先の LB アルゴリズムでは、セッション制限に達するまでユーザーが 1 台のホストに配置されます。制限に達すると、再びセッション制限に達するまで次のホストにユーザーが配置されます。
- 幅優先幅優先: 負荷分散アルゴリズムは、利用可能なセッションホストにユーザーを均等に分散させます。

- スケールインの積極度ドロップダウンリストから、スケールインの積極性を選択します。

8. 次のホストの事前ステージング情報を入力します:

 注記

注意: 業務時間に合わせて、一部のホストを利用可能な容量として自動的に事前ステージングするようにシステムを構成します。例: 業務日の開始時にホストを事前ステージングしておく、と、始業時にすべてのユーザーが同時にサインインしても、システムがユーザーに合わせてリアルタイムで自動スケールする必要がなくなります。

- 複数のスケジュールを使用このオプションを選択すると、重複しない複数の事前準備スケジュールを使用できるようになります。を使用して、スケジュールを追加または削除します。

 注記

注意: 業務時間中のオプションが指定されている場合、利用可能なセッショントリガーには使用できません。

- 勤務日業務日: ドロップダウンリストから、事前ステージングタスクを実行する業務日を選択します。
- 勤務開始時刻ドロップダウンリストから、事前準備タスクを実行する開始時刻を選択してください。
- 勤務開始時までアクティブにするホストこの時刻までにユーザー接続を受け入れる準備ができている必要があるセッションホストの数を入力してください。

- **スケールイン遅延スケールイン遅延:** ドロップダウンリストから、業務時間の開始後にスケールイン操作を制限する遅延時間を選択します。事前準備済みのホストは、未使用であっても、この期間中はスケールインされません。

9. 次のメッセージング情報を入力してください:

 注記

注意: システムは、スケールインのために選択されたセッションホストに接続されているユーザーにメッセージを送信します。

- ホスト上のユーザーに警告メッセージを送信ドロップダウンリストから、スケールインの何分前にメッセージを送信するかを選択します。
- メッセージの内容警告メッセージのテキストを入力してください。

10. 次の情報を入力します:

 注記

Nerdio Manager セッションホストは、ドメイン信頼の問題や FSLogix 構成の問題により、動作に支障が生じることがあります。AVD エージェントは、そのようなホストのステータスを利用不可として報告します。管理者は、そのようなホストをプールから手動で削除する必要があります。ただし、Nerdio Manager

- 破損したホストを自動修復このオプションを **有効** に切り替えて、自動修復を有効にします。
- AVD エージェントのステータスドロップダウンリストから、セッションの状態と併せて目的の状態を選択します。

 注記

注意: 状態は、セッションホスト VM にインストールされた AVD エージェントによって AVD サービスに報告されます。何らかの問題がある場合、ステータスは "Available" 以外になります。

「Available」以外のすべての状態が問題を意味するわけではありません。詳細については、この Microsoft の[記事](#)を参照してください。アクティブなセッションがあるホストは、ある程度機能している可能性があるため、障害のあるホストとして扱われません。セッションがまったくないホスト、またはアクティブなセッションがない（つまり、切断されたセッションのみの）ホストのみが、自動スケールによって障害のあるホストと見なされます。

- 最初のアクションのタイムアウト最初のアクションを実行する前に待機する分数を入力します。
- 復旧アクションドロップダウンリストから復旧アクションを選択します。

 注記

- VM アクション（例: VM の再起動、VM の削除）またはスクリプトアクション（例: SxS の再インストール、AVD へのホストの再登録など）を選択できます。
- 復旧アクションは、表示されている順序で実行されます。任意のアクションをドラッグアンドドロップしてリスト内の位置を変更し、実行順序を変更できます。

- 復旧アクション間のタイムアウト各再起動試行の後、次のステップに進むまでの待機分数を入力します（例: VM を再起動してから削除するなど）。

 注記

注意: 自動修復操作で障害のあるホスト VM の削除と再作成が必要な場合、利用可能であれば、容量を補うために予備の VM の電源がオンになります。

11. 必要な情報をすべて入力したら、(保存) を選択します。

関連トピック

- [動的ホストプールの作成 \(66\)](#)
- [個人用ホストプールの自動スケーリングを有効にする \(92\)](#)

個人用ホストプールの自動スケールを有効にします。

Nerdio Manager

- 個人用デスクトップは、スケジュールに基づいて自動的に電源オンまたは電源オフできます。または、アクティブなセッションも切断されたセッションもない場合に、個人用デスクトップを停止できます。
- 個人用デスクトップが実行されていない場合、ホスト OS ディスクの種類を低価格のストレージ種類に変更できます。
- 自動修復では、障害のあるセッションホストの修復が自動的に試行されます。さらに、SxS の再インストールや AVD ホストの再登録などのスクリプトアクションを実行できます。

基本的な自動スケール情報を設定するには:

1. 作業したい個人用ホストプールを特定します。
2. その他のオプション 
3. ページの下部で、**自動スケール**を有効に切り替えます。
4. 次の基本的な自動スケール情報を入力します:
 - Auto-scale タイムゾーンドロップダウンリストから自動スケールプロセスのタイムゾーンを選択します。
 - 名前 **名前:** 新しく追加するホストの名前を、プレフィックスまたはプレフィックス+パターンとして入力します。
 - **プレフィックス/パターン:** ドロップダウンリストから、プレフィックスとパターンのどちらを使用するかを選択します。

 注記

- プレフィックスは、複数のセッションホストを作成する際に使用できます。プレフィックスの上限は、有効な Windows コンピューター名の文字で 10 文字です。プレフィックスを使用する場合は、「-xxxx」形式の一意のサフィックスが自動的に付加されます。xxxx はランダムな英数字 4 文字です。例えば：AVDHOST-s72h。プレフィックスに「-」を追加しないでください。
 - パターンは、新しいホストのための高度な命名規則を指定するために使用できます。パターン文字は {} で囲む必要があり、# (連番用) や ? (ランダムな英数字用) を使用できます。1 つの # は 0 ~ 9 の数字、2 つの # は 0 ~ 99 の数字を表します。
 - 例:AVDHOST{###} (AVDHOST000..AVDHOST999)。
 - 例:AVDHOST-{???} (AVDHOST-d83、AVDHOST-7sl など)。
- ネットワークネットワーク: ドロップダウンリストから、仮想マシンが接続するネットワークを選択します。

 注記

注意: 選択したネットワーク上に作成される VM は、そのネットワークに紐付けられた Azure リージョンで作成されます。

- 追加のサブネット: ドロップダウンリストから、同じ仮想ネットワークの追加のサブネットを選択します。

 注記

注意: スケールアウトする際、特定のサブネットに十分な IP アドレスがない場合、追加のセッションホストを作成する際に次のサブネットが自動的に選択されます。

- ネットワーク分配: ドロップダウンリストから、ネットワーク負荷の分配方法を選択します。深さ優先 または 幅優先 のいずれかを選択します。

 注記

注意: 深さ優先 を選択すると、ネットワーク負荷が固定の順序でノードに一つずつ分配され、幅優先 を選択すると、現在のリソース使用状況に基づいてネットワーク負荷が比例的にバランスされます。

- **デスクトップイメージ (テンプレート):**デスクトップイメージ: ドロップダウンリストから、新しいセッションホストのゴールデンイメージとして使用するデスクトップイメージを選択します。
- **VM サイズ (テンプレート):**ドロップダウンリストから、新しいセッションホストの VM サイズを選択します。
- **実行中の OS ディスク (テンプレート):**ドロップダウンリストから、新しいセッションホストの OS ディスクの種類とサイズを選択します。
- **停止時の OS ディスクタイプ**ドロップダウンリストから、セッションホスト VM が停止しているときの OS ディスクの種類を選択します。
- **リソースグループ:** ドロップダウンリストから、VM を作成するリソースグループを選択する。
- **VM の命名:**ドロップダウンリストから、使用する VM 命名方法を選択します。

 注記

注意: スケールアウトまたは自動拡張プロセスによって自動的に作成されるホスト VM は、選択した VM 命名モードに基づく名前を使用します。詳細については、「[セッションホスト VM 名の生成方法](#)」を参照してください。

- **名前の再利用:**名前の再利用: 以前にプールで使用された名前が利用可能な場合は、常に再利用を試みます。
- **標準名:**次に使用可能な名前を使用します。
- **一意の名前:**新しいホストには常に一意の名前を使用するよう試みます。

5. **既定のスケジュール または 代替スケジュール** を選択します。

 注記

Nerdio Manager デフォルトのスケジュール (通常運用) と代替スケジュール (通常運用外) に対して、個別の自動スケール設定を構成できます。例、週末や祝日には利用可能なセッションホストを少なくしたいかもしれません。あるいは、大量の臨時ユーザーがいる場合、休日の 2 週間前により多くのセッションホストを利用可能にしたいかもしれません。いずれの場合でも、通常の操作外の期間の自動スケール設定を構成するには、(Nerdio Manager) タブを使用します。

- 代替スケジュールを作成するには、(代替スケジュール) タブに移動し、次の情報を入力します:
 - スケジュール:スケジュール: 代替スケジュールを有効にするためにトグルボタンを選択します。
 - 日日: ドロップダウンリストからオフピークの日を選択します。
 - 日付:日付: 日付フィールドを選択し、表示されるカレンダーから日付を選択します。

- プラス 

6. 自動スケールモード:ドロップダウンリストから、希望の自動スケールモードを選択します。

 注記

- **User-driven:ユーザー駆動:** アクティブなセッションや切断されたセッションがない場合に自動スケールが実行されます。
- スケジュールベース自動スケールは、指定されたスケジュールに従って実行されます。

7. Auto-scale プロファイルオプションで、ドロップダウンリストから使用する Auto-scale プロファイル を選択します。あるいは、(カスタム) を選択してカスタム自動スケール構成を作成します。

 注記

注意: (74) 自動スケールプロファイルの作成と操作に関する詳細は、「自動スケールプロファイルの管理」を参照してください。

8. 関連する自動スケールモードで構成プロセスを続行します:
 - **User-driven:** ユーザー駆動の個人用ホストプール自動スケールを有効にするには:
 - スケジュールベーススケジュールベースの個人用ホストプール自動スケールを有効にするには:

ユーザー駆動の個人用ホストプール自動スケールを有効にするには:

1. **自動スケールモード:** ドロップダウンリストから **ユーザー主導** を選択します。
2. 次のホストプールプロパティ情報を入力します:
 - 接続時に VM を起動接続時にデスクトップを起動するには、このオプションを選択します。
3. 次のデスクトップの起動と停止情報を入力します:
 - デスクトップの開始と停止このオプションを切り替えて、デスクトップの起動と停止を有効にします。
 - デスクトップはその後停止しますすべてのユーザーがサインアウトした後、スケールインするまでの分数または時間数をドロップダウンリストから選択します。

注記

- ユーザーが接続すると、デスクトップが自動的に起動します。
 - デスクトップは、アクティブなセッションも切断されたセッションもない場合にのみ自動的に停止されます。一定時間後に切断されたユーザーを自動的にサインアウトさせるには、ホストプールのプロパティのユーザーセッション制限設定を使用します。
- このプールのデスクトップのドレインモードをバイパスしてくださいシャットダウン前にデスクトップがドレインモードにならないようにするには、このオプションを選択します。
4. 次のホストの事前ステージング情報を入力します:
 - **事前準備ホスト:** このオプションを切り替えて、事前準備ホストを有効にします。

 注記

注意: 事前ステージングホストが有効になると、他のユーザー主導の設定よりも優先されます。停止したホストは起動され、ドレインモードのホストはアクティブ化され、停止したディスクタイプは実行中に変更され、ユーザーセッションがない場合でもホストは停止または非アクティブ化されません。

- ユーザーが割り当てられていないホストを含めるためのボックスを選択します。
- 勤務日稼働日: ドロップダウンリストから、多数のユーザーが仮想デスクトップまたはアプリケーションに同時にログインする稼働日を選択します。
- 勤務開始時刻ユーザーが仮想デスクトップやアプリケーションにログインし始める朝の時間を指定してください。
- スケールイン遅延勤務開始後のスケールイン操作を制限する遅延時間を選択してください。

 注記

事前ステージングされたホストは、使用されていない場合でも、この時間中はスケールインされません。

5. 次の事前ステージホスト OS ディスク情報を入力します:

 注記

注意: インテリジェントディスク事前ステージングの詳細と例については、個人用ホストプールのインテリジェントディスク事前ステージングを参照してください。

- 事前ステージングホスト OS ディスクこのオプションを切り替えて、ホスト OS ディスクの事前準備を有効にします。
- ドロップダウンリストから、セッションホスト VM の OS ディスクを事前ステージングする (日) と (時刻) を選択します。
- ユーザーに割り当てられていないデスクトップは STOPPED OS ディスクタイプのままにするユーザーに割り当てられていないデスクトップ VM の OS ディスクが、停止状態から実行中に変更されないようにするには、このオプションを選択します。

- ユーザーにインテリジェントディスク事前ステージングを使用このオプションを選択すると、インテリジェントディスク事前準備がユーザーの動作を学習し、ディスクの事前準備時間を自動的に調整します。

 注記

注意: この機能を使用するには、ホストプール用に AVD Insights を有効にして構成する必要があります。

- **モード:** ユーザーのためにインテリジェントディスク事前ステージングを使用するが選択されている場合、モードのドロップダウンリストからモードを選択します。

 注記

- ハイブリッドモードディスクは常に、定義されたスケジュールに基づいて事前準備されます。ユーザーの行動パターンが学習されるとともに、追加の事前準備処理がスケジュールされます。この機能は「学習モード」として設計されており、標準的な事前ステージング機能と学習済み要件の両方のメリットがあります。
- 自動モード: ディスクは、学習したスケジュールに従ってのみ、既存のユーザー向けに事前準備されます。新しいユーザーは、インテリジェント事前準備がこのプロセスを自動化するのに十分なデータを集めるまで、定義されたスケジュールに従います。ディスクは、予想されるユーザーログオンイベントの 30 分前に事前ステージングされます。

6. 次の自動拡張情報を入力します:

 注記

注意: 未割り当てデスクトップの残数が指定したしきい値を下回ると、ホストプールにデスクトップが自動的に追加されます。

- Auto-grow このオプションを切り替えて、自動拡張を有効にします。
- 利用可能な (ユーザーに割り当てられていない) ホストの数が以下を下回った場合に新しいホストを追加する:しきい値を入力し、ドロップダウンリストか

ら、そのしきい値がデスクトップの数であるか、デスクトップの合計に対する割合であるかを選択します。

7. 次の**自動縮小**情報を入力します:

 注記

注意: 長期間使用されていないデスクトップは、システムによって自動的に削除されます。

- 自動縮小このオプションを切り替えて、自動縮小を有効にします。
- ユーザーが次の日数ログインしていない場合は VM を削除システムが自動的に VM を削除するまで待機する日数を入力します。

 注記

Nerdio Manager このセッションホスト VM でのユーザーの活動は、自動スケール履歴および AVD 診断データに基づいて判断されます。デスクトップが自動スケールによって処理されるたびに、デスクトップが最後に使用された日時を含む Azure タグが設定されます。この設定で指定した日数の間デスクトップが使用されていない場合、セッションホスト VM はシャットダウンされ、「削除保留中」タグが設定されます。

- デスクトップは「削除保留中」状態に設定され、その後削除されますドロップダウンリストから、デスクトップが削除されるまでの期間を選択します。

 注記

Nerdio Manager デスクトップは、自動スケールプロセスによって VM にタグが追加されることで「削除保留中」状態に設定されます。このプロセス中にタスクがログに記録され、デスクトップが「削除保留中」状態になったことを管理者に通知するために使用できます。
Nerdio Manager

- **以下のグループ (または個々のユーザー) を除外する:** このオプションを有効にしてから、自動縮小から除外するグループまたは個々のユーザーを選択します。

 注記

注意: ここに表示されているユーザーに割り当てられたデスクトップは、長期間非アクティブな状態が続いても、自動的に削除されることはありません。

- 未割り当てデスクトップを自動縮小から除外するユーザーに割り当てられていないデスクトップを自動縮小操作から除外するには、このオプションを選択します。

 注記

この設定を Auto Grow と組み合わせて使用し、未割り当ての空きデスクトップのバッファを維持します。

- ホストが縮小予定になったときに実行されるスクリプトアクションドロップダウンリストから、VM が自動縮小対象としてマークされた後に実行するスクリプトアクションを選択します。
- **スケジュールされた削除をユーザーに通知する:** 非アクティブ期間を超過したときにデスクトップの削除についてユーザーにメールで通知するには、このオプションを選択します。

 注記

この機能を動作させるためには、(システム) > (設定) > (Nerdio) ページで通知を有効にする必要があります。

- **メッセージの件名:** このオプションを展開して、自動縮小メッセージの件名を入力します。
- **メッセージ本文** **メッセージ本文:** このオプションを展開してエディターを開き、ユーザー向けのカスタム自動縮小メッセージを作成します。

 注記

注意:メッセージ本文で使用できる変数は次のとおりです:

- ホストプール影響を受けるホストプールの名前を返します。
 - **%HOSTNAME%**:特定のホスト名を返します。
 - **%HOST_IDLE_DAYS_THRESHOLD%**:自動縮小が開始される前に設定された最大のアイドル日数を返します。
 - **%SHRINK_TIME_UTC%**:自動縮小タスクが実行されるよう設定されている正確な時刻を UTC で返します。
 - **%SHRINK_DATE%**:自動縮小タスクが実行されるよう設定されている正確な日付を返します。
 - **%SHRINK_DATE_EUR%:%SHRINK_DATE_EUR%**: 自動縮小タスクが実行されるよう設定されている正確な日付を dd/MM/YYYY (欧州) 形式で返します。
 - **%IMAGE_NAME%**:VM のイメージ名を返します。
 - **%FRIENDLY_WORKSPACE_NAME%**:ワークスペースの表示名を返します。
 - **%FRIENDLY_HOSTPOOL_NAME%**:ホストプールの表示名を返します。
 - VM サイズ:VM のサイズを返します。
 - **%DISK_SKU%**:VM のディスク SKU を返します。
 - **%USER_NAME%**:VM にサインインしているユーザーの名前を返します。
- デスクトップの削除がスケジュールされたときに別のメール受信者に通知する:デスクトップの削除がスケジュールされたときに別のメール受信者に通知するには、このオプションを選択します。
 - 通知メールの送信先:追加の受信者のメールアドレスを入力します。
 - 通知メールの送信元:送信者のメールアドレスを入力します。
 - 通知の頻度:ドロップダウンリストから、ユーザーに送信されるメールリマインダーの頻度を選択します。

 注記

注意: 最終的なメールは、スケジュールされた削除の 1 日前に必ず送信されます。

8. 次の障害ホストの自動修復情報を入力します:

 注記

Nerdio Manager セッションホストは、ドメイン信頼の問題や FSLogix 構成の問題により、動作に支障が生じることがあります。AVD エージェントは、そのようなホストのステータスを利用不可として報告します。管理者は、そのようなホストをプールから手動で削除する必要があります。ただし、Nerdio Manager

- 破損したホストを自動修復このオプションをオンにして自動修復を有効にします。
- 壊れたホストの兆候ボックスに、次の情報を入力してください:
- AVD エージェントのステータス **AVD エージェントの状態**: ドロップダウンリストから AVD エージェントの状態を選択し、その後、下のドロップダウンリストからセッションの状態を選択します。

 注記

注意: 状態は、セッションホスト VM にインストールされた AVD エージェントによって AVD サービスに報告されます。何らかの問題がある場合、ステータスは "Available" 以外になります。「Available」以外のすべての状態が問題を意味するわけではありません。詳細については、この Microsoft の[記事](#)を参照してください。アクティブなセッションがあるホストは、ある程度機能している可能性があるため、障害のあるホストとして扱われません。セッションがまったくないホスト、またはアクティブなセッションがない（つまり、切断されたセッションのみの）ホストのみが、自動スケールによって障害のあるホストと見なされます。

- **最初のアクション**:最初のアクションを実行する前に待機する分数を入力します。
- 復旧アクションドロップダウンリストから復旧アクションを選択します。

 注記

- VM アクション (例: VM の再起動、VM の削除) またはスクリプトアクション (例: SxS の再インストール、AVD へのホストの再登録など) を選択できます。
 - 復旧アクションは、表示されている順序で実行されます。任意のアクションをドラッグアンドドロップしてリスト内の位置を変更し、実行順序を変更できます。
- 復旧アクション間のタイムアウト各復旧アクションステップの後、次のステップに進むまでの待機分数を入力します (例: VM を再起動してから VM を削除するなど)。

 注記

注意: 自動修復操作で障害のあるホスト VM の削除と再作成が必要な場合、利用可能であれば、容量を補うために予備の VM の電源がオンになります。

- 壊れたホストを追加するには、プラス
9. 必要な情報をすべて入力したら、(保存) を選択します。

スケジュールベースの個人用ホストプール自動スケールを有効にするには:

1. 自動スケールモードのドロップダウンリストから、スケジュールベースを選択します。
2. **Auto-scale** プロファイルのドロップダウンリストから、Auto-scale プロファイルを選択します。
3. 次のホストプールプロパティ情報を入力します:
 - 接続時に VM を起動接続時にデスクトップを起動するには、このオプションを選択します。
4. 次の業務時間情報を入力します:
 - ドロップダウンリストから、セッションホスト VM の OS ディスクを事前準備するための稼働日と稼働時間を選択します。
 - **電源オフの積極性**: ドロップダウンリストから電源オフの積極性を選択します。(スケジュールベースのみ)

 注記

- **高高:** アクティブおよび切断されたセッションを含むすべてのセッションホスト VM の電源をオフにします。アクティブなセッションを持つユーザーには、以下に定義されたメッセージが送信され、セッションホスト VM の電源オフ前にサインアウトする時間が与えられます。
 - **中程度 中:** アクティブなユーザーセッションがないセッションホスト VM のみを電源オフにします。(切断されたセッションのある場合も含まれます。)
 - **低 低:** アクティブなセッションも切断されたセッションもないセッションホスト VM のみを電源オフにします。
- **電源オンのタイミング:** ドロップダウンリストから電源オンのタイミングを選択します。(スケジュールベースのみ)

 注記

- **なししない:** 上記で定義した業務時間の開始時にセッションホスト VM の電源をオンにしません。ユーザーはセッションホスト VM を手動で電源オンにする必要があります。
 - **1 回:1 回:** すべてのセッションホスト VM は、業務時間の開始時に 1 回だけ電源オンされます。業務時間の開始後にセッションホスト VM が電源オフされた場合、自動スケールによって自動的に電源オンされることはありません。
 - **継続的:** すべてのセッションホスト VM は、業務時間の開始時に電源オンされます。さらに、業務時間中は、自動スケールが手動で電源オフされたセッションホスト VM を自動的に電源オンします。
- **電源オフのタイミング:** ドロップダウンリストから電源オフのタイミングを選択します。

 注記

- なししない: 上記で定義した業務時間の終了時にセッションホスト VM の電源をオフにしません。
 - 1 回: 1 回: 業務時間の終了時に、上記で定義した積極性に従って、すべてのセッションホスト VM の電源がオフになります。業務時間外に手動でセッションホスト VM が起動された場合、自動スケールはそれらを自動的に電源オフにしません。
 - 継続的: 1 回: 業務時間の終了時に、上記で定義した積極性に従って、すべてのセッションホスト VM の電源がオフになります。業務時間外に手動でセッションホスト VM が起動された場合、自動スケールは上記で定義された積極性に従い、それらを自動的に電源オフにします。
- 割り当てられたユーザーがいないホストを含める: 自動スケールプロセス中に、割り当てられていないデスクトップを開始するには、このオプションを選択します。

 注記

注意: これは、業務日中にデスクトップに対してスケジュールされたタスクを実行したい組織にとって有用かもしれません。

5. 次のホスト OS ディスク情報を入力してください。

- 勤務時間中はすべてのホストを実行中の OS ディスクタイプに設定する: 停止しているすべてのホスト VM の OS ディスクを、上記で定義された勤務時間中に実行中のディスクタイプに変換するには、このオプションを選択します。

 注記

注意: これは、Azure Start VM on Connect 経由で VM を起動した場合に、適切で高性能なディスクタイプが使用されるようにするために必要です。この設定を有効にすると、このプールの「ディスクタイプがポリシーと異なります」という警告がすべて非表示になります。

- ユーザーにインテリジェントディスク事前ステージングを使用このオプションを選択すると、インテリジェントディスク事前準備がユーザーの振る舞いを学習し、ディスクの事前準備時間を自動的に調整します。

 注記

注意: この機能を使用するには、ホストプール用に AVD Insights を有効にして構成する必要があります。

- **モード: ユーザーのためのインテリジェントデスクトップの事前準備を使用するオプションを選択した場合、ドロップダウンリストからモードを選択します。**

 注記

- ハイブリッドモードディスクは常に、定義されたスケジュールに基づいて事前準備されます。ユーザーの行動パターンが学習されるとともに、追加の事前準備処理がスケジュールされます。この機能は「学習モード」として設計されており、標準的な事前ステージング機能と学習済み要件の両方のメリットがあります。
- 自動モード: 学習したスケジュールに従ってのみ、既存のユーザー向けにディスクが事前準備されます。新しいユーザーは、インテリジェント事前準備がこのプロセスを自動化するのに十分なデータを集めるまで、定義されたスケジュールに従います。ディスクは、予想されるユーザーログオンイベントの 30 分前に事前準備されます。

6. 次の自動拡張情報を入力します:

 注記

注意: 未割り当てデスクトップの残数が指定したしきい値を下回ると、ホストプールにデスクトップが自動的に追加されます。

- Auto-grow このオプションをオンにして、自動拡張を有効にします。
- 利用可能な (ユーザーにアサインされていない) ホストの数がを下回った場合、新しいホストを追加する:しきい値を入力し、ドロップダウンリストから、しき

い値がデスクトップ数であるか、デスクトップ合計のパーセンテージであるかを選択します。

7. 次の**自動縮小**情報を入力します:

 注記

注意: 長期間使用されていないデスクトップは、システムによって自動的に削除されます。

- 自動縮小このオプションをオンにして自動縮小を有効にします。
- ユーザーが次の日数ログインしていない場合は VM を削除システムが自動的に VM を削除するまで待機する日数を入力します。

 注記

Nerdio Manager このセッションホスト VM でのユーザーの活動は、自動スケール履歴および AVD 診断データに基づいて判断されます。デスクトップが自動スケールによって処理されるたびに、デスクトップが最後に使用された日時を含む Azure タグが設定されます。この設定で指定した日数の間デスクトップが使用されていない場合、セッションホスト VM はシャットダウンされ、「削除保留中」タグが設定されます。

- デスクトップは「削除保留中」状態に設定され、その後削除されますドロップダウンリストから、「保留中の削除」期間を選択します。

 注記

Nerdio Manager デスクトップは、自動スケールプロセスによって VM にタグが追加されることで「削除保留中」状態に設定されます。このプロセス中にタスクがログに記録され、デスクトップが「削除保留中」状態になったことを管理者に通知するために使用できます。
Nerdio Manager

- **以下のグループ (または個々のユーザー) を除外する:**このオプションを有効にしてから、自動縮小から除外するグループまたは個々のユーザーを選択します。

 注記

注意: ここに表示されているユーザーに割り当てられたデスクトップは、長期間非アクティブな状態が続いても、自動的に削除されることはありません。

- **デスクトップが削除されようとしていることをユーザーに通知する:**非アクティブ期間を超過したときにデスクトップの削除についてユーザーにメールで通知するには、このオプションを選択します。

 注記

この機能を動作させるためには、システム > 設定 > **Nerdio** ページで通知を有効にする必要があります。

- **メッセージの件名:**このオプションを展開して、自動縮小メッセージの件名を入力します。
- **メッセージ本文** **メッセージ本文:** このオプションを展開してエディターを開き、ユーザー向けのカスタム自動縮小メッセージを作成します。

 注記

注意:メッセージ本文で使用できる変数は次のとおりです:

- ホストプール影響を受けるホストプールの名前を返します。
 - **%HOSTNAME%:**特定のホスト名を返します。
 - **%HOST_IDLE_DAYS_THRESHOLD%:**自動縮小が開始する前に設定された最大のアイドル日数を返します。
 - **%SHRINK_TIME_UTC%:**自動縮小タスクが実行されるよう設定されている正確な時刻を UTC で返します。
 - **%SHRINK_DATE%:**自動縮小タスクが実行されるよう設定されている正確な日付を返します。
- **デスクトップの削除がスケジュールされたときに、追加のメール受信者に通知する:**このオプションを選択して、自動縮小のアクティビティについて追加のユーザーに通知します。
 - **通知メールの送信先:**追加のメールアドレスを入力します。

- **通知メールの送信元:** ドロップダウンリストから、「送信元」のメールアドレスを選択します。

8. 次のメッセージング情報を入力してください:

 注記

注意: システムは、スケールインのために選択されたセッションホストに接続されているユーザーにメッセージを送信します。

- **アクティブユーザーに警告メッセージを送信** ドロップダウンリストから、スケールインの何分前にメッセージを送信するかを選択します。
- **メッセージの内容:** 警告メッセージのテキストを入力します。

9. 次の障害ホストの自動修復情報を入力します:

 注記

Nerdio Manager セッションホストは、ドメイン信頼の問題や FSLogix 構成の問題により、動作に支障が生じることがあります。AVD エージェントは、そのようなホストのステータスを利用不可として報告します。管理者は、そのようなホストをプールから手動で削除する必要があります。ただし、Nerdio Manager

- **破損したホストを自動修復** このオプションを切り替えて自動修復を有効にします。
- **AVD エージェントのステータス** ドロップダウンリストから、セッションの状態と併せて目的の状態を選択します。

 注記

注意: 状態は、セッションホスト VM にインストールされた AVD エージェントによって AVD サービスに報告されます。何らかの問題がある場合、ステータスは "Available" 以外になります。「Available」以外のすべての状態が問題を意味するわけではありません。詳細については、この Microsoft の[記事](#)を参照してください。アクティブなセッションがあるホストは、ある程度機能している可能性があるため、障害のあるホストとして扱われません。セッションがまったくないホスト、またはアクティブなセッションがない（つまり、切断されたセッションのみの）ホストのみが、自動スケールによって障害のあるホストと見なされます。

- 最初のアクションのタイムアウト最初のアクションを実行する前に待機する分数を入力します。
- 復旧アクションドロップダウンリストから復旧アクションを選択します。

 注記

- VM アクション（例: VM の再起動、VM の削除）またはスクリプトアクション（例: SxS の再インストール、AVD へのホストの再登録など）を選択できます。
- 復旧アクションは、表示されている順序で実行されます。任意のアクションをドラッグアンドドロップしてリスト内の位置を変更し、実行順序を変更できます。

- 復旧アクション間のタイムアウト各復旧アクションステップの後、次のステップに進むまでの待機分数を入力します（例: VM を再起動してから VM を削除するなど）。

 注記

注意: 自動修復操作で障害のあるホスト VM の削除と再作成が必要な場合、利用可能であれば、容量を補うために予備の VM の電源がオンになります。

10. 必要な情報をすべて入力したら、(保存) を選択します。

関連トピック

動的ホストプールの作成 (66)

動的ホストプールの自動スケールを有効にする (78)

Auto-scale コスト最適化 セッションホスト VM の OS ディスク ストレージ

VM に関連するコストには、コンピュートコストとストレージコストの 2 種類があります。コンピュートコストは VM が使用中のときのみ発生し、ストレージコストは VM が停止しているときでも発生します。

実行中の OS ディスクサイズおよび停止中の OS ディスクタイプの設定(その他の自動スケール設定と併せて) により、ストレージコストを最大 75%削減できます。自動スケールロジックは、プール型および個人用ホストプールの両方において、ホスト VM の電源がオフになっている間に VM の OS ディスクタイプをより安価なストレージ層 (プレミアム SSD から標準 HDD へ) に自動的に変更し、起動直前にパフォーマンスレベルに戻すことができます。

セッションホスト上でと停止中の OS ディスクタイプの設定を行うには:

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、(自動スケール) > (設定) を選択します。
3. 自動スケールセクションで、以下を設定します:
 - **実行中の OS ディスク (テンプレート)**: ドロップダウンリストから実行中のディスクタイプを選択します。
 - **停止中の OS ディスクタイプ**: ドロップダウンリストから停止中のディスクタイプを選択します。
4. 上記のパラメータを変更したら、**保存して閉じる**を選択してください。

 注記

Azure の接続時に VM を起動機能を使用すると、Nerdio Manager の外部で VM の電源をオンにでき、**実行中の OS ディスクサイズおよび停止中の OS ディスクタイプ**の設定が上書きされる可能性があります。つまり、**接続時に VM を起動機能**で電源がオンになった VM は、ディスクのパフォーマンスを変更できません。代わりに、ストレージスケールリングで、**事前準備する**を設定して「すべてのホストを実行中の OS ディスクタイプに設定」を有効にすることをお勧めします。ただし、**接続時に VM を起動**が有効の場合に限ります。

スケジュールベースの自動スケールを行うシングルユーザーホストプールの場合、勤務時間内および勤務時間外のホスト OS ディスクを設定できます。たとえば、VM の実行時には Premium SSD、VM の停止時には標準 SSD を指定することで、Azure ストレージコストを削減できます。

ホスト OS ディスクを設定するには：

1. **Cloud Desktop > Azure Virtual Desktop > ワークスペース > ホストプール**の順に移動します。
2. 変更したいシングルユーザーホストプールを特定します。
3. アクションメニューから、**(自動スケール) > (設定)**を選択します。
4. **ホスト OS ディスクセクション**で、以下を設定します：
 - **実行中**: ドロップダウンリストから、VM が実行中のときのディスクタイプを選択します。
 - **停止中**: ドロップダウンリストから、VM が停止中のときのディスクタイプを選択します。
5. 上記のパラメータを変更したら、**保存して閉じる**を選択してください。

最小アクティブホスト容量が 0 に設定されているマルチユーザーホストプールの場合、事前準備の時間中に停止中のすべての VM OS ディスクを自動的に **実行中の OS ディスクタイプ**に変換するようシステムを設定できます。これは、**Azure 接続時に VM を起動**を介して VM が起動された場合に、適切なパフォーマンスレベルのディスクが使用されるようにするために必要です。

事前準備 OS ディスクタイプ変換を設定するには：

1. 作業対象のシングルユーザーホストプールを特定します。
2. アクションメニューから、**(自動スケール) > (設定)**を選択します。

3. **ホストの事前準備**セクションで、以下を設定します：
 - 必要に応じて、**ホストの事前準備**を有効にします。
 - **すべてのホストを実行中の OS ディスクタイプに設定**: このオプションを選択します。
 - 希望の事前準備時間を設定します。
4. 必要な情報をすべて入力したら、**(保存して閉じる)**を選択します。

動的ホストプールに新しいセッションホストを追加する

ハイブリッドホストプールが作成されると、手動でセッションホストを追加できます。

ヒント

ヒント: (78) 動的ホストプールを使用する場合は、オートスケーリングを設定したホストを作成することをお勧めします。詳細については、[動的ホストプールのオートスケーリングを有効にする \(78\)](#)を参照してください。

動的ホストプールにセッションホストを追加するには:

1. 作業対象の動的ホストプールを特定してください。
2. 次の操作を行います:
 - ⋮ **新規追加** を選択します。
3. 次の情報を入力してください。

注記

注: (37) 必要なパラメーターのいくつかについては、リソース選択ルールを使用して利用可能な選択肢をフィルタリングできます。例えば、インテル RAM 最適化 VM のみのために、VM サイズや OS ディスクの選択肢をフィルタリングできます。詳細については、[リソース選択ルール管理 \(37\)](#)を参照してください。

- **今すぐ実行** または **スケジュール**を選択します。
- **スケジュールタブ**では、選択した時間枠内でタスクを実行できます。そうでない場合、タスクは **OK** を選択した時点で開始されます。スケジュールの作

成に関する詳細は、「[タスクのスケジュール管理 \(35\)](#)」を参照してください。
ドロップダウンリストからスケジュールを選択するか、新しいスケジュールを作成します。

Add Host to Dynamic Pool ⓘ

No session hosts to process now

▶ Run now

📅 New schedule *

SCHEDULE

New schedule

- **ホスト数:** **ホスト数:** 作成時にホストプールに追加するセッションホストの数を入力します。
- **ホスト名:** **名前:** 新しく追加するホストの名前を、正確な名前、プレフィックス、またはプレフィックス+パターンとして入力します。
- **正確な名前/プレフィックス/パターン:** ドロップダウンリストから、正確な名前、プレフィックス、またはパターンを使用するかを選択します。

📌 注記

- **完全一致**は、単一のホストを追加し、完全な名前を指定する場合に適用されます。例: MYADVHOST。
 - **プレフィックス**は、複数のセッションホストを作成する際に使用できます。プレフィックスの上限は、有効な Windows コンピューター名の文字で 10 文字です。プレフィックスを使用する場合は、「-xxxx」形式の一意のサフィックスが自動的に付加されます。xxxx はランダムな英数字 4 文字です。例えば: AVDHOST-s72h。プレフィックスに「-」を追加しないでください。
 - **パターン**は、新しいホストのための高度な命名規則を指定するために使用できます。パターン文字は {} で囲む必要があり、# (連番用) や ? (ランダムな英数字用) を使用できます。1 つの # は 0 ~ 9 の数字、2 つの # は 0 ~ 99 の数字を表します。
 - 例: AVDHOST{###} (AVDHOST000..AVDHOST999)。
 - 例: AVDHOST-{???} (AVDHOST-d83、AVDHOST-7sl など)。
- ネットワークドロップダウンリストからネットワークを選択します。ネットワークは、VM の Azure リージョンを決定します。

- デスクトップイメージ: **デスクトップイメージ**: ドロップダウンリストから、新しく作成するセッションホストのゴールデンイメージとして使用するデスクトップイメージを選択します。

注記

注意: 管理されていない Azure Compute Gallery のイメージバージョンセクションは、リストの下部にあります。これらは、ステージされたイメージをアクティブ化する際に作成された管理されていないバックアップバージョンのイメージです。これらのイメージは、セッションホストに加えた変更を復元するために使用できます。

- VM サイズ: **VM サイズ**: ドロップダウンから、新しく作成されたセッションホストの VM タイプを選択します。
- OS ディスク **OS ディスク**: ドロップダウンリストから、新しく作成されたセッションホストの OS ディスクの種類とサイズを選択します。特定の OS ディスクの種類を表示するために、必要に応じてオプションのフィルターを選択してください。例えば、**すべてのディスクパフォーマンスレベル**を選択して、**プレミアム SSD ディスク**を表示します。

注記

注意: これは、上で選択したデスクトップイメージのサイズと同じか、それ以上でなければなりません。スタンダード HDD (S タイプ) の使用はお勧めできません。プレミアム SSD は優れたパフォーマンスを発揮します。

- リソースグループ: ドロップダウンリストから、VM を含むリソースグループを選択します。
- タグを適用する : **タグを適用**: 任意で、セッションホストに適用する Azure タグの (名前) と (値) を入力します。

注記

注: 複数のタグを指定できます。Azure リソースの整理にタグを使用する方法の詳細については、Microsoft の[記事](#)を参照してください。

4. ホスト数が 1 より大きい場合は、次の情報を入力してください:
 - グループごとのプロセスホスト数:新しいホストを追加する際の同時実行操作数を入力してください。
 - 中止するまでの失敗回数:プロセスが停止するまでの失敗したタスクの数を入力してください。
5. すべての必要な情報を入力したら、**今すぐ実行** (スケジュールされていない) または **保存して閉じる** (スケジュール済み) を選択します。

ホストプール AVD 構成

▲ 警告

Nerdio Manager は、自動化または管理プロセス中に BgInfo Azure 拡張機能をインストールしません。ただし、[Azure PowerShell モジュールの問題に関するレポート](#)に記載されているように、BgInfo 拡張機能はスクリプトアクションから直接インストールされるか、意図せずインストールされる場合があります。

Nerdio Manager

ホストプールの AVD 設定を行うには:

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、(プロパティ) > (AVD) を選択します。
3. 次の情報を入力します:
 - フレンドリ名:エンドユーザーに表示される表示名を入力します。
 - 説明管理者に表示される説明を入力します。

📌 注記

(注意:) フレンドリ名と説明はいつでも変更できます。

- 負荷分散希望する負荷分散オプションを選択します。

 注記

(注意:) 負荷分散アルゴリズムは、特定のユーザーのデスクトップまたは RemoteApp 接続をルーティングする方法を決定するために AVD 管理サービスによって使用されます。

幅優先は、負荷分散アルゴリズムがすべての利用可能なセッションホストにユーザーを均等に分散させることを意味します。

深さ優先は、負荷分散アルゴリズムが最初のセッションホストにすべてのユーザーを配置し、ホストのセッション制限に達するまで続けることを意味します。その後、次のセッションホストにユーザーを配置します。必要に応じて、VM の電源をオンにし、ユーザーが利用できるようにします。

- **セッション制限:**ホストプール内の単一ホストが受け入れ可能なセッション数を入力します。
- **検証環境:**このオプションを選択して、このホストプールを検証ホストプールとして指定します。

 注記

注意: 検証ホストプールは、非検証ホストプールよりも速い頻度でサービス更新を受け取るため、サービス変更が本番環境に広く展開される前にテストできます。

- **セッションホストが開始されていない場合、ユーザーが手動でセッションホストを開始するようにする:**このオプションを選択して、ユーザーが Nerdio Manager にサインインし、サービスアクションを実行できるようにします。たとえば、ホストプール内のセッションホストの電源オンを実施します。指定されたユーザーの中で、**にサインインする権限を持つユーザーのみが、この方法でセッションホスト VM を起動できます。**
- **接続時に VM を起動**ユーザーが接続すると、VM が自動的に電源オンになります。サインインしたユーザーは誰でも VM を起動できます。
- **ホストを削除するときにホストプールからユーザーの割り当てを解除する:**個人用ホストプールの場合、このオプションを選択すると、ホストが削除されたときにホストプールからユーザーの割り当てが解除されます。

- **ホストの CPU 使用率を収集する:**このオプションを選択して、ホストプールの自動スケールトリガーに関係なく、常に CPU 使用率を収集するように自動スケールプロセスを設定します。
- **ホストの RAM 使用率を収集する:**このオプションを選択して、ホストプールの自動スケールトリガーに関係なく、常に RAM 使用率を収集するように自動スケールプロセスを設定します。
- **ホストの平均アクティブセッションを収集する:**このオプションを選択して、ホストプールの自動スケールトリガーに関係なく、常に平均アクティブセッションデータを収集するように自動スケールプロセスを設定します。
- **スケジュールされた AVD エージェントの更新を有効にする:**このオプションをオンにすることで、AVD エージェントを更新したい日と時間を指定します。

 注記

便利な時間帯やピークビジネス時間外に更新を展開することで、信頼性と事業継続が向上し、業務上重要な作業を中断することなく従業員の体験が改善されます。

- **タイムゾーンタイムゾーン:** ドロップダウンリストからスケジュールされた更新のタイムゾーンを選択します。

 注記

注意: タイムゾーンを設定することで、ホストプール内のセッションホスト VM への更新が、選択したタイムゾーンに従って同時に行われることが保証され、セッションホスト VM のローカルタイムゾーンに関係なく実施されます。詳細については、この [Microsoft の記事](#) を参照してください。

- **ローカルセッションホストのタイムゾーンを使用する:**このオプションを選択して、ホストプール内の各セッションホスト VM のローカルタイムゾーンを使用してエージェントの更新を実行します。

 注記

。注意: ホストプール内のすべてのセッションホスト VM、またはそれらに割り当てられたユーザーが異なるタイムゾーンにいる場合にこの設定を使用します。

- **メンテナンスウィンドウ:** ドロップダウンリストからエージェントの更新のための日と時間を指定します。

 注記

すべてのメンテナンスウィンドウは 2 時間です。

- **追加のメンテナンスウィンドウを設定する:** 必要に応じて、このオプションを選択して 2 つ目のメンテナンスウィンドウを指定します。

 注記

注意: 2 つのメンテナンスウィンドウを作成することで、最初の更新が失敗した場合にエージェントコンポーネントが更新するための追加の機会が得られます。

- **ウィンドウ中にすべてのホストを電源オン:** オプションで、このオプションを選択して、メンテナンスウィンドウの操作中にプール内のすべてのホストを電源オンにし、最新の AVD エージェントやその他の更新をインストールできるようにします。

 注記

注意: このプロセスの一環として起動されたホストは、2 時間後にシャットダウンされます。すでに実行中のホストは、電源状態が変更されません。

- **ドレインモードのホストを除外する:** オプションで、このオプションを選択して、ホストプールのプロパティに構成された AVD エージェントのメンテナンスウィンドウタスクからドレインモードのホストを除外します。

4. すべての必要な情報を入力したら、**(保存)** または **(保存して閉じる)** を選択します。

ホストプールの仮想マシン展開

▲ 警告

Nerdio Manager は、自動化または管理プロセス中に BgInfo Azure 拡張機能をインストールしません。ただし、[Azure PowerShell モジュールの問題に関するレポート](#)に記載されているように、BgInfo 拡張機能はスクリプトアクションから直接インストールされるか、意図せずインストールされる場合があります。

Nerdio Manager

ホストプールの仮想マシン展開を構成するには：

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、**設定 > 仮想マシン**を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
4. 次の**オペレーティング システム**オプションを入力します：
 - **タイムゾーンを設定****タイムゾーンを設定する**：このオプションを有効にし、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択して、VM がプロビジョニングされる際にタイムゾーンを設定します。
 - **タイムゾーンリダイレクト**このオプションを有効にすると、ユーザーはセッション内で自分のローカルデバイスのタイムゾーンを確認できます。
 - **常にパスワードを要求する**このオプションを選択すると、常にユーザーにパスワードの入力を求めます。

 注記

注意：このポリシー設定は、リモートデスクトップサービスが接続時にクライアントに常にパスワードを要求するかどうかを指定します。この設定を使用すると、リモートデスクトップ接続クライアントで既にパスワードを入力している場合でも、サインイン時にパスワードの入力を求めるようにできます。

デフォルトでは、リモートデスクトップサービスは、ユーザーがリモートデスクトップ接続クライアントでパスワードを入力することによって自動的にサインインすることを許可します。

- このオプションを選択すると、ユーザーはリモートデスクトップ接続クライアントでパスワードを提供することによってリモートデスクトップサービスに自動的にサインインすることができなくなります。サインインするためにパスワードを要求されます。
 - このオプションを選択しない場合、ユーザーはリモートデスクトップ接続クライアントでパスワードを提供することによって常にリモートデスクトップサービスに自動的にサインインできます。
- **電源オフの VM を自動的に割り当て解除する:**このオプションを選択すると、定期的なタスクがセッションホスト VM が電源オフであるが割り当て解除されていない状態にあるかどうかを確認し、自動的に割り当て解除して Azure のコンピュートコストを節約します。
 - **ブート診断**このオプションを有効にすると、このプール内のデスクトップにブート診断機能が適用されます。

 注記

この設定は、新しく作成されたデスクトップにのみ適用されます。

- **ブートデータ用のストレージアカウント:**オプションとして、ドロップダウンリストからブートデータを格納するために使用される利用可能なストレージアカウントを選択してください。

 注記

注意：デフォルトでは、Azure はスクリーンショットやその他のデータのために自動管理されたストレージアカウントを使用します。デフォルト設定を使用するには、これを空のままにしてください。

- **パッチオーケストレーションオプション**: ドロップダウンリストからパッチオーケストレーションオプションを選択し、パッチが仮想マシンに適用される方法を制御します。

 注記

Nerdio Manager は、Azure のデフォルト設定である OS による自動更新 (Windows 自動更新) を適用します。

- **アクセラレーテッドネットワーキング (サポートされている場合)**: 利用可能な場合は、このオプションを有効にしてアクセラレーテッドネットワーキングを有効にします。

 注記

Azure VM の高速ネットワーク機能は、一部の大規模な Azure VM で利用可能です。この機能は、大量の Azure Virtual Desktops を展開、管理、最適化する必要があるエンタープライズや IT プロフェッショナルにとって便利です。個々の仮想マシンのネットワークパフォーマンスを向上させます。

この機能が Azure VM でサポートされていない場合は、有効になりません。詳細情報については、この Microsoft の [ドキュメント](#) を参照してください。

- **NVMe (サポートされている場合)**: 利用可能な場合は、このオプションを有効にして NVMe を有効にします。

 注記

注: NVMe は、より高い IOPS とスループットを提供し、ワークロードに全体的に優れたパフォーマンスを提供するストレージプロトコルです。詳細情報については、この Microsoft の [ドキュメント](#) を参照してください。

- **GPU ドライバー (サポートされている場合)**: このオプションを有効にすると、[NVidia](#) または [AMD](#) ドライバーがインストールされます。

 注記

注: GPU ドライバーは N シリーズ VM にインストールできます。

- **H.265 エンコーディング (サポートされている場合)**: H.265 高効率ビデオコーディングのハードウェアアクセラレーションを有効にするには、このオプションを有効にします。

 注記

注: H.265 ハードウェアアクセラレーションは、NVIDIA GPU を使用する N シリーズ VM サイズでのみ利用可能です。

- **容量予約グループに仮想マシンをデプロイする**: このオプションを有効にすると、仮想マシンが容量予約グループにデプロイされます。

 注記

注: 詳細についてはキャパシティ予約グループの管理を参照してください。

- **キャパシティ予約グループドロップダウンリストから容量予約グループを選択してください。**
- **可用性ゾーンにまたがって仮想マシンをデプロイする**: このオプションを有効にすると、選択した Azure リージョン内の可用性ゾーンへ、新しく作成または再イメージ化されたセッションホスト仮想マシンが自動的に分散配置されます。

 注記

- Nerdio Manager
- Azure リージョンと可用性ゾーンに関する詳細は、Microsoft の[記事](#)をご覧ください。

- 可用性ゾンドロップダウンリストから可用性ゾーンを選択してください。
- 専用ホストに仮想マシンをデプロイする: このオプションを有効にすると、物理サーバーに仮想マシンがデプロイされます。

 注記

注意: Azure 専用ホストに関する詳細は、Microsoft の[記事](#)をご覧ください。

- 専用ホストグループ: ドロップダウンリストから専用ホストグループを選択してください。
- 専用ホストドロップダウンリストから仮想マシン用の専用ホストを選択してください。

 注記

注意: 自動割り当てが選択されている場合、仮想マシンは電源オン時に適切なホストに自動的に割り当てられます。

- 近接配置グループに VM をデプロイする: このオプションを有効にすると、近接配置グループに VM がデプロイされます。

 注記

<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/virtual-machines/co-location> **注意:** 近接配置グループに配置された仮想マシンは、Azure データセンター内で近くに配置され、仮想マシン間のネットワーク遅延が最小限に抑えられます。[Microsoft Learn](#) を参照してください。詳細については「[近接配置グループ](#)」を参照してください。

- 近接配置グループドロップダウンリストから近接配置グループを選択してください。

•

 注記

注意: 選択したグループは、作成時に仮想マシンに自動的に割り当てられます。適切なリソースが見つからない場合、仮想マシンの作成は失敗します。

- **デプロイ後に VM を再起動する:**このオプションを選択すると、VM の作成後に VM が再起動します。

 注記

注意: 展開中に特定の拡張機能(FSLogix、Sepago、Virtual Desktop Optimizations、またはユーザーセッションの時間制限) がインストールされている場合、このオプションが選択されていなくても仮想マシンは自動的に再起動されます。

- **App Attach 証明書をインストール**このオプションを選択すると、App Attach パッケージがこのホストプールに追加された場合に、すべての格納された証明書がインストールされます。
- **App-V クライアントサービス:**App-V クライアントサービス: このオプションを有効にすることで、App-V パッケージを含む App Attach パッケージを仮想マシンが使用する場合に必要な App-V クライアントサービスが有効になります。
- **アプリケーションをインストールアプリをインストール:** このオプションを有効にすると、ホストをドレインモードから移動する前に、定期的な UAM ポリシーで構成されたアプリがインストールされます。
- **Entra ID グループドロップダウンリストから、セッションホストを追加するための既定の Entra ID グループを選択してください。**
- **Entra Connect レプリケーションタイムアウト (分) :**ハイブリッド登録の場合、Active Directory から Entra Connect 経由でのマシンアカウントのレプリケーションにおける最大遅延を入力してください。

 注記

既定では、これは 30 分です。最大 120 分までの値を指定できます。

- **Intune 準拠を適用する** : ドロップダウンリストからこのオプションを選択すると、Intune 準拠要件が満たされるまでホストがユーザーに利用できなくなります。

 注記

- オプションで、**準拠ポリシーのみ**または**すべてのポリシー**を選択します。**すべてのポリシー**オプションは、ホストがドレインモードから解除される前に、Intune 管理アプリが正常にインストールされていることも必要です。
- この機能を利用するには、Intune 統合を有効にする必要があります。以下のオプションがあります:
 - **準拠ポリシーのみ**設定は、Intune 管理デバイスの読み取り権限を必要とします。
 - **すべてのポリシー**設定は、さらに**デバイスポリシーおよびアプリポリシー**の読み取り権限を必要とします。
- いずれかのオプションを有効にすると、構成された Intune 準拠要件に応じて、プロビジョニング時間が大幅に増加する可能性があります。

- **非管理者ユーザーによるセッションのシャドウを許可**: このオプションを有効にすると、選択した非管理者ユーザーまたはグループがセッションをシャドウできるようになります。

 注記

注: セッションシャドウは、マルチセッションバージョンの Windows OS でのみ利用可能です。この機能は、Windows 10 Enterprise (シングルセッション) では動作しません。

- **ユーザー名またはグループ名**: ドロップダウンリストから、セッションをシャドウすることを許可するユーザーまたはグループを選択します。
- **セキュリティタイプ**: ドロップダウンリストからセキュリティタイプを選択します。

 注記

セキュリティタイプとは、仮想マシンで利用できる各種セキュリティ機能を指します。Trusted Launch や機密仮想マシンなどのセキュリティ機能は、Gen2 VM のセキュリティを向上させます。ただし、追加のセキュリティ機能には、バックアップ、管理ディスク、エフェメラル OS ディスクをサポートしないなどの制限があります。

- **ホストでの暗号化****ホストでの暗号化:** セッションホスト VM に保存されているデータが静止状態で暗号化され、ストレージサービスに暗号化された状態で流れるようにするために、このオプションを選択します。

 注記

- この設定は、新しく作成されたデスクトップにのみ適用されます。
- 暗号化セットは、サブスクリプション/リージョンごとに異なります。異なるサブスクリプション/リージョンでホストを作成でき、ホストのサブスクリプション/リージョンに基づいて適切な暗号化セットを選択します。
- ホストでの暗号化機能について詳しくは、この [Microsoft 記事](#) をご覧ください。

- **ディスク暗号化セット:** ドロップダウンリストから、顧客管理キー機能を提供するために使用するディスク暗号化セットを選択します。

 注記

Nerdio Manager 既定では、プラットフォーム管理のキーを使用します。既定設定を使用するには、ディスク暗号化セットを空白のままにしてください。ディスク暗号化セットが必要な場合は、デスクトッププールと同じリージョンで Azure ポータルから作成してください。利用可能なディスク暗号化セットは、ドロップダウンリストから選択できます。キーオプションの詳細については、[Azure ディスクストレージのサーバー側暗号化](#)を参照してください。

- **アプリケーションセキュリティグループ:** アプリケーションセキュリティグループ: ドロップダウンリストから、アプリケーションの構造の自然な拡張として

ネットワークセキュリティを構成できるアプリケーションセキュリティグループ (ASG) を選択してください。

注記

注意: これにより、仮想マシンをグループ化することができ、そのグループに基づいてネットワークセキュリティポリシーを定義できます。この機能では、明示的な IP アドレスを手動で管理することなく、セキュリティポリシーを大規模に再利用できます。ASG とは異なるリージョンにネットワークインターフェースを持つ VM は、ASG サポートなしで作成されます。サポートされる ASG の最大数は 10 です。

詳細については、[アプリケーションセキュリティグループ](#)を参照してください。

- **透かし:** このオプションを有効にすると、透かしが有効になります。

注記

注意: 透かしは、クライアントエンドポイントで機密情報がキャプチャされるのを防ぐのに役立ちます。透かしを有効にすると、QR コードの透かしがリモートデスクトップの一部として表示されます。QR コードには、管理者がセッションを追跡するために使用できるリモートセッションの接続 ID が含まれています。

- **スケール:** スケール: QR コードの各ドットのサイズ (ピクセル単位) を選択します。この値は、各 QR コードドットを構成する正方形の数を決定します。
- **不透明度:** 不透明度: 透かしの透明度をパーセントで選択します。0 は完全に透明です。
- **幅の係数:** 幅の係数: QR コード間の距離をパーセントで決定する幅の係数を選択します。高さの係数と組み合わせると、値が 0 の場合、QR コードは横に並んで画面全体を埋めるように表示されます。
- **高さの係数:** 高さの係数: QR コード間の距離をパーセントで決定するスケールを選択します。幅の係数と組み合わせると、値が 0 の場合、QR コードは横に並び、画面全体を埋めるように表示されます。
- **スクリプトの署名:** このオプションを有効にすると、スクリプト署名が有効になります。

 注記

Nerdio Manager は、指定した署名証明書を使用して、セッションホスト VM で実行されるすべての PowerShell 拡張機能とスクリプトアクションに自動的に署名できます。スクリプトを動作させるには、選択した証明書を VM にインストールしておく必要があります。

5. すべての必要な情報を入力したら、(保存) または (保存して閉じる) を選択します。

ホストプールのユーザー割り当てを管理する

Nerdio Manager

ホストプールのユーザー割り当てを管理するには：

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、**管理 > ユーザーとグループ**を選択します。
3. または、ステータス列で、**割り当てられたユーザー**の隣にある番号を選択して、ユーザーとグループを表示します。
4. **割り当て**ウィンドウでは、ユーザーとグループを検索、並べ替え、フィルタリングできます。たとえば、ホストプールに割り当てられていないすべてのユーザーをフィルタリングします。
5. ホストプールからユーザーの割り当てを解除するには、割り当てを解除したいユーザーの隣にある
6. すべてのユーザーを選択したら、**割り当て解除**を選択します。
7. ホストプールにユーザーを割り当てるには、割り当てたいユーザーの隣にある
8. すべてのユーザーを選択したら、**アサイン**を選択します。

ホストプールの Active Directory 設定を構成する

デフォルトでは、すべてのホストプールは Nerdio Manager がインストールされたときに使用されたグローバル既定の Active Directory 構成を使用します。必要に応じて、Nerdio Manager を用いて、異なるサービスアカウントや OU を含む複数の Active Directory プロファイルを作成できます。その後、これらのプロファイルを異なるホストプールで使用できます。

ホストプールの Active Directory を構成するには：

1. 作業したいホストプールを見つけます。

2. 操作メニューから、**プロパティ > ディレクトリ** を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - **AD 構成** : ドロップダウンリストから Active Directory 構成を選択します。

カスタム 構成の場合は、以下を入力してください。

- **ディレクトリ** : ドロップダウンリストからディレクトリを選択します。
- **AD ドメイン** : **AD ドメイン** : セッションホスト VM が参加するドメインを完全修飾ドメイン名 (FQDN) 形式で入力します。
- **AD ユーザー名** : FQDN 形式でユーザー名を入力します。

注記

注意: このユーザーは、以下で指定された OU にコンピューターオブジェクトを作成する権限と、VM が AD ドメインを離れた際にこれらの AD コンピューターオブジェクトを無効にする権限を持っている必要があります。

- **AD パスワード** : パスワードを入力します。
- **組織単位** : Distinguished Name (DN) 形式で OU 名を入力します。

注記

注意: これは、すべてのセッションホスト VM とデスクトップイメージの AD コンピューターオブジェクトが既定で作成される OU です。このフィールドを空白のままにすると、すべてのコンピューターオブジェクトがコンピューターの AD コンテナに配置されます。

4. 必要な情報をすべて入力したら、**(保存)** または **(保存して閉じる)** を選択します。

関連トピック

[Azure Active Directory - 用語の定義](#)

AVD で使用するための Entra Domain Services の設定

プール型ホストプールの「接続時に VM を起動 (Start VM on Connect)」

Nerdio Manager

 注記

注:エンドユーザーは、セッションホスト VM を複数の方法で起動できます。それはユーザーのアクセス許可によります。

- セッションホストが開始されていない場合に、ユーザーが手動で開始できるようにする:これにより、ユーザーは Nerdio Manager にサインインしてサービスアクションを実行できるようになります。たとえば、ホストプール内のセッションホストの電源オンを実施します。指定されたユーザーの中で、**にサインインする権限を持つユーザーのみが、この方法でセッションホスト VM を起動できます。**
- 接続時に VM を起動ユーザーが接続すると、VM が自動的に電源オンになります。サインインしたユーザーは誰でも VM を起動できます。

プール型ホストプールの接続時に VM を起動する設定を行うには:

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. メニューから、**プロパティ > AVD** を選択します。
3. **接続時に VM を起動**オプションを選択します。
4. **(保存)** または **(保存して閉じる)** を選択します。

ユーザーセッション時間制限の設定

Nerdio Manager

- AVD の展開と自動スケーリングを最適化します。
- セッションを開いたままにしたり、切断状態のままにしたユーザーをサインアウトすることで、リソースを節約します。

 注記

- デフォルトでは、セッション時間制限オプションは無効になっています。セッション時間制限は適用されず、システムはユーザーが単一のイメージまたはグループポリシーを通じて行う変更を受け入れます。
- Nerdio Manager

フルデスクトップのユーザーセッション時間制限を設定するには：

1. 使用するホストプールを特定してください。
2. アクションメニューから、プロパティ > セッション時間制限を選択します。
3. 次の情報を入力してください。
 - **ユーザーセッション時間制限を有効にする:** このオプションをオンにします。
 - ****切断**されたセッションをログオフするまでの時間** ドロップダウンリストから、切断されたユーザーをサインアウトするまでの時間を選択します。

注記

注意：デフォルトでは、ユーザーはサインアウトせずに AVD セッションから切断できます。セッションが切断状態のとき、実行中のプログラムは、ユーザーがもはやアクティブに接続されていなくてもアクティブなままです。デフォルトでは、これらの切断されたセッションは無制限の時間、サーバー上で維持されます。

このポリシー設定を有効にすると、切断されたセッションは指定された時間が経過した後にサーバーから削除されます。切断されたセッションが無制限の時間維持されるという既定の動作を適用するには、**なし**を選択します。コンソールセッションがある場合、切断されたセッションの時間制限は適用されません。

- **アイドルセッションの切断後:** ドロップダウンリストから、アクティブなセッションがユーザー入力なしでアイドル状態のまま自動的に切断されるまでの最大時間を選択します。

注記

注意: このポリシー設定を有効にすると、指定された時間が経過した後にアイドルセッションが切断されます。ユーザーはセッションが切断される 2 分前に警告を受け取り、これによりユーザーはキーを押したりマウスを動かしたりしてセッションをアクティブに保つことができます。コンソールセッションがある場合、アイドルセッションの時間制限は適用されません。

- **アクティブセッションの切断までの時間:** ドロップダウンリストから、セッションが自動的に切断される前にアクティブでいられる最大時間を選択します。お
勧め設定: 設定されていません

 注記

注意: このポリシー設定を有効にすると、指定された時間が経過した後にアクティブセッションが自動的に切断されます。ユーザーはセッションが切断される 2 分前に警告を受け取り、これによりユーザーは開いているファイルを保存したりプログラムを閉じたりすることができます。コンソールセッションがある場合、アクティブセッションの時間制限は適用されません。

- 空の ****RemoteApp**** セッションをログオフするまでの時間ドロップダウンリストから、ユーザーがすべての RemoteApp プログラムを閉じた後、RemoteApp セッションが切断状態のままサインアウトされるまでの時間を選択します。

 注記

注意: デフォルトでは、ユーザーがリモートアプリプログラムを閉じると、セッションは切断されますが、サインアウトはされません。このポリシー設定を有効にすると、ユーザーがセッションに関連付けられた最後のリモートアプリプログラムを閉じると、リモートアプリセッションは指定した時間制限に達するまで切断状態のままになります。指定された時間制限に達すると、RemoteApp セッションはサインアウトされます。ユーザーが時間制限に達する前に RemoteApp プログラムを開始すると、ユーザーは AVD セッションホスト VM 上の切断されたセッションに再接続します。

このポリシー設定を無効にするか、構成しない場合、ユーザーが最後の RemoteApp プログラムを閉じると、セッションは切断されますが、サインアウトはされません。

- **サインアウトする (切断ではなく) 、アイドルおよびアクティブなセッション:** ドロップダウンリストから、タイムアウトしたアクティブまたはアイドルセッションを切断するのではなくサインアウトするかどうかを指定するオプションを選択します。

 注記

注意: この設定を使用して、アクティブまたはアイドルなセッションの時間制限に達した後にセッションをサインアウトできます。既定では、セッションは時間制限に達すると切断されます (サインアウトはされません)。

このポリシー設定を無効にすると、時間制限に達したアイドルおよびアクティブなセッションは、サーバー管理者によって別途指定されている場合でも切断されます。

このポリシー設定は、管理者によって明示的に設定されたタイムアウト制限にのみ適用されます。このポリシー設定は、接続性やネットワーク条件によって発生するタイムアウトイベントには適用されません。

- 既存のホストに適用このオプションを選択して、変更されたセッション時間制限を既存のホストに適用します。
- **VM を再起動する:VM を再起動:** このオプションを選択して、セッションタイムアウトを更新した後にセッションホスト VM を再起動します。
- **グループごとにホストを処理する:**変更を適用する際の同時実行操作数を入力します。
- 中止するまでの失敗回数:プロセスが停止するまでの失敗したタスクの数を入力します。
- **スケジュール:スケジュール:** 選択した時間に変更を適用するために、スケジュールをオンにします。
 - **開始日:**開始する日付を入力します。
 - **タイムゾーンタイムゾーン:** ドロップダウンリストから開始時間のタイムゾーンを選択する。
 - **開始時刻:**ドロップダウンリストから開始時刻を選択します。
 - **繰り返し:繰り返し:** ドロップダウンリストから、必要に応じて繰り返しスケジュールを選択する。

 注記

注: ドロップダウンには、(パッチ後の火曜日) のオプションがあります。これにより、(パッチ後の火曜日) に基づいて繰り返しスケジュールを作成できます。

- 経過日数:経過日数: (パッチ後の火曜日) を選択した場合は、スケジュールされたタスクを実行するパッチチューズデー後の日数を入力します。

4. すべての必要な情報を入力したら、(保存) または (保存して閉じる) を選択します。

ユーザーにリモートアプリを公開する

1つのアプリがローカルで実行できなくなるため、ユーザーはクラウド環境へ移行することが多いです。しかし、1つ以上のアプリをリモートで実行することで、大幅なコスト削減が可能になります。このガイドでは、リモートアプリを利用する Azure Virtual Desktop のホストプールを設定する方法とその理由について説明します。

Nerdio Manager

リモートアプリとは何ですか？

名前が示すように、リモートアプリはリモートで実行されるアプリです。しかし、一部の人がそう思っているとはいえ、リモートアプリを利用するにはマルチセッション AVD ホストが必要です。アプリは、従来のリモートデスクトップソリューションと同じようにインストールします。ただし、リモートユーザー向けにアプリを公開する際、ユーザーがアクセスできるアプリを選択できます。これは Application Group によって管理されます。

 注記

ユーザーにフルデスクトップ体験がある場合、リモートアプリの代わりに、FSLogix App Masking を使用してユーザーがアクセスできるアプリを制限できます。

なぜリモートアプリですか？

リモートアプリはフルデスクトップエクスペリエンスに比べてリソースの消費が少なく、1つのホストでより多くのユーザーをサポートできるため、コスト削減につながります。

アプリケーショングループとは何ですか？

Azure Virtual Desktop (AVD) では、アプリケーショングループが、ホストプール内でユーザーがアクセスできる対象、すなわちフルデスクトップまたは特定のアプリを定めます。ユーザーは、柔軟なアクセスのため、異なるホストプールにまたがる複数のアプリケーショングループに割り当てることができます。

次の種類があります：

- デスクトップフル Windows デスクトップ (プール型ホストプールまたは個人用ホストプール) へのアクセスを提供します。
- RemoteApp : 選択したアプリへのアクセスを提供します (プール型ホストプールのみ)

同じプール型ホストプールに両方のタイプを割り当てることができますが、プールごとにデスクトップグループは1つだけです。複数のリモートアプリグループを割り当てることができ、ユーザーはそれらのグループに含まれる全てのアプリにアクセスできます。

同じホストプールでデスクトップとリモートアプリの両方に割り当てられている場合、プールの設定により、[優先アプリケーショングループ](#)のみが表示されます。

ホストプールを設定する

前述のように、RemoteApp を利用するにはマルチユーザーホストプールが必要です。できれば、新しいホストプールを作成してください。ただし、既存のホストプールがある場合は、リモートアプリグループを簡単に追加したり、切り替えたりできます。

デスクトップイメージとホストをプロビジョニングする

ホストプールができたので、デスクトップイメージを作成または更新し、それをホストプールにデプロイする必要があります。詳細については、([デスクトップイメージの Set as Image \(54\)](#)) を参照してください。

ホストプールにアプリケーショングループを追加する

アプリケーショングループは、ユーザーやグループをデスクトップやリモートアプリに割り当てることを可能にします。これにより、アプリ管理が簡単になり、アプリは個々のユーザーではなくアプリグループで管理できます。

注記

ホストプールには、少なくとも 1 つのアプリグループが関連付けられている必要があります。

1. 作業したいホストプールを選択します。
2. その他のオプション .
3. 次の情報を入力してください：
 - RemoteApp アプリグループ : リモートアプリのアプリグループの名前を入力してください。

注記

ホストプールには複数の RemoteApp アプリグループが存在する場合があります。

- デスクトップアプリグループ : デスクトップアプリグループの名前を入力してください。

注記

ホストプールにはデスクトップアプリグループを 1 つだけ持つことができます。

4. 必要な情報を入力したら、**OK** を選択します。

ユーザーにリモートアプリを公開する

リモートアプリを使えば、ユーザーはフルデスクトップを起動せずに、単一のアプリを起動できます。例えば、ユーザーはデスクトップにサインインすることなく Excel を起動できます。これにより、ユーザーがフルデスクトップを利用しなくても済むため、セッションホストのリソースを節約できます。例えば、Excel の例では、リモートアプリとして Excel を利用すれば 10 人ものユーザーが同時に使えるかもしれませんが、フルデスクトップで接続すると、セッションホストが対応できるユーザー数はさらに少なくなる可能性があります。つまり、すべての Excel ユーザーに対応するためには、追加のセッションホストをデプロイする必要があります。

次の方法を使用してリモートアプリを公開できます：

- [ホストにインストールされたリモートアプリをユーザーに公開する \(138\)](#)
- [App Attach パッケージからユーザーにリモートアプリを公開する \(140\)](#)
- [ファイルパスからユーザーにリモートアプリを公開する \(141\)](#)

ホストにインストールされたリモートアプリをユーザーに公開します

Nerdio Manager

1. 作業したいホストプールを選択します。これは、**RemoteApp (プール)** デスクトップエクスペリエンスのために構成されたホストプールです。
2. その他のオプション 
3. 新しい **RemoteApp** を選択してください。

注記

- RemoteApp を追加する際は、ホストをオンにし、公開したいアプリケーションがすでにインストールされている必要があります。
- ホストプールに複数のリモートアプリグループがある場合、特定のリモートアプリグループを選択する必要があります。異なるアプリを異なるアプリグループに公開することで、管理者はグループメンバーシップを通じてこれらのアプリへのアクセスを制御できます。これにより、同じホストプールからユーザーグループごとに異なるアプリを利用できるようになります。

4. **アプリグループ**を選択ダイアログボックスで、次の情報を入力してください：

- ドロップダウンリストからアプリグループを選択してください。
 - (OK) を選択します。
5. アプリを公開ダイアログボックスで、次の情報を入力してください：
- アプリケーションソースドロップダウンリストから ホストにインストール済み を選択します。

 注記 注記

注:次のアプリケーションソースタイプのいずれかを選択できます：ホストにインストール済み：アプリはセッションホスト VM にローカルにインストールされています。アプリアタッチパッケージ：MSIX アプリアタッチパッケージ。ファイルパス：ターゲットアプリケーションへの特定のファイルパスを選択できます。これは、ターゲットアプリケーションが Windows インストーラーに自分自身を登録しない場合や、ポータブルアプリケーションが必要なシナリオで役立ちます。

- アプリケーションドロップダウンリストからアプリを選択します。
- 名前 RemoteApp の名前を入力します。

 注記

名前 は、表示名 によって上書きされない限り、ユーザーに表示されます。

- フレンドリ名:オプションで、ユーザーに表示される表示名を入力します。
- 説明管理者に表示される説明を入力します。
- ファイルパスセッションホスト上のアプリ実行可能ファイルへのパスを入力します。
- アイコンパス任意で、ユーザーのリモートデスクトップフィールドに表示されるこの RemoteApp に使用するアイコンファイルへのパスを入力してください。
- アイコンインデックス任意で、アイコンファイル内の数値アイコンインデックスを入力してください。

- コマンドライン設定。このオプションを選択すると、コマンドライン設定が必要になります。
- コマンドライン RemoteApp の起動時に実行ファイルに渡すコマンドライン。

6. 必要な情報を入力したら、**OK** を選択します。

承認されたホストプールユーザーは、今後新たに公開された RemoteApp を含む RemoteApp グループに割り当てられる必要があります。

注記

- ホストプールユーザーは、そのホストプールの RemoteApp グループに自動的に割り当てられません。各ユーザーは、適切なアプリグループに個別に割り当てする必要があります。
- 操作メニューから、公開されたアプリを編集するまたは削除することができます。

App Attach パッケージからリモートアプリをユーザーに公開します

Nerdio Manager

1. 作業したいホストプールを選択します。これは、**RemoteApp (プール)**デスクトップエクスペリエンスのために構成されたホストプールです。
2. その他のオプション 
3. **新しい RemoteApp** を選択してください。
4. **アプリグループを選択**ダイアログボックスで、次の情報を入力してください：
 - ドロップダウンリストからアプリグループを選択してください。
 - **(OK)** を選択します。
5. **アプリを公開**ダイアログボックスで、次の情報を入力してください：
 - アプリケーションソースドロップダウンリストから **App Attach Package** を選択します。
 - App Attach パッケージドロップダウンリストから App Attach パッケージを選択します。
 - **MSIX アプリケーション**: ドロップダウンリストから MSIX アプリケーションを選択します。

- フレンドリ名:オプションで、ユーザーに表示される表示名を入力します。
- 説明管理者に表示される説明を入力します。
- アイコンパス任意で、ユーザーのリモートデスクトップフィードに表示されるこの RemoteApp に使用するアイコンファイルへのパスを入力してください。
- アイコンインデックス任意で、アイコンファイル内の数値アイコンインデックスを入力してください。

6. 必要な情報を入力したら、**OK** を選択します。

ファイルパスからリモートアプリをユーザーに公開します

Nerdio Manager

1. 作業したいホストプールを選択します。これは、**RemoteApp (プール)**デスクトップエクスペリエンスのために構成されたホストプールです。
2. その他のオプション :
3. **新しい RemoteApp** を選択してください。
4. **アプリグループを選択**ダイアログボックスで、次の情報を入力してください :
 - ドロップダウンリストからアプリグループを選択してください。
 - **(OK)** を選択します。
5. **アプリを公開**ダイアログボックスで、次の情報を入力してください :
 - フレンドリ名:オプションで、ユーザーに表示される表示名を入力します。
 - 説明管理者に表示される説明を入力します。
 - ファイルパスセッションホスト上のアプリ実行可能ファイルへのパスを入力してください。
 - アイコンパス任意で、ユーザーのリモートデスクトップフィードに表示されるこの RemoteApp に使用するアイコンファイルへのパスを入力してください。
 - アイコンインデックス任意で、アイコンファイル内の数値アイコンインデックスを入力してください。
 - コマンドライン設定。このオプションを選択すると、コマンドライン設定が必要になります。
 - コマンドライン RemoteApp の起動時に実行ファイルに渡すコマンドライン。
6. 必要な情報を入力したら、**OK** を選択します。

関連トピック

[リモートアプリケーションメンテナンスモード](#)

ステップ 4:ストレージ

ホストプールが実行されたら、次のステップはユーザーデータとプロファイル用のストレージを設定することです。Nerdio Manager は、Azure Files と Azure NetApp Files の両方で動作します。これらは、専用のファイルサーバー VM の代わりとして一般的に使用される Azure ネイティブサービスであり、多くの場合、FSLogix などのプロファイル管理ソリューションと組み合わせて使用されます。

Nerdio Manager を既存の Azure Files または Azure NetApp Files 共有にリンクすることも、Nerdio Manager に新しい共有を作成して設定することもできます (権限やドメイン参加を含みます)。Nerdio Manager は両方のストレージタイプに自動スケールを追加するため、事前に過剰にプロビジョニングするのではなく、実際に使用している容量に対してのみ料金を支払うことになります。

このセクションでは:

1. Azure Files のファイル共有を、Active Directory ドメインに参加させるために必要な権限
2. 構成された Azure Files 共有を作成および管理する
3. [Azure Files ストレージ Premium 用自動スケール \(153\)](#)
4. [Azure Files ファイル共有の自動スケール履歴 \(156\)](#)
5. [設定済みの Azure NetApp Files を作成および管理する \(158\)](#)
6. [Azure NetApp Files の Auto-scale \(160\)](#)
7. [Azure NetApp 共有の自動スケール履歴 \(164\)](#)

Azure Files のファイル共有を、Active Directory ドメインに参加させるために必要な権限

この記事では、Azure Files ファイル共有を Active Directory ドメインに参加させるために使用される非管理者の委任されたドメインユーザーサービスアカウントに必要な権限について説明します。これらの権限が正しくない場合、ドメイン参加の際にエラーが発生します。エラーには、「アクセスが拒否されました」や「クライアントによって保持されていない必須の特権」といったものが含まれる場合があります。

これは Entra Domain Services 環境には適用されません。Entra Domain Services 環境では、機能を有効にするだけで、特別なサービスアカウントとしてドメインに参加する必要はありません。Nerdio Manager

 注記

注:展開を容易にするために、ドメイン管理者を使用するか、一時的に委任されたサービスアカウントをドメイン管理者権限に昇格させることができます。

ドメイン管理者アカウントは、Azure Files ファイル共有をドメインに参加させるのに十分です。ただし、サービスアカウントを使用し、そのアカウントに特定の権限を委任している場合、AVD セッションホストに使用される「コンピュータアカウントの追加/削除」委任権限では、Azure Files ファイル共有を追加するには不十分です。

 注記

- Azure Files のドメイン参加 プロセスは、ドメイン ユーザーのコンテキストで実行する必要があります。Nerdio Manager は、提供されたドメイン管理者資格情報、または以下の詳細な手順に従って十分な権限が委任されたユーザー資格情報を使用して、このプロセスを完了します。ドメイン管理者の資格情報を使用していない場合、またはドメイン管理者ユーザーが Nerdio Manager 管理者権限を受け取らない場合、**の自動化はドメイン参加を完了できない可能性があります。**
- Nerdio Manager
- ドメイン管理者 (または委任された) 権限は、Azure Files ドメイン参加モジュールの要件です。ローカル管理者権限は、Nerdio Manager

Azure Files は、委任されたサービスプリンシパルユーザーオブジェクトとしてドメインに参加します。Azure Files ストレージアカウントをドメインに参加させるためには、提供されたサービスアカウントに、新しいユーザーオブジェクトの作成および書き込みを許可するターゲット組織単位 (OU) の権限が必要です。さらに、サービスアカウントには、Azure Files のサインインアカウントを委任されたサービスとして設定するための権限も必要です。デフォルトでは、この特権は AD ドメイン管理者ユーザーのみに提供されます。

ユーザーオブジェクトを作成するための権限を委任する

以下の手順では、Active Directory Users & Computers (ADUC または dsa.msc) を使用して、ユーザーオブジェクトを作成および書き込むための権限を委任する方法を説明します。

ユーザーオブジェクトを作成するための権限を委任するには：

1. Azure Files を参加させる OU を見つけます。
2. OU を右クリックし、**Delegate Control** を選択します。
3. Azure Files をドメインに参加させるために使用するサービスユーザーアカウントを追加します。
4. **ユーザーアカウントの作成、削除、および管理の権限**を委任します。
5. 変更を適用するには、完了を選択します。

委任ユーザー作成の権限を委任する

以下の手順では、Azure Files をドメインに参加させるために使用されるサービスユーザーアカウントが、新しいオブジェクトを Azure Files の委任されたサービスとしてマークできるようにする方法を説明します。これには、グループ ポリシー管理 (gpmmc.msc) で既定のドメイン コントローラー グループ ポリシー オブジェクトを変更する必要があります。

委任されたユーザー作成の権限を削除するには：

1. 既定のドメイン コントローラーのポリシーを右クリックし、**編集する**を選択します。
2. **コンピュータの構成 > ポリシー > Windows 設定 > セキュリティ設定 > ローカルポリシー > ユーザー権利の割り当て**に移動します。
3. **コンピュータおよびユーザーアカウントを委任のために信頼できるようにする**ポリシーを見つけてください。
4. Azure Files をドメインに参加させるために使用されるサービスユーザーアカウント名をポリシーに追加します。
5. エディターを閉じます。
6. すべてのドメインコントローラーで **gpupdate /force** を実行します。

注記

注意: ポリシーの変更は、gpupdate が完了した後に適用されるまでに数分かかる場合があります。

Nerdio Manager

Nerdio Manager

構成された Azure Files 共有を作成および管理する

Azure Files ページには、構成されたおよびリンクされたすべての Azure Files 共有のリストが含まれています。Azure Files 共有に対して、作成、リンク、管理など、さまざまな操作を実行できます。これには、自動スケール、リンク解除、権限の設定および変更、ファイルハンドルの閉鎖、Azure Files UNC パスのコピーなどのオプションが含まれます。

既存の Azure Files ファイル共有にリンクする

Nerdio Manager

既存の Azure Files ファイル共有にリンクするには：

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure Files** に移動します。
2. 「**Link Azure Files**」を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - ストレージアカウントドロップダウンリストからストレージアカウントを選択します。
 - ファイル共有ドロップダウンリストからファイル共有を選択します。
4. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

数秒後、Azure Files 共有が Nerdio Manager

新しい Azure Files 共有および/またはストレージアカウントを作成する

Nerdio Manager

ネットワーク要件

Azure Files 共有への適切な接続を確保するために、次のポートが開いていることを確認してください。

追加のポートは、Azure Government 環境に適用される場合があります。

ポート	プロトコル	目的
53	TCP/UDP	Active Directory の DNS 名解決
88	TCP/UDP	Kerberos 認証 (AD DS 統合用)
135	TCP RPC	エンドポイント マッパー (AD DS 統合用)
389	TCP/UDP	ドメインコントローラー通信のための LDAP (AD DS 統合用)
443	TCP HTTPS	REST API アクセス、Azure File 同期、SMB over QUIC
445	TCP	SMB ファイルアクセス
636	TCP	セキュア LDAP (LDAPS)
2049	TCP	NFS プロトコルアクセス
3268	TCP	グローバルカタログ (LDAP)
3269	TCP	セキュアグローバルカタログ (LDAPS)
1 - 128	TCP	RPC ダイナミックポート (AD DS 統合用)

新しい Azure Files ファイル共有および/またはストレージアカウントを作成するには:

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure Files** に移動します。
2. **Azure Files** の追加を選択します。
3. 次の情報を入力してください:
 - ストレージアカウントドロップダウンリストからストレージアカウントを選択します。
 - ストレージアカウントの説明ストレージアカウントの説明
 - パフォーマンスパフォーマンス: ドロップダウンリストからファイル共有のパフォーマンスレベルを選択してください。

注記

注意: プレミアムストレージアカウントはソリッドステートドライブによってサポートされ、一貫した低遅延のパフォーマンスを提供します。これらは Azure 仮想マシンディスクでのみ使用でき、データベースなどの I/O 集中型アプリケーションに最適です。さらに、すべてのディスクにプレミアムストレージを使用する仮想マシンは、可用性セット外で実行されている場合でも 99.9% の SLA の対象となります。この設定は、ストレージアカウントの作成後には変更できません。

•

 ヒント

ヒント: 最適なユーザーエクスペリエンスを得るために、Premium を選択することを強くお勧めします。

- レプリケーションドロップダウンリストからストレージレプリケーションのタイプを選択します。

 注記

注意: 詳細については [Azure Storage 冗長性](#) を参照してください。

- ファイル共有名共有の名前を入力します。
- ファイル共有の説明共有の説明を入力します。
- プロビジョニング容量 (GiB)プロビジョニングされた容量のサイズを入力します。

4. ストレージアカウント構成 セクションに次の情報を入力してください:

- 共有レベルの権限:ストレージアカウントのデフォルトの共有レベルのアクセス許可を設定するには、このオプションを選択します。

 注記

- SMB Share Contributor 権限を使用すると、認証されたすべてのユーザーに共有への読み取り / 書き込みアクセスを許可できます。
- SMB Share Reader** を使用すると、認証されたすべてのユーザーに共有への読み取り専用アクセスを許可できます (例: MSIX App Attach)。

詳しくは、[認証されたすべてのアイデンティティの共有レベルのアクセス許可](#)を参照してください。

- AD または Entra ID に参加:**このオプションを選択し、ドロップダウンリストから Entra ID または AD プロファイルを選択して、共有に直接参加します。
- コンピューター参加済みファイル共有を作成**このオプションを選択して、ユーザーオブジェクトまたはコンピューターオブジェクトを Active Directory に作成することで、Azure Files ストレージアカウントを AD に参加させます。

 注記

ドメイン参加プロセスでは、ユーザーオブジェクトの使用をお勧めします。このアカウントを無効化または削除したり、パスワードをリセットしたりするポリシーが有効になっていないことを確認してください。コンピューターオブジェクトを選択する場合は、このアカウントが自動クリーンアッププロセスから除外されていることを確認してください。すべてのファイル共有は AES256 暗号化を有効にした状態で作成されます。

- **SMB マルチチャネルを有効にする** :選択して有効にします。

 注記

Azure Files SMB マルチチャネルでは、クライアントが複数のネットワーク接続を利用でき、パフォーマンス向上を可能にします。複数の NIC による帯域幅の集約と、NIC の Receive Side Scaling (RSS) サポートを利用して I/O 負荷を複数の CPU に分散することで、パフォーマンスが向上します。

5. **ファイル共有設定** セクションに次の情報を入力します:

- アクセス許可 (SMB Share Contributor)共有に対して Storage File Data SMB Share 共同作成者ロールを持つユーザーやグループを指定します。
- ホストプールからユーザー/グループを追加するドロップダウンリストから、これらのホストプールに現在割り当てられているユーザー/グループを選択し、共有に対する Storage File Data SMB Share 共同作成者ロールを付与します。

•

 注記

注意: Azure Files 共有を FSLogix プロファイルおよび MSIX App Attach イメージのストレージ場所として使用するには、ストレージアカウントを Active Directory、Entra Domain Services、または Entra ID と統合する必要があります。ストレージアカウントを AD または Entra ID に参加させないことを選択した場合でも、後で参加させることができます。ストレージアカウントを AD に参加させると、一時 VM が作成され、AD プロファイルの資格情報を使用して、選択した AD にストレージアカウントがコンピューターオブジェクトとして追加されます。ストレージアカウントを Entra Domain Services と統合すると、Azure で適切なフラグが設定されます。ドメイン参加済みの一時 VM を作成し、AES-256 暗号化を有効にするには、Entra Domain Services 管理者プロファイルの資格情報が必要です。ストレージアカウントを Entra ID に参加させると、必要なアプリ登録が作成され、必要な承諾を付与するオプションが表示されます。

- **NTFS ファイルレベルのアクセス許可を割り当てる:**新しく作成したファイル共有に Nerdio Manager が NTFS ファイルレベルのアクセス許可を割り当てるには、このオプションを選択します。

 注記

- これは、上記で選択した Azure RBAC ロールの割り当てに加えて行われます。
- このオプションでは、アクセス許可の割り当てタスクを実行するための一時 VM が自動的に作成されます。
- 新しい Azure Files 共有で使用する既定のファイル アクセス許可に関する情報については、Microsoft の [記事](#)をご覧ください。

- **App Attach** **App Attach:** 共有内のサブディレクトリに認証されたユーザーに読み取り権限を付与するには、このオプションを選択します。App Attach アプリケーションを含む共有に推奨されます。
- **FSLogix** このオプションを有効にして、共有内のルートディレクトリに認証ユーザー変更アクセス許可を付与し、FSLogix プロファイルフォルダの作成を可能にします。

 注記

FSLogix プロファイルを含む共有に推奨されます。

6. 詳細設定を表示 Azure Files を Active Directory に参加させるために、Nerdio Manager は一時 VM を作成して操作を実行します。この一時 VM に使用する設定を選択します。

 ヒント

Nerdio Manager 一時 VM を作成する際には、に既定の設定を使用することを強くお勧めします。つまり、詳細設定を使用しないことをお勧めします。

7. タグを適用する : タグを適用 : 任意で、Azure Files 共有に適用する Azure タグの名前と値を入力します。
8. OK を選択して設定を保存します。

 注記

注: 複数のタグを指定できます。Azure リソースの整理にタグを使用する方法の詳細については、Microsoft の[記事](#)を参照してください。

構成された Azure Files ファイル共有を管理する

Nerdio Manager

構成された Azure Files ファイル共有を管理するには :

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure Files** に移動します。
2. 管理したい Azure Files ファイル共有を見つけてください。
3. アクションメニューでは、次の機能を実行できます :
 - ストレージアカウントの管理 Entra ID ホストサポートを有効にできます。詳細については、[Entra ID 参加ホストサポートを有効にする \(151\)](#)を参照してください。
 - Auto-scale **自動スケール** : 詳細については、[Azure Files Storage Premium の自動スケール \(153\)](#)を参照してください。

- ファイルハンドルファイルのロックを解除する/オープンファイルハンドルを閉じる。
 - FSLogix プロファイルを強制収集これにより、リンクされているすべてのファイル共有で FSLogix データの収集が強制されます。
 - UNC パスをコピーしてください。UNC パスをクリップボードにコピーします。
 - リンク解除 Nerdio Manager から Azure Files ファイル共有を削除します。
 - **FSLogix プロファイルを削除する**: 選択した FSLogix プロファイルを削除します。
 - FSLogix プロファイルを復元する以前に削除された、選択した FSLogix プロファイルを復元します。
4. アクションメニューから、**管理**を選択して、Azure Files ファイル共有のパラメータと権限を変更します。

FSLogix データを一括収集するには：

Nerdio Manager

1. **クラウドデスクトップ > ストレージ > Azure Files** に移動します。
2. FSLogix データを収集したいファイル共有を選択してください。
3. **一括アクションメニューから、選択したファイル共有 (x) の FSLogix プロファイルを強制的に収集する**を選択します。

注記

注意：(x)は、一括アクションが適用される Azure Files 共有の数を示します。この例では、4 つの Azure Files 共有が選択されています。

Entra ID 参加ホストのサポートを有効にします。

Entra ID に参加しているホストは、アプリ配信の選択肢が広がる App Attach アプリを利用できるようになりました。

前提条件

- App Attach についてご存知である必要があります。詳細は、[App Attach と MSIX App Attach in Azure Virtual Desktop](#) をご覧ください。

役立つ情報

App Attach は、以下のアイデンティティプロバイダーをサポートしています：

- Microsoft Entra ID
- Active Directory Domain Services (AD DS)

既定のファイル共有 NTFS 権限：

- BUILTIN\Administrators:(OI)(CI)(F)
- BUILTIN\Users:(RX)
- BUILTIN\Users:(OI)(CI)(IO)(GR,GE)
- NT AUTHORITY\Authenticated Users:(OI)(CI)(M)
- NT AUTHORITY\SYSTEM:(OI)(CI)(F)
- NT AUTHORITY\SYSTEM:(F)
- CREATOR OWNER:(OI)(CI)(IO)(F)

App Attach のファイル共有 NTFS 権限：

- BUILTIN\Users:(RX)
- BUILTIN\Users:(OI)(CI)(IO)(GR,GE)
- NT AUTHORITY\Authenticated Users:(OI)(CI)(M)
- CREATOR OWNER:(OI)(CI)(IO)(F)

使用領域

App Attach を使用するホストは Microsoft Entra ID に参加しています。

そのようなホストで App Attach を利用するための唯一の必須条件は、App Attach イメージを格納するストレージアカウントが同じサブスクリプション内にあり、**Reader および Data Access** ロールが **Azure Virtual Desktop** および **Windows Virtual Desktop ARM Provider** のメンバーに割り当てられていることです。ストレージアカウントは、任意のアイデンティティプロバイダー (Microsoft Entra ID、AD DS) と統合することも、まったく統合しないこともできます。

App Attach を使用するホストは AD DS に参加しています。

必須条件：

- App Attach イメージを格納するストレージアカウントは、AD DS に参加しています。

- App Attach NTFS 権限はファイル共有に設定されています。
- 共有レベルの権限が設定されています。

共有レベルの権限設定のバリエーション：

- **すべての認証されたアイデンティティに対する読み取り専用アクセス:**既定の共有レベル権限で、ストレージアカウント上のすべての認証されたアイデンティティに、少なくとも **Storage File Data SMB Share Reader** 役割が割り当てられています。
- **ドメインコンピュータに対する読み取り専用アクセス：**
 1. Active Directory で、ADConnect を使用して Entra ID に同期されている組織単位 (OU) に新しいグローバルセキュリティグループを作成します。
 2. ドメインコンピュータを新しいグループに追加します。
 3. Azure ポータルのアクセス制御を通じて、少なくとも **Storage File Data SMB Share Reader** ロールを持つ新しく作成されたセキュリティグループをファイル共有に追加します。
- いくつかのカスタム設定。

関連トピック

- [設定済みの Azure NetApp Files を作成および管理する \(158\)](#)

Azure Files Premium 向け Auto-scale

Premium ファイル共有は、使用容量に関係なく、プロビジョニングされたサイズによって課金されます。ファイル共有サイズは 100 GiB から 102,400 GiB までの範囲です。I/O およびネットワーク帯域幅の制限は、プロビジョニングされたファイル共有サイズに応じてスケールされます。

有効にすると、ストレージの Auto-scale は、予想される需要やストレージの遅延が増加した場合に、プロビジョニングされたファイル共有サイズを拡大します。また、追加の性能がもはや必要ない場合にコストを削減するため、プロビジョニングされた容量を減少させます (24 時間に 1 回まで)。

Azure Files を使用したストレージの Auto-scale は、ボリュームまたは容量プールのスペースが不足するのを避けるために、指定された余裕容量を維持するために使用できます。

 注記

注意: Auto-scale は、Azure Files の Standard ストレージでは利用できません。なぜなら、容量コストと性能の両方がファイル共有サイズによって制御されないからです。

これらの Auto-scale パラメータを構成する必要があります：

- プロビジョニングサイズ (割り当て制限)
- スケジュールされたデータの増加 (オプション)
- スケーリングロジック

Azure Files Premium の Auto-scale を構成および管理するには：

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure Files** に移動します。
2. 管理したいファイル共有を特定します。
3. アクションメニューから、(自動スケール) > (設定) を選択します。
4. **Auto-scale** オプションを **On** に切り替えます。
5. **プロビジョニングサイズ (割り当て制限)** の設定を入力します。
 - **クォータ単位サイズ単位:** ドロップダウンリストから単位を選択します (相対% または絶対 GiB)。相対は現在使用されている容量のパーセンテージです。
 - **最小サイズ最小値**を GiB または%で入力してください。

 注記

最小値は 100 GiB であり、使用中の容量より小さくすることはできません。さらに、これはシステムがユーザーの容量が増加するにつれて常に維持する最小バッファを定義します。これにより、ファイル共有内の最低限の空き容量が保証されます。

- **最大サイズ最大値**を GiB または%で入力してください。
 - **未満:**以下: ファイル共有のサイズを増加させるべきサイズを入力してください。これは、制御されないシステムの成長を防ぐために、ファイル共有の総サイズを下回る必要があります。

パフォーマンスは、最小値および最大値の構成の値を表示し、パフォーマンス特性を示します。

6. オプションで、スケジュールされたクォータ増加「オン」に切り替え、設定を入力してください。

 注記

注意: これらは、スケジュールされたクォータを増加させるために使用するパラメータです。この期間中にクォータが増加し、これらの期間の間に減少します。ピーク時のパフォーマンスが求められる日がある場合に役立ちます。

- 日日: ドロップダウンリストから日数の範囲を選択してください。
 - 時間ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択してください。
 - プロビジョニングサイズ (クォータ) を次に設定: 現在の使用容量を超えて増加させるクォータをコミットする値を入力してください。
7. スケーリングロジックの設定を入力してください。

 注記

プロビジョニングサイズ (クォータ) は、最後にクォータを増やしてから 24 時間後にのみ縮小できます。クォータは期間の開始時に増加し、この期間の終了時にのみ最小値に減少します。

- Auto-scale トリガーを選択ドロップダウンリストからトリガーを選択してください。

 注記

自動スケールロジックの構成により、スケーリングエンジンが共有を拡大または縮小するタイミングを決定できます。これは、API を介して Azure ファイル共有によって提供される 2 つの利用可能なメトリックに基づいています。IOPs が処理されるまでの時間を説明します。これは、平均成功サーバー遅延 (既定) または最大成功サーバー遅延のいずれかです。

- クォータを増加させる (スケールアウト): プロビジョニングされたサイズ (クォータ) セクションで指定されたクォータ単位の値に従って、クォータが増加するサイズを入力してください。

 注記

注意: しきい値を超えると、システムは指定された最大サイズに達するか、サーバー遅延がしきい値を下回るまでスケールアウトを続けます。

- **クォータを減少させる (スケールイン):**サーバー レイテンシが指定されたしきい値を下回った場合に、クォータが減少するサイズを入力してください。

8. すべての必要な情報を入力したら、(保存) または (保存して閉じる) を選択します。

設定されたファイル共有は、**Azure Files** の共有リストに表示されます。

関連トピック

[Azure NetApp Files の Auto-scale \(160\)](#)

Azure Files 共有の自動スケール履歴

自動スケール履歴の視覚化は、自動スケールの振る舞いと、それが展開に与える影響を理解するのに役立ちます。

以下は重要な自動スケール履歴の機能です。

- **時間範囲時間範囲:** ウィンドウの上部で、表示する時間範囲を選択します。
- **表示表示:** ウィンドウの上部で、表示するグラフを選択します。
- **節約節約:** ウィンドウの上部で、自動スケールによる節約を確認できます。
- **拡大:ズームイン:** クォータ (GiB) グラフのみ、ズームインしたいグラフの部分をクリックしてドラッグします。ズームインしているときは、**ズームアウト**を選択して、全体のグラフを復元します。
- **ホバー:ホバー:** どのグラフの部分にでもホバーすると、その詳細が表示されます。
例えば :

Dec 15, 2021 12:04 AM

Actual quota: **100 GiB**

Used Capacity: **57.26 GiB**

Operation: **Scale-out** up to 110 GiB

Working hours: **No**

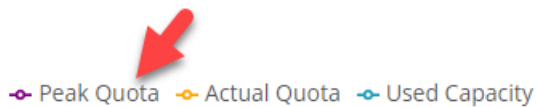
Reason:

Success Server Latency (**124.08 ms**) was higher than **20.00 ms** for **5 min**

Transactions count (**101**) was higher than threshold of 100 for **5 min**

- **アクションポイント:**

-  スケールアウト: 
-  スケールイン: 
-  **Azure の問題:**これは、Azure との通信に問題があったことを示します。これが頻繁に発生する場合は、
- 任意のグラフ下部でデータセット名を選択し、その情報に関連する表示ラインをオンまたはオフに切り替えます。例えば、ピーククォータを選択すると、そのラインがグラフ上で非表示になります。再度選択すると、表示されます。



Azure Files 共有の自動スケール履歴を表示するには:

1. **Cloud Desktops > Storage > Azure Files** に移動します。
2. 作業したいファイル共有を見つけます。
3. アクションメニューから、**(自動スケール) > (履歴)** を選択します。
4. 表示する時間範囲と特定のグラフを選択します。
 - **クォータ (GiB):**クォータ (GiB): クォータ グラフは、ファイル共有クォータに関する以下の情報を表示します:
 - **ピーク クォータ:**クォータの最大値。
 - **実際のクォータ:**現在設定されている実際のクォータサイズ。
 - **使用容量:**使用されている実際のストレージ。
 - **レイテンシ (ms):**レイテンシ グラフは、以下の情報を表示します:
 - **サーバー レイテンシ (平均):**Azure Storage が成功したリクエストを処理するのにかかる平均時間。この値には、エンドツーエンド レイテンシに指定されたネットワーク レイテンシは含まれません。
 - **エンドツーエンド レイテンシ (平均):**ストレージ サービスまたは指定された API 操作に対して行われた成功したリクエストの平均エンドツーエンド レイテンシ。この値には、リクエストを読み取り、応答を送信し、応答の確認を受け取るために Azure Storage 内で必要な処理時間が含まれます。
 - **トランザクション:**トランザクション グラフは、トランザクションの数を表示します。
 - **節約節約%:** 節約グラフは、節約の割合を表示します。

関連トピック

[Azure NetApp 共有の自動スケール履歴 \(164\)](#)

構成済みの Azure NetApp Files を作成および管理する

注記

この機能は、Nerdio Manager Premium エディションでのみ利用可能です。

Azure NetApp Files ページには、すべての構成済みおよびリンクされた Azure NetApp Files ファイル共有のリストが含まれています。ファイル共有に対して、作成や管理などのさまざまな操作を実行できます。

Azure サブスクリプションとリソース グループを Nerdio Manager

次の手順に進む前に、Azure NetApp Files が存在する Azure サブスクリプションとリソース グループを Nerdio Manager

Azure サブスクリプションをリソース グループにリンクするには、

1. システム > 設定 > **Azure** に移動します。
2. **Azure サブスクリプション** を展開します。
3. Azure サブスクリプションをリンクするには、現在ログインしているユーザーを使用してリンク または アプリの資格情報を使用してリンク のいずれかを選択します。
4. リンクされたリソース グループ を展開します。
5. リンク を選択して、リソース グループをリンクします。

既存の Azure NetApp Files ファイル共有にリンクする

既存の Azure NetApp Files ファイル共有にリンクできます。

既存の Azure NetApp Files ファイル共有にリンクするには：

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure NetApp Files** に移動します。
2. **ANF ボリュームをリンク** を選択します。
3. ドロップダウンリストから **NetApp Files アカウント** を選択します。
4. **(OK)** を選択します。

しばらくすると、Azure NetApp Files ファイル共有が Nerdio Manager

Azure Files および/またはストレージ アカウントを作成する

Azure Files および/またはストレージ アカウントを作成できます。

Azure Files および/またはストレージ アカウントを作成します。

注記

注意: 続行する前に、ANF が Azure リージョンで利用可能であり、Azure サブスクリプションがこのサービスのホワイトリストに登録されていることを確認してください。

1. クラウドデスクトップ > ストレージ > **Azure NetApp Files** に移動します。
2. **ANF ボリュームを追加**を選択します。
3. 次の情報を入力してください：
 - Active Directory ドロップダウンリストから **Active Directory** を選択します。
 - リソースグループ: ドロップダウンリストから **リソースグループ**を選択してください。
 - ネットワークドロップダウンリストから **ネットワーク**を選択します。
 - サブネット ドロップダウンリストから **サイズ**を選択してください。
 - **AD 対応 DNS サーバー**:AD 対応 DNS サーバーのアドレスを入力します。
4. すべての希望する情報を入力したら、**(OK)** を選択します。
5. 次の情報を入力してください：
 - **ANF アカウントのリソースグループ**:ドロップダウンリストから、Azure NetApp Files アカウントオブジェクトを含むリソースグループを選択します。
 - **アカウント名**:**アカウント名**: ANF アカウント名を入力するか、空白のままにして自動生成されるようにします。
 - **SMB サーバプレフィックス**:**SMB サーバ プレフィックス**: AD ドメインに参加し、UNC パスに使用されるコンピューターオブジェクトのプレフィックスを入力します。例: `\\SMB-PREFIX-random\volume\share\folder`。
 - **ボリューム名**:**ボリューム名**: 上記で指定した SMB サーバに作成するボリューム名を入力します。

 注記

注意: 同じ ANF アカウントに複数のボリュームを作成できます。

- **容量 (TiB):** キャパシティを TiB 単位で入力します。

 注記

注意: ANF キャパシティプールの最小容量は 4 TiB です。

- **パフォーマンス階層:** ドロップダウンリストから新しい容量プールとボリュームのパフォーマンスレベルを選択します。

 注記

注意: パフォーマンスレベルは、価格とスループット (IOPS) が異なります。詳細については、以下の Microsoft [ドキュメント](#)を参照してください。

6. すべての希望する情報を入力したら、(OK) を選択します。

関連トピック

構成済み [Azure Files ファイル共有の作成と管理 \(145\)](#)

Azure NetApp Files の自動スケール

 注記

この機能は、Nerdio Manager Premium **エディション**でのみ利用可能です。

Azure Storage の NetApp Files には、複数のキャパシティプールを持つことができる ANF アカウントがあります。キャパシティプールは、パフォーマンスを決定するサービスレベル (標準、プレミアム、ウルトラ) で作成されます。各キャパシティプール内には、合計でこのキャパシティプールのサイズを超えない 1 つ以上のボリュームを

持つことができます。ANF ストレージのコストは、キャパシティプールのサイズによって決定され、最小値は 4 TiB です。キャパシティプールは 1 TiB 単位で増減できますが、そのキャパシティプール内に含まれるボリュームの合計サイズより小さくすることはできません。

ANF ストレージシステムのスループット制限は、ボリュームに割り当てられたクォータと選択されたサービスレベルの組み合わせによって決まります。

ANF を使用したストレージの自動スケールは、ストレージシステムへの需要が高い際、特定のボリュームのパフォーマンスを引き上げ、需要が低下したときにスケジュール通り元に戻すために必要です。例えば、Azure VD マシンからのサインイン/サインアウトの嵐の際です。また、昼間にストレージシステムでのアクティビティが多く、そのボリュームのレイテンシが高いと検出された場合にも必要になることがあります。

ANF によるストレージの自動スケールは、ボリュームまたはキャパシティプールの空き容量が不足しないように、指定されたヘッドルームを維持するためにも使用できます。

Azure NetApp Files の自動スケールを構成および管理するには：

1. **Cloud Desktops > Storage > Azure NetApp Files** に移動します。
2. 管理したい ANF を特定します。
3. アクションメニューから、**(自動スケール) > (設定)** を選択します。
4. **自動スケール オプションを オン** に切り替えます。
5. **プロビジョニング済みサイズ**の設定を入力します。

注記

注意: ボリュームの空き容量が最小値を下回ると、システムはボリュームを拡張しようとします。現在のキャパシティプール内でボリュームを拡張できない場合、キャパシティプールは常に 1 TiB 拡張され、ボリュームは少なくとも 1 TiB 拡張されます。

ボリュームは、設定された最大サイズを超えて拡張できません。

- モードドロップダウンリストからディスクを選択してください。
- **ボリュームのみ**: それを含む容量プールはスケールされず、ボリュームのみが自動スケールされます。ボリュームはキャパシティプール内の利用可能な空きスペースに制限されており、キャパシティプールは自動的に増加しません。

- **ボリュームとキャパシティブールの場合**：ボリュームとそれを含む容量プールを自動スケールします（既定）。
- **ボリュームのみの場合**：
 - **サイズ単位****サイズ単位**：ドロップダウンリストから単位を選択します（相対%または絶対 GiB）。相対は現在使用されている容量のパーセンテージです。
 - **最小サイズスケールダウン**する際に、ボリュームで維持する最小サイズを入力します。これは、現在使用されている容量 + ヘッドルーム量として評価されます。

注記

注意: 利用可能なスペースが設定された最小空きスペースを下回ると、ボリュームは最小利用可能スペースを満たすために増加します。キャパシティブールサイズを超え、かつキャパシティブールのスケールリングが有効な場合、ボリュームの増加を補うため、キャパシティブールが追加で 1 TiB 拡張されます(設定された最大総サイズまで)。

- **最大サイズスケールアウト**する際に、ボリュームが増加すべき最大値を入力します。これは、現在使用されている容量 + スケールリング量として評価されます。
 - **未満:未満**: 制御されていないシステムの成長を防ぐために、ボリュームが成長できる最大サイズを定義します。これは、利用可能なキャパシティブールサイズによって制限されます。
- **ボリュームとキャパシティブールの場合**：
 - **ボリュームの最小空き容量**:ボリュームで維持する最小空き容量を入力します。現在の空きスペースがこのしきい値を下回ると、ボリュームはキャパシティブールと共に自動的に拡張されます。
 - **ボリュームの最大合計サイズ**:ボリュームの最大サイズを TiB 単位で入力します。ボリュームとキャパシティブールの組み合わせは、この値より大きく拡張されることはできません。
- **制限を超えるとエラーが発生する**:計算されたサイズが最大値を超えた場合に、自動スケールプロセスがエラーをトリガーするように、このオプションを選択します。

 注記

注意: これにより、通知を使用してこれらのエラーを追跡できます。
詳細については、[メール通知の設定](#)を参照してください。

サイズとパフォーマンス計算機は、最小および最大の構成値を表示し、パフォーマンス特性を示します。

6. オプションで、**スケジュールベースのスケールリング オン**に切り替え、設定を構成します。

 注記

注意: これは、ストレージシステムに需要のピークがある場合に便利です (たとえば、複数のユーザーが同時にサインインおよびサインアウトする場合)。ピークの自動スケールリングの期間を複数指定できます。その後、システムは自動的に最小サイズにスケールダウンします。スケジュールが重複しないようにしてください。

- タイムゾンドロップダウンリストからタイムゾーンを選択してください。
 - 日ドロップダウンリストからディスクを選択してください。
 - 時間時間: ドロップダウンリストから時間の範囲を選択します。
 - **プロビジョニング済みサイズを**に設定: 現在の容量を超えて、ボリュームに追加する容量を入力します。
7. オプションで、**レイテンシベースのスケールリング オン**に切り替え、設定を構成します。
 - Auto-scale トリガーを選択ドロップダウンリストからトリガーを選択してください。

 注記

注意: これは、Azure Storage によって成功したリクエストを処理するのにかかる平均または最大値の時間です。

- ボリュームサイズ (スケールアウト) を拡大するサーバーの遅延が指定されたしきい値を超えた場合、システムは設定した値でボリュームサイズを増加させます。

- ボリュームサイズ (スケールイン) を小さくするサーバーの遅延が指定されたしきい値を下回った場合、システムは設定した値でボリュームサイズを減少させます。

8. すべての必要な情報を入力したら、(保存) または (保存して閉じる) を選択します。

設定されたファイルは、 **Azure NetApp Files** のファイルの一覧に表示されます。

関連トピック

- [Azure Files ストレージ Premium 用自動スケール \(153\)](#)

Azure NetApp Shares の自動スケール履歴

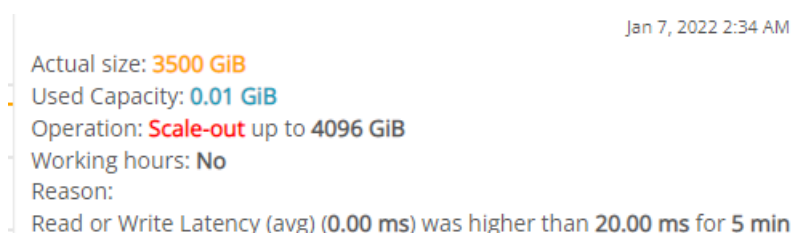
注記

この機能は、Nerdio Manager Premium エディションでのみ利用可能です。

自動スケール履歴の視覚化は、自動スケールの振る舞いと、それが展開に与える影響を理解するのに役立ちます。

以下は重要な自動スケール履歴の機能です。

- **時間範囲** **時間範囲**: ウィンドウの上部で、表示する時間範囲を選択します。
 - **表示** **表示**: ウィンドウの上部で、表示するグラフを選択します。
 - **節約** **節約**: ウィンドウの上部で、自動スケールによる節約を確認できます。
 - **拡大:ズームイン**: **サイズ (GiB)** グラフのみ、ズームインしたいグラフの部分をクリックしてドラッグします。ズームインしているときは、**ズームアウト**を選択して、全体のグラフを復元します。
 - **ホバー**: **ホバー**: どのグラフの部分にでもホバーすると、その詳細が表示されます。
- 例えば :



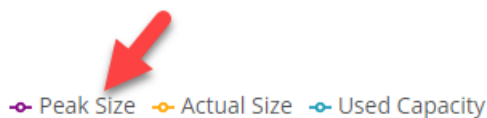
- アクションポイント:

-  スケールアウト: 

-  スケールイン: 

-  **Azure の問題:**これは、Azure との通信に問題があったことを示します。これが頻繁に発生する場合は、

- 任意のグラフ下部でデータセット名を選択し、その情報に関連する表示ラインをオンまたはオフに切り替えます。例えば、ピークサイズを選択すると、グラフ上のそのラインを非表示にできます。再度選択すると、表示されます。



Azure NetApp ファイル共有の自動スケール履歴を表示するには:

1. Cloud Desktops > Storage > Azure NetApp Files に移動します。
2. 作業したいファイル共有を見つけます。
3. アクションメニューから、(自動スケール) > (履歴) を選択します。
4. 表示する時間範囲と特定のグラフを選択します。
 - **サイズ (GiB):** サイズ (GiB): サイズグラフは、ファイル共有のサイズに関する以下の情報を表示します:
 - **ピークサイズ:** ファイル共有の最大サイズ。
 - **実際のサイズ:** ファイル共有の実際のサイズ。
 - **使用容量:** ファイル共有で現在使用されている容量。
 - **レイテンシ (ms):** レイテンシグラフは、以下の情報を表示します。
 - **読み取りレイテンシ (平均):** 平均読み取りレイテンシ。
 - **書き込みレイテンシ (平均):** 平均書き込みレイテンシ。
 - **節約節約%:** 節約グラフは、節約の割合を表示します。

関連トピック

[Azure Files ファイル共有の自動スケール履歴 \(156\)](#)

ステップ 5: FSLogix とユーザープロファイルの管理

ストレージの準備ができたら、次のステップは **FSLogix** を設定することです。これは、ユーザー設定、データ、およびインストールされたアプリケーションをセッションホスト間でユーザーに追従させるプロファイル管理ソリューションです。このセクショ

ンでは、FSLogix の設定、ホストプールごとの構成の調整、およびユーザーが利用できるアプリケーションの管理について説明します。

このセクションでは:

1. FSLogix とユーザープロファイルの管理
2. FSLogix の設定と構成
3. [FSLogix のホストプールごとのカスタマイズ \(172\)](#)
4. ホストプール内のインストール済みアプリを管理する

FSLogix とユーザープロファイルの管理

FSLogix はユーザープロファイルコンテナ技術であり、ユーザーは自分のカスタマイズへのアクセスを失うことなく、仮想デスクトップのセッションホストを切り替えることができます。FSLogix を使用すると、仮想デスクトップで OneDrive とインデックス検索機能を使用できます。このオプションは、従来の RDS ユーザープロファイルディスク (UPD) では使用できませんでした。

FSLogix は AVD と統合されており、オンデマンドで利用できるシームレスなプロファイルストレージソリューションを提供します。AVD for Business と SharePoint の機能レベルは、物理 PC やノート PC などの固定デスクトップと同等です。

FSLogix は AVD 環境でアクティブキャッシュ同期をサポートしているため、ユーザーは接続されているどのホストからでも更新済みファイルを取得できます。

FSLogix はユーザーの資格情報を保持します。セッションを開始するたびに OneDrive にサインインする必要はありません。

AVD デスクトップユーザーの Windows ユーザープロファイルは VHD ファイルにカプセル化され、セッションホスト VM とは別のファイルサーバーに保存されます。ユーザーがプールされた (つまり非永続) デスクトップにアサインされている場合、Windows 検索キャッシュを含むプロファイルは、サインインする仮想デスクトップ VM に関係なくユーザーに追従します。

Nerdio Manager

 注記

- 最も一般的な FSLogix プロファイルストレージソリューションであり、新しい展開やプロファイルに通常推奨されるのは Azure Files Storage です。詳細な構成手順については、「[構成済み Azure Files 共有の作成と管理 \(145\)](#)」を参照してください。
- 環境に適したストレージソリューションが不明な場合は、「[どの FSLogix プロファイル ストレージオプションを選択すべきですか?](#)」を参照してください。

適切なエージェントがイメージにインストールされるようにし、必要に応じて手動で行う方法を説明するとともに、正しい構成プロファイルが適用されるようにします。これにより、セッションホスト VM がホストプールに参加した場合や再イメージ化された場合に、これらがすべて自動的に処理されます。

関連トピック

[FSLogix の設定と構成 \(167\)](#)

FSLogix の設定と構成

FSLogix プロファイルコンテナは、2 つのコンポーネントで構成されます。

- FSLogix アプリケーションのインストール (https://aka.ms/fslogix_download)
- GPO またはレジストリによる FSLogix の構成。詳細については、この [Microsoft の記事](#) を参照してください。

Nerdio Manager

FSLogix プロファイルストレージ構成を作成する

Nerdio Manager

FSLogix プロファイルストレージ構成を追加するには:

1. **Cloud Desktops > Azure Virtual Desktop > プロファイル管理** に移動します。
2. 右下で (新しいプロファイル) を選択し、メニューオプションから (FSLogix) を選択します。

3. (FSLogix プロファイルストレージ) エリアで、(追加) を選択します。
4. 次の情報を入力してください：
 - 名前 プロファイル名を入力します。
 - バージョン: ドロップダウンリストから FSLogix のバージョンを選択します。
 - Cloud Cache を使用する: このオプションを選択して FSLogix Cloud Cache を有効にします。

ヒント

ヒント: パフォーマンス上の理由から、Cloud Cache が有効な場合は Premium SSD とエフェメラル OS ディスクを使用することを強くお勧めします。(非常に小規模な環境やテストシナリオでは、Standard SSD ディスクで十分な場合もあります。)

注記

[注](#): FSLogix Cloud Cache に関する詳細は、以下の Microsoft の記事を参照してください。

Cloud Cache では、複数のプロファイルストレージ場所を指定できます。プロファイルを非同期でレプリケートし、複数のストレージ場所で同時に利用できるようにします。そのため、いずれかの場所が使用できない場合、セッションホストは代替の場所のいずれかに自動的にフェイルオーバーします。

- Entra ID 参加済みストレージ用にセッションホストのレジストリを構成する: このオプションを選択して、Entra ID Kerberos 機能と Entra ID アカウント資格情報の読み込みを有効にします。

注記

詳細については、Microsoft のこちらの[記事](#)を参照してください。

- ローカル管理者アカウントを FSLogix から除外する: このオプションを選択して、FSLogix ストレージ場所でのローカル管理者プロファイルの作成を防ぎます。

- **FSLogix からドメインアカウントを除外する:**このオプションを選択して、FSLogix ストレージ場所でドメインアカウントプロファイルの作成を防ぎ、以下のボックスにドメインの詳細を入力します。

注記

注: セッションホストで FSLogix に問題が発生している場合でも、トラブルシューティングのために除外ユーザーでサインインする方法があります。

- **App Service 設定の管理**このオプションを選択して、FSLogix App Service レジストリ設定を編集します。
- **ログ設定の管理**このオプションを選択して、ログ設定を管理します。
- **FSLogix プロファイルパス (VHDLocation)。**ドロップダウンリストから Azure Files 共有を選択します。または、UNC パスを入力します。

注記

注: 最大 4 つのパスを指定できます。さらに、矢印を使用してパスの順序を変更します。プロファイルは、これらすべての場所に作成されます。

- **FSLogix レジストリオプション:**編集モードのドロップダウンリストから、(すべての設定) または (詳細) のどちらで作業するかを選択します。
 - **(すべての設定) の場合:**
 - (設定) 列で、設定の値を入力します。
 - (クリア) を選択して、特定の設定を (未設定) に設定します。
 - (すべてクリア) を選択して、すべての設定を (未設定) に設定します。
 - **(詳細設定) の場合:**
 - DWORD 値を次の形式で追加できます: "ValueName":dword:ValueData. 例えば: "ProfileType"=dword:00000003.
 - 文字列値を次の形式で追加できます: "ValueName":"ValueData". 例えば: "VolumeType":"vhdx".
- **Microsoft Office ユーザーデータをリダイレクトするように Office Container を構成する:**このオプションをオンに切り替えて、プロファイルのうち Microsoft Office に固有の領域のみをリダイレクトします。

 注記

注: Office Containers は、トラブルシューティングを容易にするために、Microsoft Office データ(例えば、OST ファイル)を全体のユーザープロファイルから分離します。Office Containers と Profile Containers は別々の VHDX ファイルに格納され、異なるファイル共有に配置することもできます。詳細については、この Microsoft の [記事](#) を参照してください。

- FSLogix Office Container パス (VHDLocation): 必要に応じて変更します。
- **FSLogix Office Container レジストリオプション:** 編集モードのドロップダウンリストから、(すべての設定) または (詳細) のどちらで作業するかを選択し、必要に応じて設定を構成します。
- リダイレクトリダイレクト: 顧客間で再利用するためにグローバルプロファイルにリダイレクトを含める場合は、このオプションをオンにします。

 注記

注: リダイレクトに関する詳細情報は、この Microsoft の [記事](#) を参照してください。

- FSLogix アプリがすでにインストールされている場合でも強制的にインストールこのオプションを使用すると、FSLogix エージェントとアプリケーションを強制的に再インストールできます。

5. すべての希望する情報を入力したら、OK を選択します。

FSLogix プロファイルストレージ構成をデフォルトに設定する

Nerdio Manager

FSLogix アプリケーションを自動的にインストールするように

1. (システム) > (設定) > (統合) に移動します。
2. (FSLogix プロファイルストレージ) タイルで、必要に応じてプロファイルを追加、変更、削除します。

 注記

注: ハイブリッドホストプールにリンクされた FSLogix プロファイルでは、次のオプションを必ず選択します。

- **Cloud Cache を使用する:** Cloud Cache を使用する: この FSLogix プロファイルを使用するホストプールと、そのホストプール内のセッションホストで FSLogix Cloud Cache を有効にするには、このオプションを選択します。
- Azure ページ blob を使用: ストレージアカウントの BLOB コンテナーを使用してユーザー プロファイルを格納するには、このオプションを選択します。これらのコンテナーには、ストレージアカウントのアクセスキーでアクセスできます。

3. 希望する FSLogix プロファイルのストレージ構成を見つけて、(デフォルトに設定) を選択します。

 注記

- (FSLogix プロファイルを使用する) オプションを (オフ) に設定しても、新しいホストの作成時または再イメージ化時に FSLogix アプリは自動的にインストールされます。
- 各ホストプールの FSLogix の設定はカスタマイズできます。
- FSLogix はデスクトップイメージにインストールされません。
- FSLogix のレジストリ設定はデスクトップイメージに設定されません。
- セッションホストには、GPO から競合する FSLogix 構成が適用されないようにしてください。

関連トピック

[FSLogix とユーザープロファイル管理 \(166\)](#)

[FSLogix のホストプールごとのカスタマイズ \(172\)](#)

どの FSLogix プロファイル用ストレージオプションを選べばよいですか？

ホストプールごとの FSLogix カスタマイズ

Nerdio Manager

詳細については、「[ホストプール \(63\)](#)」を参照してください。

サーバーを追加すると、FSLogix がインストールされ、ホストプールに対して選択された必要な設定が適用されます。グローバルデフォルト設定を使用することも、ホストプールごとに設定をカスタマイズすることもできます。

ホストプールのカスタム FSLogix 設定を構成するには:

注記

注: ここで構成した設定は、このプールで新しく作成されたホストまたは再イメージ化されたホストにのみ適用されます。

1. ホストプールのリストに移動し、変更するホストプールを見つけます。
2. その他のオプションの (⋮) をクリックします。
3. 左側のメニューオプションから (FSLogix) を選択します。
4. 次の情報を入力してください:
 - **FSLogix プロファイルを有効にする:** トグルを選択して FSLogix プロファイルを有効にします。

注記

Nerdio Manager このオプションが有効になっていない場合、このホストプールに新しく作成された VM がデプロイされても、は FSLogix プロファイルコンテナアプリケーションをインストールしません。既存の VM には影響しません。

- ドロップダウンリストから既存のプロファイル名を選択します。または、(カスタム) を選択して、このホストプール用のカスタムプロファイルを作成します。

 注記

注: 既存のプロファイルを選択すると、選択したプロファイルの詳細を使用して構成が自動的に入力されます。この内容は編集できません。カスタムを選択すると、必要に応じてプロファイルを構成できます。

- バージョン: ドロップダウンリストから FSLogix のバージョンを選択します。
- Entra ID 参加済みストレージ用にセッションホストのレジストリを構成する:
- ローカル管理者アカウントを FSLogix から除外する:
- ドメインアカウントを FSLogix から除外する:
- FSLogix プロファイルパス (VHDLocation)。
- Microsoft Office ユーザーデータ (ODFC) をリダイレクトするように Office Container を構成する:
 - FSLogix Office Container パス (VHDLocation):
- **Cloud Cache を使用する:** このオプションを選択して FSLogix Cloud Cache を有効にします。

 ヒント

ヒント: パフォーマンス上の理由から、Cloud Cache が有効な場合は、Premium SSD および Ephemeral OS ディスクを使用することを強くお勧めします(標準 SSD ディスクは非常に小規模な環境やテストシナリオでは十分な場合もあります)。

 注記

注: FSLogix Cloud Cache に関する詳細は、以下の Microsoft の記事を参照してください。

Cloud Cache では、複数のプロファイルストレージ場所を指定できます。プロファイルを非同期でレプリケートし、複数のストレージ場所で同時に利用できるようにします。そのため、いずれかの場所が使用できない場合、セッションホストは代替の場所のいずれかに自動的にフェイルオーバーします。

- App Service 設定の管理このオプションを選択して、FSLogix App Service のレジストリ設定を編集します。
- ログ設定の管理このオプションを選択して、ログのレジストリ設定を管理します。
- **FSLogix レジストリオプション:編集モード**のドロップダウンリストから、(すべての設定) または (詳細) のどちらで作業するかを選択します。
 - (すべての設定) の場合:
 - タブから、構成するコンポーネントを選択します。(プロファイル設定)、(ODFC 設定)、(Cloud Cache 設定)、(App Service 設定)、または (ログ設定) から選択します。
 - (構成) 列に設定の値を入力します。たとえば、プロファイル設定を構成するには、(プロファイル設定) タブを選択し、(構成) 列のボックスを選択して設定を入力します。
 - (タブの構成値をクリア) を選択すると、そのコンポーネントのすべての値が (未構成) に設定されます。
 - (すべての構成値をクリア) を選択すると、すべての設定が (未構成) に設定されます。
 - 必要に応じて、(名前で設定を検索) ボックスに設定名または設定名の一部を入力し、設定をフィルターできます。
 - (詳細設定) の場合:
 - DWORD 値を次の形式で追加できます: "ValueName":dword:ValueData (example:"ProfileType"=dword:00000003).
 - 文字列値を次の形式で追加できます: "ValueName":"ValueData" (example:"VolumeType":"vhdx").
- リダイレクトリダイレクト: 顧客間で再利用するためにグローバルプロファイルにリダイレクトを含めたい場合は、この機能を有効にするためにトグルを選択します。

注記

注: 詳細については、「コンテナ—の種類」を参照してください。

- FSLogix アプリがすでにインストールされている場合でも強制的にインストールこのオプションを選択して、FSLogix エージェントとアプリケーションを強制的に再インストールします。
- 既存のホストに適用このオプションを選択して、これらの変更を既存のホストに適用します。それ以外の場合、変更は新しいホストまたは再イメージ化されたホストにのみ適用されます。

- **ホストを処理するグループ単位:** この一括操作で実行する同時実行アクションの数を入力します。
- **中止するまでの失敗回数:** プロセスを停止する失敗の数を入力します。
- **メッセージングメッセージング:** アクティブなユーザーにメッセージを送信するには、この機能を有効にするためにトグルを選択し、次の詳細を入力します:
 - **遅延 遅延:** ドロップダウンリストから、メッセージ送信後にプロセスを開始するまで待機する分数を選択します。
 - **メッセージメッセージ:** ユーザーに送信したいメッセージを入力します。
- **スケジュール:** 選択した時刻に変更を適用するには、トグルを選択してこの機能を有効にし、次の詳細を入力します。
 - **名前 スケジュールの名前を入力します。**
 - **説明スケジュールの説明を入力します。**
 - **開始日:開始日: (開始日)** ボックスを選択し、カレンダーから目的の開始日を選択します。
 - **タイムゾーンタイムゾーン:** ドロップダウンリストから開始時間のタイムゾーンを選択する。
 - **開始時刻 : 開始時間: 時間と分のドロップダウンリストから、開始する時間を選択する。**
 - **繰り返し:繰り返し:** ドロップダウンリストから、必要に応じて繰り返しスケジュールを選択する。

注記

注: ドロップダウンには、(パッチ後の火曜日) のオプションがあります。これにより、(パッチ後の火曜日) に基づいて繰り返しスケジュールを作成できます。

- **経過日数:経過日数:** (パッチ後の火曜日) を選択した場合は、スケジュールされたタスクを実行するパッチチューズデー後の日数を入力します。
5. すべての必要な情報を入力したら、(保存) または (保存して閉じる) を選択します。

関連トピック

[ホストプール \(63\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=HJMLL3ZthPs>

ホストプール内のインストール済みアプリを管理する

Nerdio Manager

注記

注: FSLogix アプリマスキングは、現在 AAD に参加したホストプールのシナリオではサポートされていません。

注記

注: このプロセスは、単にショートカットを隠すだけでは機能しません。実際には、アプリのすべてのコンポーネントが隠されます。例えば、すべてのユーザーから Chrome を隠すルールを作成した場合：

- Program Files 内の Chrome フォルダーは、ユーザーには空であるように見えます。実際には、フォルダーは空ではなく、単にユーザーから隠されています。
- 必要に応じて、Chrome はタスクバーからピン留めが外されます。
- 必要に応じて、Chrome のデスクトップショートカットは削除されます。
- ユーザーは、Cortana で検索する際に Chrome を見つけることができません。

インストールされたアプリを管理するために、以下の手順を実行する必要があります：

- インストールされたアプリの検出と編集ホストプールが作成または再イメージ化されるたびに、検出が自動的に実行されます。さらに、再イメージ化プロセスを通さずに追加された可能性のあるアプリを見つけるために、数日ごとに実行されます。また、検出を手動で実行することもできます。
- ルールセットを作成どのユーザーがどのアプリにアクセスできるかを決めるためのルールセットを作成します。
- **ルールセットをセッションホスト VM に適用する**: 選択したルールセットをすべてのセッションホスト VM に適用します。セッションホストが作成または再イメージ

化されたときに、これを実行するために待つことができます。または、選択したルールセットを手動で即座に適用することができます。

これらの手順については、以下で詳しく説明します。

インストールされたアプリの検出と編集

インストールされたアプリを管理する最初のステップは、インストールされているアプリを検出することです。さらに、Nerdio Manager

インストールされたアプリを検出して編集するには：

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、**アプリ> インストール済みアプリ**を選択します。
3. 最後に検出が行われた日付と時刻に注意してください。

注記

注意: ホストプールが最近作成された場合、検出がまだ行われていないため、検出されたアプリが表示されないことがあります。最大 48 時間待つか、手動で検出を開始する必要があるかもしれません。

4. 必要に応じて、**(nn アプリ)**を選択して、検出されたアプリのリストと追加の詳細を表示します。
5. 必要に応じて、**アプリを検出する**を選択して、手動で検出を行います。
 - 次の情報を入力してください：
 - セッションホスト VM **セッションホスト VM**: ドロップダウンリストから、検出を行うために使用したいセッションホスト VM を選択します。
 - **詳細**を選択して、以下のいずれかを実行します：
 - 必要に応じて、検出されたアプリの名前またはインストールディレクトリ情報を編集します。
 - 全ての希望する情報を入力したら、**(OK)**を選択します。
 - タスクペインで検出プロセスの進行状況を監視します。タスクが完了するまで待ってから続行してください。

 注記

注意: セッションホスト VM の電源がオフの場合、システムは検出実施のために VM の電源をオンにします。

ルールセットを作成

インストールされたアプリを管理する次のステップは、ルールセットを作成することです。本質的には、どのユーザーがどのアプリにアクセスできるかを決定します。

ルールセットを作成するには:

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、**アプリ> インストール済みアプリ**を選択します。
3. **ルールセットを追加**を選択します。
4. 次の情報を入力してください:
 - ルールセット名: ルールセットの名前を入力します。
 - 有効。ルールセットを有効にするには、このオプションを選択します。

 注記

注意: 有効なルールセットのみがホストに適用されます。

- アプリケーション: **アプリ**: ドロップダウンリストから、ルールセットに追加する検出されたアプリを選択します。
 - 必要に応じて、アプリを展開してその詳細を確認します。
 - 必要に応じて、アプリのコンポーネントを編集、追加、または削除します。
 - ルールの種類 **アプリケーションマスキング**: これにより、インストールされたコンポーネントのアクセスを管理できます。
- ルールの種類 **リダイレクト**: これにより、ユーザーまたはグループに基づいてフォルダー、ファイル、レジストリキー、または値を動的に別の場所にリダイレクトできます。例えば、上記のように、営業チーム用に異なるライセンスファイルを使用するアプリを持つことができます。
- ルールの種類 **アプリケーションコンテナ**: これにより、フォルダーを別の接続されたディスクに動的にリダイレクトできます。例えば、上記のように、営業チームのライセンスが含まれている別のドライブにリダイレクトします。

- **すべてのユーザーに適用** **すべてのユーザーに適用**: このオプションが選択されている場合 (既定)、アプリは**ユーザーとグループを除外**フィールドで指定したユーザーのみに利用できます。アプリは隠され、他のユーザーには使用できません。

 注記

- すべてのユーザーでアプリを利用できるようにする場合は、このオプションの選択を解除してください。
- もし特定のユーザーやグループにアクセスを制限する必要がある場合は、**次のユーザーとグループにのみ適用**フィールドにそれらを含めてください。

次のユーザーとグループにのみ適用フィールドは、**すべてのユーザーに適用**オプションが無効になっている場合にのみ使用できます。

- ローカル管理者を除外するこのオプションを選択すると、ローカル管理者グループにはこのルールが適用されません。
 - ユーザーとグループの除外: 許可リストまたはブロックリストから除外するユーザーを選択します。
5. **保存して適用**を選択して、ルールを保存し、すべてのセッションホスト VM に即座に適用します。 **保存して閉じる**を選択して、ルールを保存します。

 注記

注意: 保存して閉じるを選択すると、セッションホストが作成または再イメージ化するときにルールが適用されます。または、必要に応じて後で手動でルールを適用することもできます。

ルールセットの管理と適用

Nerdio Manager を使用すると、ルールセットを管理できます。これには、ルールセットの適用、削除、編集などが含まれます。

ルールセットを管理するには：

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. 操作メニューから、**アプリ> インストール済みアプリ**を選択します。

3. 複数のルールを選択し、一括操作を選択して、選択したルールに対して一括操作を実行できます。
4. 各ルールセットの隣にある操作メニューから、次のことができます:
 - 編集を選択して、ルールセットを編集します。
 - ホストに適用を選択して、ルールセットをすべてのセッションホストに即座に適用します。
 - 無効にするを選択して、ルールセットを無効にします。
 - 削除を選択して、ルールセットを削除します。
 - 割り当てるを選択して、ルールセットの割り当てを変更します。
5. さらに、次のことができます:
 - アプリを検出するを選択して、アプリケーション検出プロセスをすぐに開始します。
 - ルールセットを追加するを選択して、新しいルールセットを追加します。(上記を参照)
 - すべてのルールセットを適用するを選択して、すべてのセッションホストにすべてのルールセットをすぐに適用します。

ルールセットを適用するには :

1. ホストに適用する (単一のルールまたは選択したルールの場合) またはすべてのルールセットを適用する (すべてのルールの場合) を選択します。
2. 次の情報を入力してください:
 - 適用方法 : ドロップダウンリストから、ルールセットの適用方法を選択します。
 - ホスト上の既存の FSLogix ルールセットをすべてクリアする : このオプションを選択して、このルールセットを適用する前にホスト上のすべての FSLogix ルールセットをクリアします。
 - ホスト上の Nerdio Manager 作成されたルールセットのみをクリアする : このオプションを選択して、このルールセットを適用する前にホスト上の Nerdio Manager によって作成されたすべてのルールセットをクリアします。
 - ルールセットをクリアせず、適用中のルールセットのみを上書きする : このオプションを選択すると、既存のルールセットはすべてそのまま残り、適用中のルールセットのみが上書きされます。
 - ホストを処理するグループ単位: この一括操作で実行する同時実行アクションの数を入力してください。
 - 中止するまでの失敗回数: プロセスを停止する失敗の数を入力してください。
 - メッセージングメッセージングをオンにして、アクティブユーザーにメッセージを送信します。

- 遅延 遅延: ドロップダウンリストから、メッセージ送信後にプロセスを開始するまで待機する分数を選択します。
 - メッセージメッセージ: ユーザーに送信したいメッセージを入力します。
3. すべての希望する情報を入力したら、OK を選択します。

ルールセットの適用プロセスが開始されます。

ルールセットをエクスポート...

Nerdio Manager

ルールセットをエクスポート：

1. 作業したいホストプールを見つけます。
2. アクションメニューから、アプリケーション> インストール済みアプリケーションを選択します。
3. エクスポートするルールセットを選択します。
4. 一括操作を選択するアクションメニューから、ルールセットをエクスポートを選択します。
5. 次の情報を入力してください。
 - エクスポート先ドロップダウンリストからエクスポート先を選択します。

注記

注意：JSON ファイルにエクスポートする際、ファイルはブラウザーの既定のダウンロードフォルダーにダウンロードされます。

- 宛先ホストプールホストプールにエクスポートする際、ドロップダウンリストからホストプールを選択します。
6. すべての希望する情報を入力したら、OK を選択します。

ルールセットのエクスポートプロセスが開始されます。

ルールセットをインポート...

Nerdio Manager

ルールセットをインポート：

1. 作業したいホストプールを見つけます。

2. アクションメニューから、**アプリケーション> インストール済みアプリケーション**を選択します。
3. **ルールセットを追加する**アクションメニューから、**ルールセットをインポート**を選択します。
4. 次の情報を入力してください：
 - インポート元ドロップダウンリストからインポート場所を選択します。
 - ホストプール**ホストプール**: ホストプールからインポートする場合、ドロップダウンリストからホストプールを選択します。
 - JSON ファイル **JSON ファイル**からインポートする際は、**ファイル**を選択します。
 - インポートされたルールセットを有効化するインポート後にルールセットをアクティブ化するには、このオプションを選択します。
5. 必要な情報をすべて入力したら、**(インポート)**を選択します。

ルールセットのインポートプロセスが開始されます。

ステップ 6:MSIX App Attach

次のステップは、イメージに直接インストールすることなくセッションホストにアプリケーションを配信するための Nerdio Manager の手法である **MSIX App Attach** を構成することです。

MSIX App Attach イメージは、1 つ以上の展開された MSIX パッケージを保持する拡張コンテナ (VHD、VHDX、または CIM ファイル) です。Nerdio Manager はこれらのイメージをホストプール内のセッションホストにマウントし、ユーザーがサインインするとすぐにパッケージ化されたアプリケーションを利用できるようにします。

このセクションでは:

1. [App Attach イメージとパッケージを管理する \(182\)](#)
2. [App Attach アサインの管理 \(189\)](#)
3. [App Attach 用の Azure Files アクセス許可を構成する \(192\)](#)

App Attach イメージとパッケージの管理

Nerdio Manager を使用すると、App Attach イメージとパッケージを管理できます。

サンプルワークフロー

以下はサンプルワークフローです。

- App Attach イメージを Nerdio Manager 管理対象イメージライブラリにアップロードします。[App Attach イメージファイルをアップロードする \(184\)](#)および[MSIX パッケージファイルをアップロードする \(185\)](#)を参照してください。
- Nerdio Manager 管理対象イメージライブラリ内の App Attach イメージを、Azure の App Attach パッケージとして追加します。[App Attach パッケージウィザードを使用する \(186\)](#)を参照してください。

注記

App Attach パッケージウィザードを使用すると、ホストプール内のユーザーとグループを App Attach パッケージにアサインすることができます。

- 必要に応じて、イメージバージョンを管理できます。[アプリの新しいバージョンをアップロードする \(188\)](#)および[Nerdio App Attach イメージバージョンを管理する \(189\)](#)を参照してください。
- 必要に応じて、割り当てを管理できます。[App Attach の割り当てを管理する \(189\)](#)を参照してください。

サンプル VHD(X)パッケージと証明書

開始にあたり、テスト目的で AVD 環境にダウンロードしてすぐに使用できる、一般的なアプリケーション用の VHD(X)パッケージをいくつか作成しました。

注記

これらのパッケージは、本番環境での使用を目的としたものではありません。これらは概念実証テストに使用してください。

Google Chrome

- [VHD ファイル MSIX パッケージ](#)
- [MSIX ファイル](#)

Mozilla Firefox

- [VHD](#) ファイル MSIX パッケージ
- [MSIX](#) ファイル

Notepad++

- [VHD](#) ファイル MSIX パッケージ
- [MSIX](#) ファイル

PuTTY

- [VHD](#) ファイル MSIX パッケージ
- [MSIX](#) ファイル

VLC

- [VHD](#) ファイル MSIX パッケージ
- [MSIX](#) ファイル

証明書

- 証明書は[こちら](#)からダウンロードできます。
- 証明書はすべてのパッケージで共通です。

App Attach イメージファイルをアップロードします

Nerdio Manager 管理対象のイメージライブラリに VHD/VHDX/CIM イメージをアップロードできます。

イメージをアップロードするには：

1. **アプリケーション > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **Nerdio App Attach Images** エリアを選択します。
3. **イメージのアップロード** を選択します。
4. 次の情報を入力してください：
 - フレンドリ名:イメージリストに表示する名前を入力します。
 - 説明説明を入力します。
 - バージョンアップロードするイメージのバージョン番号を入力します。これは一意である必要があります。
 - **ストレージの場所**：ドロップダウンリストから、AD 統合 Azure Files ファイル共有内のリンクされたアプリのストレージの場所を選択します。

 注記

- App Attach は Entra Domain Services をサポートしていません。これは Active Directory Domain Services (ADDS)である必要があります。
 - Entra ID で App Attach を機能させるには、**Entra ID ホストサポート**を有効にする必要があります。**ストレージ > Azure Files > ストレージアカウントの管理**に移動します。
- **イメージファイル**: MSIX インストーラーから展開された App Attach アプリケーションを含む VHD(X)/CIM ファイルを選択するか、App-V パッケージのファイルをアップロードしてください。
 - **証明書 (.cer)ファイル**: 証明書ファイルを選択してください。

 注記

パッケージの作成に使用した証明書は、すべてのセッションホスト VM にインストールされている必要があります。自己署名証明書を使用してパッケージを作成した場合は、ここにアップロードしてください。自動的にインストールされます。または、デスクトップイメージに証明書をインストールし、セッションホスト VM を再イメージ化することもできます。

5. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

イメージが Nerdio Manager にアップロードされます。

MSIX パッケージファイルをアップロードする

イメージを含む VHD/VHDX/CIM をまだお持ちでない場合は、Nerdio Manager から MSIX ファイルをアップロードすると、Nerdio Manager が自動的に VHD ファイルを作成します。VHD イメージが Nerdio Manager 管理対象イメージライブラリに追加されます。

MSIX パッケージファイルをアップロードするには：

1. **アプリケーション > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **Nerdio App Attach Images** エリアを選択します。
3. **MSIX アプリをアップロード**を選択します。

4. 次の情報を入力してください：

- **イメージ名**：イメージの名前を入力してください。
- **ストレージの場所**：ドロップダウンリストから、App Attach アプリケーションが保存されているストレージの場所を選択します。

 注記

- ストレージの場所は、アプリにアクセスするセッションホスト VM と同じ Azure リージョンにある必要があります。
- **Premium** および **Core** エディションでのみ、最初を選択された場所がプライマリと見なされます。プライマリの場所には、アプリケーションのすべてのバージョンが含まれています。

- **MSIX ファイル**:MSIX ファイルを選択します。
- **証明書 (.cer)ファイル**：必要に応じて、証明書ファイルを選択します。

 注記

MSIX アプリを VHDX コンテナに展開するために、操作を実行するためのテンポラリ VM が作成され、その後削除されます。テンポラリ VM の構成は、Nerdio Manager に任せることをお勧めします。それ以外の場合は、**高度な設定を表示**を選択して、テンポラリ VM の詳細を指定します。

5. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

MSIX ファイルがアップロードされ、Nerdio Manager が VM を作成してファイルを VHDX イメージにパッケージ化するプロセスを開始します。

App Attach パッケージウィザードを使ってください。

App Attach パッケージウィザードは、選択した App Attach イメージを Nerdio Manager が管理するイメージライブラリに、Azure の App Attach パッケージとして追加します。さらに、指定したホストプール内のすべての目的のユーザーおよびグループにパッケージを割り当てることができます。

App Attach パッケージウィザードを使用するには:

1. **アプリケーション > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **App Attach パッケージエリア**を選択します。

3. **+ App Attach** パッケージを選択してください。
4. または、**Nerdio App Attach** イメージエリアから、次のアクションを実行します。
 - 作業するイメージを特定します。
 - アクションメニューから、**パッケージウィザード**を選択します。
5. App Attach ウィザードに情報を入力します。
6. イメージエリアで、次の情報を入力します。
 - **イメージソース**: ドロップダウンリストから、イメージソースを選択してください。
 - **App Attach イメージ**: ドロップダウンリストからアプリを選択します。
 - **イメージバージョン**: ドロップダウンリストから、アプリケーションイメージのバージョンを選択してください。
 - **一時レプリカ**: ドロップダウンリストから、選択した App Attach イメージからメタデータを抽出するために使用するバージョンレプリカを選択してください。
 - **一時ホストプール**: ドロップダウンリストから、イメージを展開するために使用する一時ホストプールを選択してください。

注記

- 選択した App Attach イメージからメタデータを抽出するためのプロキシとして、一時ホストプールが必要です。プール構成に変更は加えられず、どのホストプールでも使用できます。ただし、ベストプラクティスとして、専用の App Attach プールを作成することをお勧めします。続行するには、プール内で少なくとも 1 つのデスクトップが実行されている必要があります。
- 一時ホストプールは、イメージを展開し、そのイメージが有効かどうかをテストするためにも使用されます。

7. **パッケージ**エリアで、以下の情報を入力してください：
 - **リソースグループ**: ドロップダウンリストから、**App Attach** パッケージを作成するリソースグループを選択してください。

注記

このリソースグループは、プール割り当てと同じリージョンにある必要はありませんが、ベストプラクティスとしてお勧めします。

- **パッケージ**: ドロップダウンリストから、選択したホストプール上のユーザーが利用できるようにする MSIX パッケージを 1 つ以上選択してください。
8. **割り当てエリア**で、以下の情報を入力してください：
 - **ホストプール**: ドロップダウンリストから、選択したリソースグループのサブスクリプション内で、パッケージに割り当てられているホストプールを 1 つ以上選択してください。
 - **ユーザーとグループ**: ドロップダウンリストから、選択したパッケージに含まれるアプリを実行できる権限のあるユーザーとグループを選択してください。
 9. **概要**エリアで、選択内容を確認してください。
 10. 希望する設定をすべて確認したら、**実行**を選んでください。

App Attach ウィザードのタスクが開始されます。タスクの進行状況は、**タスク**ウィンドウで確認できます。

アプリの新しいバージョンをアップロードする

Nerdio Manager を使用すると、アプリの複数のバージョンを持つことができます。そのため、必要に応じてアプリの新しいバージョンをアップロードできます。

アプリの新しいバージョンをアップロードするには:

1. **アプリケーション > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **Nerdio App Attach Images** エリアを選択します。
3. 作業するイメージを特定します。
4. **アクション**メニューから、**バージョンをアップロード**を選択します。
5. 次の情報を入力してください。
 - **バージョンアップロードするイメージのバージョン番号**を入力します。これは一意である必要があります。
 - **ストレージの場所**: App Attach アプリを格納するストレージの場所を選択します。

注記

ストレージの場所は、アプリにアクセスするセッションホスト VM と同じ Azure リージョンにある必要があります。

- **イメージファイル**: ドロップダウンリストからアプリを選択します。
- **証明書 (.cer) ファイル**: 必要に応じて、証明書ファイルを選択します。

 注記

パッケージの作成に使用した証明書は、すべてのセッションホスト VM にインストールされている必要があります。自己署名証明書を使用してパッケージを作成した場合は、ここにアップロードしてください。自動的にインストールされます。または、デスクトップイメージに証明書をインストールし、セッションホスト VM を再イメージ化することもできます。

6. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

Nerdio App Attach イメージバージョンを管理する

Nerdio Manager を使用すると、イメージバージョンを管理できます。これには、新しいイメージのアップロード、保存場所の変更、または目的のバージョンでのホストプールの更新が含まれます。

イメージバージョンを管理するには:

1. **Applications > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **Nerdio App Attach Images** エリアを選択します。
3. 作業するイメージを特定します。
4. **Image versions** アイコンを選択します。 
5. 既定として設定するイメージバージョンを特定します。
6. イメージバージョンに対して、以下のいずれかの操作を実行します。
 - **Update host pools** アイコン  を選択して、割り当てられたホストプールを選択したバージョンで更新します。
 - アクションメニューから **Change storage locations** を選択し、イメージの保存場所を変更します。
7. または、+ **Upload new version** を選択して、新しいバージョンをアップロードします。

関連トピック

[App Attach の割り当てを管理する \(189\)](#)

App Attach の割り当てを管理する

Nerdio Manager を使用すると、ホストプール内のユーザーとグループを App Attach パッケージに割り当てることができます。割り当てを実行するには、事前に

App Attach イメージをアップロードし、App Attach パッケージを追加しておく必要があります。詳細については、[Manage App Attach images and packages \(182\)](#) を参照してください。

注記

これらの割り当ては、App Attach パッケージウィザードを使用して実行できます。詳細については、[Manage App Attach images and packages \(182\)](#) を参照してください。

MSIX App Attach パッケージをホストプールに追加する

MSIX App Attach パッケージをホストプールに割り当てることができます。

警告

MSIX App Attach は非推奨です。この機能に対する Microsoft からの今後のアップデートはありません。すべての新しいパッケージは App Attach として作成することをお勧めします。

MSIX App Attach パッケージをホストプールに追加するには:

1. アプリを割り当てるホストプールを特定します。
2. その他のアクションメニュー  アイコンから、**アプリケーション > カタログ > App Attach** を選択します。
3. **App Attach** ウィンドウが表示されたら、その他のアクションメニュー  アイコンから **MSIX App Attach パッケージの追加** を選択します。
4. 次の情報を入力してください。
 - **イメージソース:** ドロップダウンリストから、MSIX パッケージを含むイメージの場所を選択します。

 注記

イメージは、Nerdio Manager のイメージライブラリ、またはセッションホスト VM がアクセスできる SMB ファイル共有に格納できます。Nerdio Manager を使用して MSIX イメージをアップロードまたは作成した場合は、**イメージライブラリ**を選択します。

- **MSIX App Attach イメージ**: ドロップダウンリストから、MSIX App Attach イメージを選択します。
- **イメージバージョン**: ドロップダウンリストから、ホストプールに追加するイメージのバージョンを選択します。
- **パッケージ**: ドロップダウンリストから、このホストプール上のユーザーが利用できるようにする、イメージ内の 1 つ以上の MSIX パッケージ/アプリを選択します。

5. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

ホストプール内のユーザーおよびグループに App Attach パッケージを割り当てる

ホストプール内のユーザーとグループにパッケージを割り当てることができます。

App Attach パッケージをユーザーとグループに割り当てるには:

1. **アプリ > カタログ > App Attach** に移動します。
2. **App Attach パッケージ** エリアを選択します。
3. 操作する App Attach パッケージを見つけます。
4. **割り当てアイコン**を選択します。 
5. 次の情報を入力してください:
 - **ユーザーとグループ**: ドロップダウンリストから、パッケージを割り当てるユーザーとグループを選択します。

 注記

ユーザーまたはグループを指定する必要があります。

- **ホストプール**: ドロップダウンリストから、パッケージを割り当てるホストプールを選択します。

6. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

App Attach パッケージをホストプールに割り当てる

App Attach パッケージをホストプールに割り当てることができます。

アプリをホストプールに割り当てるには:

1. アプリを割り当てるホストプールを見つけます。
2. その他のアクションメニュー  アイコンから、**アプリ > カタログ > App Attach** を選択します。
3. **App Attach** ウィンドウが表示されたら、**App Attach パッケージの割り当て** を選択します。
4. 次の情報を入力してください：
 - App Attach パッケージドロップダウンリストから App Attach パッケージを選択します。
5. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

App Attach の Azure Files アクセス許可を構成する

Nerdio Manager は、Azure Files 共有テクノロジーを活用して、App Attach パッケージと関連するメタデータを格納します。既存の Azure Files 共有を使用するか、Nerdio Manager を使用して新しい共有を作成できます。

注記

Azure Files 共有を Nerdio Manager の App Attach 用ストレージ場所として使用するには、Active Directory に統合されている必要があります。

Azure Files 共有を作成し、AD ドメインに参加させたら、共有のセキュリティ設定を設定して、セッションホストとユーザーが App Attach パッケージの内容を読み取れるようにする必要があります。Azure Files では、セキュリティ設定は次の場所で設定されます。

Azure Files アクセス

NTFS Permissions

これらの場所では、セッションホスト VM コンピューターとアプリケーションを使用するユーザーの両方に、少なくとも **読み取り** アクセスが必要です。既定では、新しく作成された Azure Files 共有の NTFS 権限には、必要な設定が既に適用されています。ただし、Azure Files 共有のアクセス制御は引き続き構成する必要があります。

セッションホスト VM に Azure Files 共有へのアクセスを付与するには：

1. Active Directory で、ADConnect を使用して Entra ID に同期されている OU に新しいグローバル セキュリティ グループを作成します。
2. 新しいグループに **Domain Computers** と **Domain Users** を追加します。
3. Azure ポータルで Azure Files 共有を見つけ、**アクセス制御** に移動します。
4. 新しいセキュリティ グループに「ストレージ ファイル データ SMB 共有の読み取り」ロールを追加します。

注記

新しいグループが Entra ID で利用可能になるまで、次の同期サイクルまで待機する必要がある場合があります。

注記

最終的な結果として、すべてのドメイン ユーザーおよびコンピューターから Azure Files 共有への読み取り専用アクセスが可能になります。上記の手順は、組織のセキュリティポリシーに合わせて自由にカスタマイズしてください。

ステップ 7:でのロールベースのアクセス制御 (RBAC)

最後のステップは、**ロールベースのアクセス制御 (RBAC)** を構成することです。これにより、チーム内の適切な担当者が、フル管理者から特定のタスクを実行する必要があるだけのヘルプデスクまで、Nerdio Manager への適切なレベルのアクセスを持つようになります。

このセクションでは:

1. [Nerdio Manager におけるロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) \(194\)](#)

2. [でのロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) カスタムロール \(197\)](#)
3. [でのロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) 複数のグループアサイン \(200\)](#)

Nerdio Manager

注記

Nerdio Manager Entra ID には、エンタープライズアプリの所有者ロールが直接ユーザーにのみ自動的に割り当てられ、Nerdio Manager

ロールベースのアクセス制御 (RBAC) を使うと、組織内のユーザーが Nerdio Manager

以下のロールが利用可能です:

- **AVD 管理者:** AVD 管理者: AVD 管理者ロールを持つユーザーは、Nerdio Manager
- **デスクトップ管理者:** デスクトップ管理者: デスクトップ管理者ロールを持つユーザーは、ユーザーセッションへの完全なアクセス権、ホストプールの表示、セッションホストの電源オン/オフ/再起動を行う権限を持ちますが、ホストの追加/削除やホストプール設定の変更はできません。このロールは、デスクトップイメージおよび Scripted Actions への完全なアクセスも許可します。
- **ヘルプデスク:** ヘルプデスク: ヘルプデスクロールを持つユーザーは、ユーザーセッションを管理するためのアクセス権のみを持ちます。
- **レビュー担当者:** レビューアー: レビューアーロールを持つユーザーは、Nerdio Manager
- **エンドユーザー:** エンドユーザー: エンドユーザーロールを持つユーザーは、自分のセッションを表示および管理できます (メッセージ、サインアウト、切断)。個人デスクトップユーザーは、自分のデスクトップを再起動したり、電源をオンまたはオフしたりできます。

カスタムロールに関する詳細は、[ロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) カスタムロール \(197\)](#)を参照してください。

関連動画

<https://fast.wistia.net/embed/iframe/e1e4p9ff5r?seo=false&videoFoam=true>

ユーザーとロールの管理

Nerdio Manager

RBAC ロールの割り当てを表示するには:

- システム > **RBAC** > **割り当て** に移動します。ユーザーのリストとその RBAC ロールの割り当てが表示されます。

注記

- 上部の検索セクションでは、名前、ユーザー名、ロール、ワークスペースなどのさまざまなフィールドで検索できます。
- システムでは、1 ページに最大 1,000 行を表示できます。これは、数百または数千に及ぶことが多いエンドユーザーのリストを確認する際に特に便利です。
- **編集** の横にある下矢印を選択して、アクションメニューを表示します。

ユーザーをロールに追加する

ユーザーをロール/ワークスペースに追加できます。

:

1. システム > **RBAC** > **割り当て** に移動します。
2. 次の操作を行います:

新しい割り当て を選択します。

3. **ロールの追加** ダイアログボックスで、次の情報を入力します:
 - **ロール**: ドロップダウンリストからロールを選択します。
 - **ユーザー/グループ**: ドロップダウンリストからアクセスを許可するユーザーまたはグループを選択します。
 - **AVD テナント**: ドロップダウンリストから、アクセスを許可する AVD テナントを選択します。
 - **ワークスペース**: ワークスペースロールの場合、ドロップダウンリストから、ユーザーにアクセスを許可するワークスペースを選択します。

- **イメージイメージ:** デスクトップイメージロールの場合、ドロップダウンリストから、ユーザーにアクセスを許可するデスクトップイメージを選択します。
 - **ホストプールホストプール:** ホストプールロールの場合、ドロップダウンリストから、ユーザーにアクセスを許可するホストプールを選択します。
4. すべての希望する情報を入力したら、**OK** を選択します。

 注記

- 変更はタスクとしてログに記録されます。タスクのステータスを確認して、タスクが正常に完了したことを確認できます。
- アクセス権が付与されると、ユーザーは Entra ID のユーザー名とパスワードを使用して Nerdio Manager

ユーザーのロールを編集する

ユーザーのロールや、ユーザーがアクセスできるワークスペースを変更できます。

:

1. システム > RBAC > 割り当て に移動します。
2. 次の操作を行います:



3. 変更を行ったら、(OK) を選択します。

 注記

変更はタスクとしてログに記録されます。タスクのステータスを確認して、タスクが正常に完了したことを確認できます。

ユーザーのアクセスを削除する

ユーザーのアクセスを削除することで、Nerdio Manager にアクセスできないようにできます。

:

1. システム > RBAC > 割り当て に移動します。
 - 次の操作を行います:

2. 確認ウィンドウで、(OK) を選択します。

注記

変更はタスクとしてログに記録されます。タスクのステータスを確認して、タスクが正常に完了したことを確認できます。

でのロールベースのアクセス制御 (RBAC) カスタムロール

Nerdio Manager

カスタムロール定義を作成するには:

1. システム > RBAC > 定義 に移動します。
2. (新しい定義) を選択します。
3. 次の情報を入力してください。
 - 名前 カスタムロールの名前を入力します。
 - 説明 カスタムロールの説明を入力します。
 - モジュール適用可能なすべてのモジュールとモードを選択します。

表 1

モジュール	モード
オブザーバビリティ	
インサイト	- 読み取り専用 読み取り専用: ユーザーに Insights ダッシュボードへの読み取り専用アクセスを提供します。 - 管理
Observability > Advisor > Modeler	- 読み取り専用 - 管理
Observability > Advisor > 推奨事項	- 読み取り専用 - 管理
Observability > Advisor > ルール	- 読み取り専用 - 管理
AVD とセッション	

モジュール	モード
ワークスペース	- 読み取り専用 - 管理 - ホストの管理ユーザーがアサインされたホストプール内のホストを管理できるようにします。 - 割り当ての管理ユーザーが割り当てられたホストプール内の割り当てを管理できるようにします。 - セッションの管理ユーザーが割り当てられたホストプール内のセッションを管理できるようにします。 - 電源状態の管理ユーザーが割り当てられたホストプール内のセッションの電源状態を管理できるようにします。 - ドレインモードの管理ユーザーが割り当てられたホストプール内のセッションのドレインモードを管理できるようにします。 - スクリプトアクションの実行ユーザーが割り当てられたホストプール内で Scripted Actions を実行できるようにします。 - Console Connect オペレーターユーザーが Console Connect 役割を管理できるようにします。
デスクトップイメージ	- 読み取り専用 - 管理
App Attach	- 読み取り専用 - 管理
ポータル	管理
エンドポイント管理	
Intune (グローバルロール)	- 読み取り専用 - 管理
Intune (読み取り専用ロール)	- デバイスの読み取り - ポリシーの読み取り - アプリケーションおよびアプリケーションポリシーの読み取り - 更新リングおよびポリシーの読み取り - スクリプトの読み取り - BitLocker の読み取り - ウイルス対策の読み取り - ユーザーエクスペリエンスの読み取り - ユーザーグループの読み取り - デバイス位置情報の読み取り - 承認の読み取り

モジュール	モード
Intune (管理ロール)	• デバイスの管理 • 特権デバイスの管理 • BitLocker の管理 • ウイルス対策の管理 • デバイスグループの管理 • ユーザーグループの管理 • デバイス位置情報の管理 • ポリシーの管理 • アプリケーションおよびアプリポリシーの管理 • 更新リングとポリシーの管理 • Console Connect オペレーター • 承認の管理 • スクリプトの管理 • Microsoft ライセンスの管理
(Intune) > (Windows 365)	• 読み取り専用 • 管理
アプリ管理 (UAM)	
(UAM) > (デプロイメントポリシー)	• 読み取り専用 • 管理
(UAM) > (App Groups)	• 読み取り専用 • 管理
UAM > 統合カタログ	• カタログの読み取り • カタログの管理ユーザーが UAM 統合カタログを管理し、アプリのインポートやデプロイするなどのタスクを実行できるようにします。 • Shell Apps のパラメータの管理ユーザーが Shell App パラメータを管理できるようにします。
自動化	
スクリプトアクション	• 読み取り専用 • 管理
Scripted Sequences	• 読み取り専用 • 管理
Scripted Sequences > 実行	• 読み取り専用 • 管理
タスクワーカー分析	• 読み取り専用 • 管理
ストレージ	
Cloud Desktop > ストレージ > Azure Files	• 読み取り専用 • 管理 • プロファイルの管理プロファイルの管理: アクティブなユーザーセッションがなくても、ファイル共有にフルコントロールを付与せずに FSLogix プロファイルを管理できます。

モジュール	モード
Cloud Desktop > ストレージ > Azure NetApp Files	- 読み取り専用 - 管理
Cloud Desktop > ストレージ > Log Analytics	- 読み取り専用 - 管理
操作	
監視	読み取り専用
ログ	読み取り専用
移行	- 読み取り専用 - 管理
セキュア変数	- 読み取り専用 - 管理 - シークレットを表示

4. すべての希望する情報を入力したら、OK を選択します。

注記

注意: 定義のリストからカスタムロールを編集または削除できます。

詳細については、「[Nerdio Manager におけるロールベースのアクセス制御 \(RBAC\)](#)」を参照してください。

でのロールベースのアクセス制御 (RBAC) 複数のグループ割り当て

組み込みアカウントのいずれかを使用する場合、Nerdio Manager のアプリケーションへの個々のユーザーまたはグループの割り当てによって制御されます。Nerdio Manager

ユーザーが複数のグループメンバーシップを通じて Nerdio Manager

Nerdio Manager

注記

Nerdio Manager ここで説明している動作は、の新規インストール時のデフォルトの動作です。既存のインストールで累積 RBAC 機能を利用する場合は、App Service 設定 Features:CumulativeRbac の値を True に設定して、この機能を有効にする必要があります。

Nerdio Manager

割り当てられたロール内で競合がある場合は、より高い権限の割り当てが適用されます。カスタムロールを通じてユーザーやグループに割り当てる権限が、組織のセキュリティ要件を満たすか、上回っていることを確認してください。

注記

注:複数の直接割り当てはサポートされていません。単一の直接割り当ては、複数の **間接 (グループ)** 割り当てと組み合わせることができます。この新機能は、**アプリ内で定義されたカスタムロールにのみ適用されます。組み込みロールは、この新機能の対象外です。**

コア権限割り当ての原則

以下は、Entra ID を通じて権限の割り当てがどのように適用され、Nerdio Manager

- ユーザーは、特定のロールとワークスペースの組み合わせでアプリケーションに直接割り当てられることも、アプリケーションに割り当てられたグループの直接メンバーになることもできます。ユーザーおよびグループメンバーとしての割り当てがサポートされています。
- Entra ID アプリケーションに割り当てられたグループのネストされたグループのメンバーは考慮されません。これは Entra ID の制限です。詳細については、この [Microsoft の記事](#) を参照してください。
- Nerdio Manager

追加の原則

- Nerdio Manager
- 直接ユーザー割り当ては、最優先と見なされます。したがって、Nerdio Manager

シナリオ例

- ユーザーのアカウントは、**ABC-ADM グループ**および **DEF-ADM グループ**のメンバーです。
- **ABC-ADM グループ**は、グループ **XYZ-NerdioSupport-Admin** の下にネストされています。

- **ABC-ADM グループ**は、 Nerdio Manager
 - **DEF-ADM グループ**は、 Nerdio Manager
 - **XYZ-NerdioSupport-Admin** は、 Nerdio Manager
1. ネストされたメンバーシップは影響しません。したがって、Entra ID の観点では、**ABC-ADM グループ**が **XYZ-NerdioSupport-Admin** のメンバーであるとは見なされません。**XYZ-NerdioSupport-Admin** グループの直接メンバーであるユーザーのみが考慮されます。ユーザーは **XYZ-NerdioSupport-Admin** の直接メンバーではないため、ワークスペース C または D にはアクセスできません。
 2. ユーザーは **ABC-ADM グループ**と **DEF-ADM グループ**の両方の直接メンバーであり、どちらのグループもカスタムロール、つまり Entra ID 上は同じ権限階層に割り当てられているため、ユーザーの実効権限は、**ABC-ADM グループ**と **DEF-ADM グループ**に割り当てられた権限の累積合計になります。

機能制限

この累積 RBAC 機能の初期リリースには、いくつかの機能制限があります。これらは、可能な場合は今後対応される予定です。

- この機能では組み込みロールはサポートされていません。カスタムロールのみが使用可能です。
- この機能では、個別の割り当て間でワークスペースモジュールへの異なるアクセスレベルを混在させることはできません。たとえば、ワークスペースモジュールではグローバルに 1 つのアクセスレベルのみがサポートされるため、個別の割り当て間でワークスペースモジュールの「ホストの管理」権限と「セッションの管理」権限を混在させることはできません。
- フルアクセスのユーザーインターフェイスが設定された制限と競合するため、スコープを特定のワークスペースに制限している場合でも、制限付き権限とフルアクセスを混在させることはできません。
- 読み取り専用のユーザーインターフェイスが設定された制限と競合するため、スコープを特定のワークスペースに制限している場合でも、制限付き権限と読み取り専用を混在させることはできません。
- サポートされる最大割り当て数は 10 です。追加の割り当てはフィルタリングされます。

Nerdio Manager

このセクションでは、ユーザーが v6.4 以前の異なるグループのメンバーである可能性がある状況について説明します。これらのいくつかは直接の割り当てまたはネストされたグループの割り当てである可能性があります。

- グループは異なるカスタムロールに割り当てられています。例えば、2つの割り当てが異なるカスタム権限を持つワークスペース A へのアクセスを付与し（つまり、同じワークスペース）、1つの割り当てがワークスペース B、C、D へのアクセスを付与します。
- ユーザーがサインインすると、ワークスペース A のみが表示されます。ワークスペース B、C、D は表示されません。
- 実際には、ユーザーがすべてのワークスペース (A、B、C、D) にアクセスできるようにしたいのです。

コア権限割り当ての原則

以下は、Entra ID を通じて権限の割り当てがどのように適用され、Nerdio Manager

- Entra ID アプリケーションへのユーザー割り当てでは、ネストされたグループメンバーシップはサポートされていません。つまり、ユーザーは、特定のロールとワークスペースの組み合わせでアプリケーションに直接割り当てられるか、アプリケーションに割り当てられたグループの直接メンバーである必要があります。ユーザーおよびグループメンバーとしての割り当てはサポートされていますが、Nerdio Manager
- Entra ID アプリケーションに割り当てられたグループのネストされたグループのメンバーは考慮されません。これは Entra ID の制限です。詳細については、この [Microsoft の記事](#) を参照してください。
- Nerdio Manager

追加の原則

- Nerdio Manager で作成されたすべてのカスタムロールは、Entra ID のロール権限の観点から同じ階層と見なされます。Nerdio Manager は、最も権限の強い組み合わせへのアクセスを有効にするために権限をマージまたは統合することはできません。
- すべての権限を有効にするカスタムロールと、単一の権限のみを含む 2 つ目のロールがあったとしても、どちらもカスタムロールと見なされるため、Azure アプリケーションの観点では同じ階層で同等と見なされます。
- 直接ユーザー割り当ては、最優先と見なされます。したがって、Nerdio Manager

シナリオ例

- ユーザーのアカウントは、**ABC-ADM グループ**および **DEF-ADM グループ**のメンバーです。
- **ABC-ADM グループ**は、グループ **XYZ-NerdioSupport-Admin** の下にネストされています。

- **ABC-ADM グループ**は、 Nerdio Manager
 - **DEF-ADM グループ**は、 Nerdio Manager
 - **XYZ-NerdioSupport-Admin** は、 Nerdio Manager
1. ネストされたメンバーシップは影響しません。したがって、Entra ID の観点では、**ABC-ADM グループ**が **XYZ-NerdioSupport-Admin** のメンバーであるとは見なされません。**XYZ-NerdioSupport-Admin** グループの直接メンバーであるユーザーのみが考慮されます。ユーザーは **XYZ-NerdioSupport-Admin** の直接メンバーではないため、ワークスペース C または D にはアクセスできません。
 2. ユーザーは **ABC-ADM グループ**と **DEF-ADM グループ**の両方の直接メンバーであり、どちらのグループもカスタムロールに割り当てられているため（つまり、Entra ID 上は同じ権限階層に属するため）、ユーザーの実効権限は、それらのグループが割り当てられているワークスペースやプールのいずれかになります。この例では、ワークスペース A またはワークスペース B のいずれかです。
 3. 通常、割り当てはアルファベット順に行われますが、Entra ID によってどのように解釈されるかについての公式な定義はありません。したがって、ある日は、ユーザーに **ABC-ADM グループ**によって有効化されたワークスペース A が表示される可能性があります。別の日には、ユーザーに **DEF-ADM グループ**によって有効化されたワークスペース B が表示される可能性があります。Entra ID が評価を行い、そのグループに基づいてユーザーに Nerdio Manager へのアクセスを提供します。Nerdio Manager は、特定のグループのメンバーがサインインしたことを確認し、それに応じて権限を付与するだけです。

注記

Nerdio Manager これは、において、例えばワークスペース A に対して、異なるグループが割り当てられ、それぞれに異なるカスタムロール定義が適用される場合にも当てはまります。一方の割り当てでは特定のホストプールセットに権限が付与され、もう一方のグループでは別のホストプールセットが割り当てられている可能性があります。

すべてのカスタムロールが同等の階層にあるため、ユーザーに表示される特定のホストプールは、 Nerdio Manager

推奨事項

ヒント

ヒント:明確で一貫したエクスペリエンスを確保するために、必ず以下の推奨事項に従ってください。

- オプション オプション #1: ユーザーに Nerdio Manager

注記

注:Entra ID が評価するグループを複数持たないようにすることで、単一の正しい割り当てのみが適用されます。

- オプションオプション #2: ユーザーのアカウントをグループメンバーシップとしてではなく、カスタムロールに直接明示的に割り当て、権限を持つべきすべてのワークスペースへのアクセスを付与します。

注記

注:単一の直接割り当てにすることで、必要な権限が正確に適用されます。

ヒント

ヒント:どちらの解決策も機能しますが、オプション #1 の使用をお勧めします。これにより、多数の個別ユーザーによって権限リストが肥大化するのを防ぐことができます。